3-062-114-**03** (1)

SONY®

デジタル ビデオカメラ レコーダー

Mini DV Digital Video Cassette

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Digital Handycam

Cassette Memory InfoLITHIUM S SERIES MEMORY STICK

DCR-PC5

目次

必ずお読みください

お使いになる前に

別売りのアクセサリーキットについて

本機をお使いになるには、別売りのアクセサリーキットが必要です。
お持ちでない場合は、お買い求めください。詳しい内容については、アクセサリーキットの取扱説明書をご覧ください。

CM カセットメモリー付きのミニDVカセットをおすすめします

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。ミニDVカセットでのみご使用になれます。本機ではカセットメモリー付きのミニDVカセットを推奨しています。

カセットメモリーの有無により操作方法の違う機能

エンドサーチ（20、24ページ）
「撮影日で頭出しする－日付サーチ」（49ページ）
フォトサーチ（51ページ）

カセットメモリー付きカセットでのみできる機能

「タイトル場面を頭出しする－タイトルサーチ」（47ページ）
「タイトルを入れる」（78ページ）
「オリジナルタイトルを作る」（81ページ）
「カセットになまえを付ける－カセットラベル」（84ページ）
詳しくは124ページをご覧ください。

カセットメモリー付きカセットでのみできる機能には、説明の前に左のマークが付いています。

カセットメモリー付きミニDVカセットにはCMマークが付いています。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません。

万一、ビデオカメラレコーダーなどの不具合により録画や再生がされなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶画面、ファインダーおよびレンズについて

液晶画面やカラーファインダーは非常に精密度の高い技術で作られています。黒い点が現れたり、赤や青、緑の点が消えないことがありますが、故障ではありません（99.99%またはそれ以上の割合で画面上は正常に動きます）。これらの点は、テープに記録されません。
液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

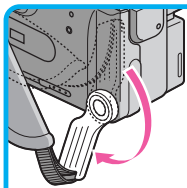
本書内の写真について

液晶画面やファインダーの映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

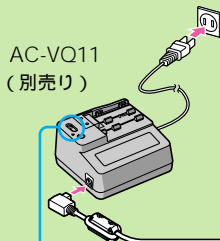
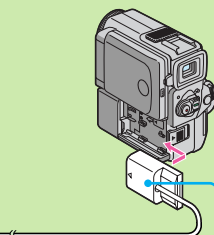
カール ツァイスレンズ搭載

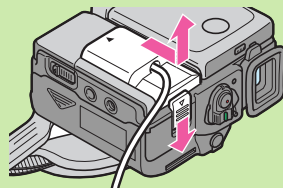
本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ　カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF*測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

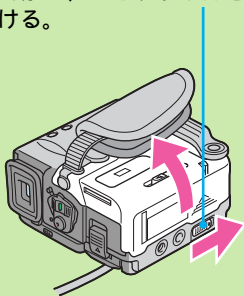
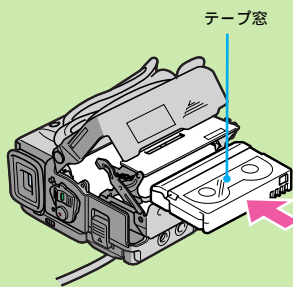
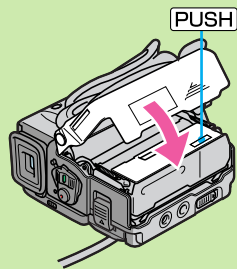
（モジュレーション　トランスファー　ファンクション　ファクター）
* Modulation Transfer Function/Factorの略。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

とにかく撮って見る

ここでは本機の使い方を簡単に説明します。詳しくは（　）内のページをご覧ください。
図のようにホールドグリップを下げて、グリップベルトに手を通してお持ちください。

1 電源をつなぐ（9ページ）

屋外ではバッテリーを使います →8ページ

接続プレート
バッテリー端子カバーを取りはずし、接続プレートを取り付ける。

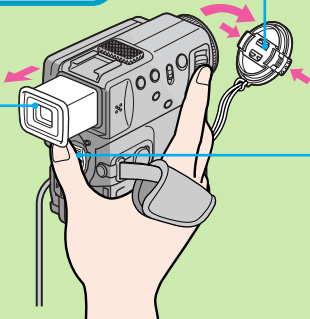
接続プレートをはずすとき
バッテリー取りはずしつまみをずらしながら、取りはずす。

2 カセットを入れる（10ページ）

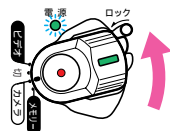
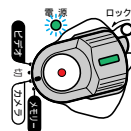
❶ **開く／⏏カセット取出しつまみを矢印の方向へずらしてから、カセットぶたを開ける。**

❷ **カセットの背の中央部を押して、テープ窓を上にして入れる。**

❸ **PUSH マークを押して、カセット入れを閉める。**

❹ **カセット入れが完全に引き込まれたら、カセットぶたを閉める。**

3 撮影する（13ページ）

❶ レンズキャップをはずす。

❷ ファインダーをのばす。

液晶画面を閉じているときはファインダーをのばし、この部分に目を当てて画像を見ます。

❸ 緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。

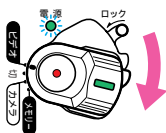
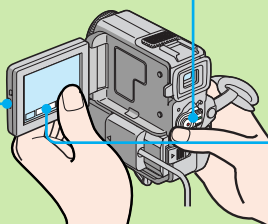
電源ランプが点灯する。

❹ スタート／ストップボタンを押す。

撮影が始まる。

もう1度押すと止まる。

4 液晶画面で見る（21ページ）

❶ 緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。

電源ランプが点灯する。

❷「開く」ボタンを押して液晶画面を開ける。

❸ タッチパネルの ◀◀ 巻戻しボタンを押してテープを巻き戻す。

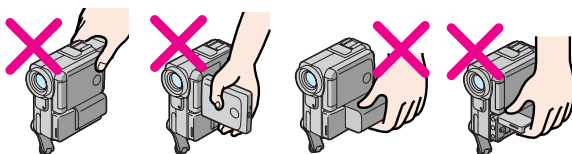
❹ ►II 再生ボタンを押すとテープが再生される。

►II

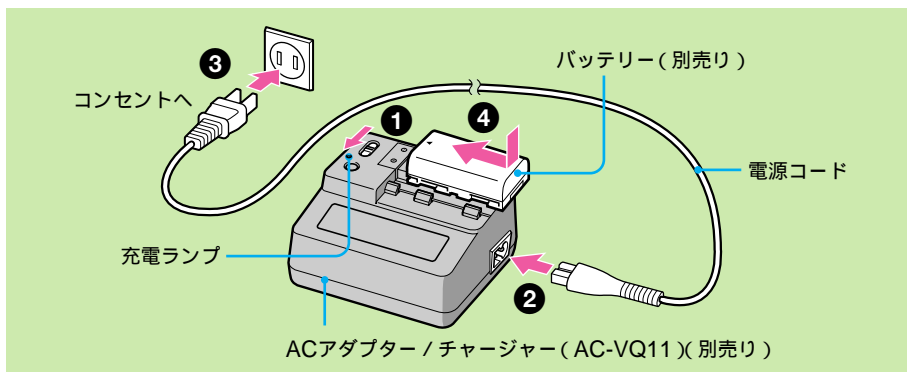
ご注意

タッチパネルを使うときは、液晶画面の裏側をささえながら親指で軽く押してください。ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。

ご注意

ファインダーや液晶画面、バッテリー、ジャックカバーをつかんで、本機を持ち上げないでください。

準備1 電源を準備する

バッテリーを充電する

ACアダプター／チャージャー（別売り）の取扱説明書もあわせてご覧ください。
バッテリーは充電してからお使いください。
本機の電源には、別売りの“インフォリチウム”バッテリー（Sシリーズ）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません。

ご注意

- 充電する場合はACアダプター／チャージャーのモード切換スイッチを充電側にしてください。ビデオ/カメラ側にしていると充電できません。
- バッテリーは水にぬらさないでください。
- バッテリーを長期間使用しないときは、1年に1回程度満充電にして、本機で使い切ってから、涼しい場所で保管してください。

バッテリーの充電が終わったら
バッテリーをACアダプター／チャージャーから取りはずしてください。

❶ モード切換スイッチを「充電」にする。

❷ 電源コードをつなぐ。

❸ コンセントにつなぐ。

❹ バッテリーを押しながら矢印の方向にずらして取り付ける。

充電が始まると、充電ランプが点灯する。
充電が終わると、液晶表示窓のバッテリーマークが「▭」になる（**実用充電**）。さらに充電ランプが消えるまで充電を続けると、若干長く使える（**満充電**）。

ACアダプター／チャージャーの使用可能時間表示は
ファインダーを使って撮影するときの使用可能時間です。本機の残量時間表示と多少異なる場合がありますが、故障ではありません。

バッテリーNP-F10/FS11について
寒冷地での撮影や、液晶画面を使っての撮影では使用時間が短くなります。高容量バッテリーNP-FS21/FS31（別売り）のご使用をおすすめします。寒冷地でお使いになる場合は、バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき撮影の直前に本機に取り付けてください。カイロをお使いの場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。

バッテリー残量時間表示
- 連続撮影時間の目安を液晶画面、またはファインダーに表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。
- バッテリー残量の時間表示が充分なのに電源がすぐ切れるときは満充電すると正しく表示されます。

海外でも充電できます
詳しくは137ページをご覧ください。

充電時間

バッテリー	満充電時間（実用充電時間）
NP-FS11	110（50）
NP-FS21	150（90）
NP-FS31	195（135）
NP-F10	105（45）
NP-F20	135（75）
NP-F30	165（105）

使い切ったバッテリーを充電したときの時間（約　分）。

撮影時間

バッテリー	ファインダーで撮影		液晶画面で撮影	
	連続撮影時*	実撮影時**	連続撮影時*	実撮影時**
NP-FS11	80（70）	40（35）	60（50）	30（25）
NP-FS21	170（155）	85（75）	130（115）	65（55）
NP-FS31	260（235）	130（115）	200（180）	100（90）
NP-F10	60（55）	30（25）	50（45）	25（20）
NP-F20	135（120）	65（60）	100（90）	50（45）
NP-F30	195（175）	95（85）	150（135）	75（65）

満充電（（　）内は実用充電）してからの時間（約　分）。
* 25℃で連続撮影したときの時間の目安。低温では使用時間が短くなります。
**録画、スタンバイ、電源入／切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。実際にはこれよりも短くなることがあります。

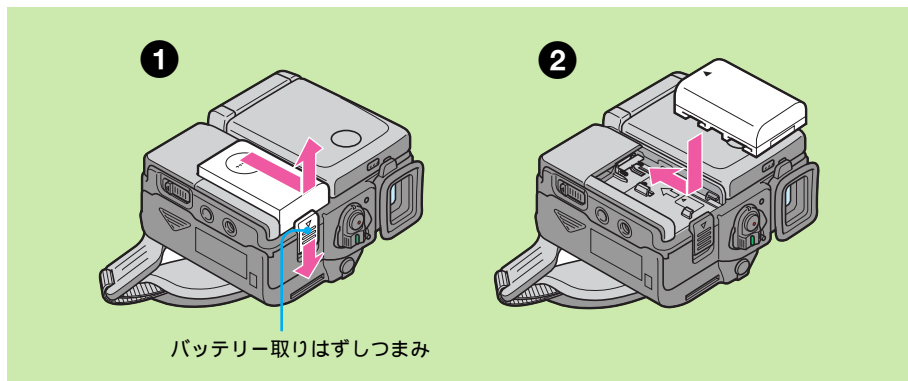
再生時間

バッテリー	液晶画面で再生	液晶画面を閉じて再生
NP-FS11	60（55）	85（75）
NP-FS21	135（125）	185（165）
NP-FS31	210（190）	280（250）
NP-F10	50（45）	65（60）
NP-F20	110（95）	145（130）
NP-F30	160（145）	215（190）

満充電（（　）内は実用充電）してからの時間（約　分）。
低温では使用時間が短くなります。

次のページへつづく

バッテリーを取り付ける

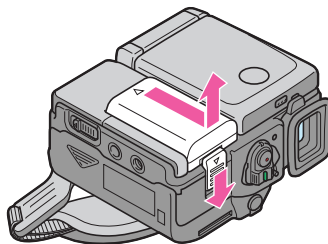
本機を屋外で使用するときは、バッテリーを取り付けます。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは
“インフォリチウム”バッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持った新しいタイプのリチウムイオンバッテリーです。本機は“インフォリチウム”バッテリー（Sシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーはお使いになれません。“インフォリチウム”バッテリー（Sシリーズ）にはInfoLITHIUM Sマークがついています。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

本機を保管するときは
バッテリー端子カバーを取りつけてください。これはバッテリー端子を保護するためです。

❶ バッテリー取りはずしつまみをずらしながら、バッテリー端子カバーを取りはずす。

❷ バッテリーを押しながら、カチッとロックするまで矢印の方向へずらす。

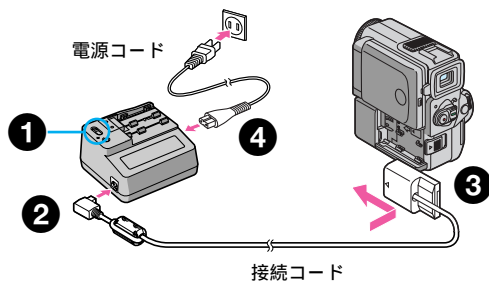
本体から取りはずす

手順1のようにして取りはずす。

コンセントにつないで使う

ご注意

コンセントにつないで使う場合は、ACアダプター／チャージャーのモード切換スイッチをビデオ／カメラ側にしてください。充電側にしていると電源は供給されません。

自動車の電源では
別売りのDCアダプター／チャージャーでお使いになれます。

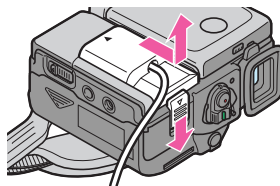
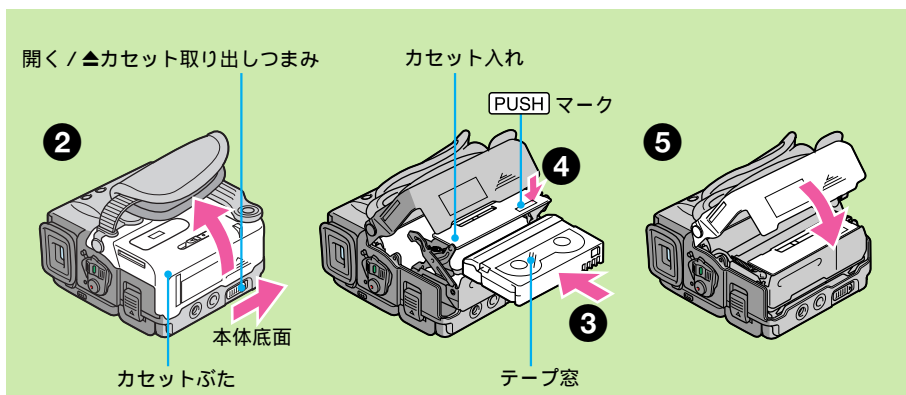
テープを再生するときなど長時間使用するときは、家庭用のコンセントを使うとバッテリー切れの心配なく使えます。

1 ACアダプター／チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ／カメラ」にする。

2 接続コードをACアダプター／チャージャーにつなぐ。

3 接続プレートを押しながら前へずらして、本体に取り付ける。

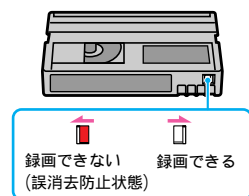
4 電源コードをACアダプター／チャージャーとコンセントにつなぐ。

接続プレートを取りはずす

バッテリー取りはずしつまみをずらしながら矢印の方向へずらす。

準備2 カセットを入れる

ご注意

カセット入れを無理に押し込まないでください。故障の原因になります。PUSH マーク以外を押しているとカセット入れが閉まらないことがあります。

カセットメモリー付きミニDVカセットをご使用のとき
カセットメモリー機能を正しくお使いいただくために124ページをご覧ください。

間違って消さないために
カセットの背にある誤消去防止ツマミを横にずらし「赤」にします。

❶ **バッテリーまたはACアダプター／チャージャーをつなぐ。（6〜9ページ）**

ACアダプター／チャージャーのモード切換スイッチは「ビデオ／カメラ」にする。

❷ **開く／≜カセット取り出しつまみを矢印の方向へずらしてから、カセットぶたを開ける。**

カセット入れが自動的に出て開く。

❸ **カセットの背の中央部を押して、カセットを入れる。**

テープ窓を上にして、まっすぐ奥まで押し込む。

❹ **PUSH マークを押して、カセット入れを閉める。**

カセット入れが自動的に引き込まれる。

❺ **カセット入れが完全に引き込まれたら、カセットぶたを閉める。**

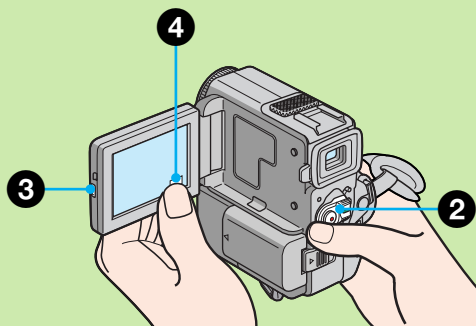
カセットを取り出す

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順3で取り出す。

準備3 タッチパネルの使い方

本機では、操作に必要なボタンが液晶画面に表示されます。指で直接押して操作します（タッチパネル操作）。ここでは、テープを使った撮影／再生時のタッチパネルの操作のしかたを説明します。

準備

ご注意

- タッチパネルを使うときは、液晶画面の裏側をささえながら親指で押すか、人差し指で軽く押してください。ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。
- 液晶画面を必要以上に強く押さないでください。
- ぬれた手で液晶画面に触れないでください。
- 「機能」が表示されていないときは、液晶画面を軽く押すと表示されます。液晶画面の表示は、本体の画面表示／タッチパネルボタンを押して出したり消したりすることができます。
- 押したボタンが動作しないときは調節（キャリブレーション）が必要です。（140ページ）
- 液晶画面が汚れたときは付属のクリーニングクロスをお使いください。

各々の項目が設定されているときは
緑色のバー表示が項目の上に出ます。

選択できないボタンは
グレー表示になります。

❶ バッテリーまたはACアダプター／チャージャーをつなぐ。**（6～9ページ）**

ACアダプター／チャージャーのモード切換スイッチは「ビデオ／カメラ」にする。

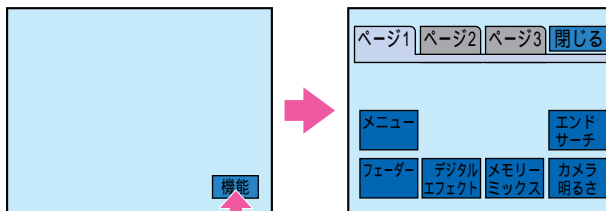
❷ 緑のボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」（撮影時）または「ビデオ」（再生時）にする。

❸ 「開く」ボタンを押して、液晶画面を開ける。

❹ 「機能」を押す。

操作に必要なボタンが出る（ページ1画面）。

電源スイッチが［カメラ］のとき

次のページへつづく

タッチパネルは
ファインダーを見ながら操作することもできます。
（122ページ）

「機能」を押すと
液晶画面に操作画面が現れます。
［カメラ］ページ1画面のとき
• 「メニュー」
• 「エンドサーチ」
• 「フェーダー」
• 「デジタルエフェクト」
• 「メモリーミックス」
• 「カメラ明るさ」

［カメラ］ページ2画面のとき
• 「タイトル」
• 「パネル明るさ」
• 「音量」

［カメラ］ページ3画面のとき
• 「セルフタイマー」

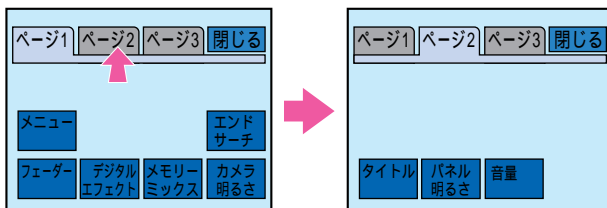
［ビデオ］ページ1画面のとき
• 「メニュー」
• 「パネル明るさ」
• 「音量」
• 「エンドサーチ」

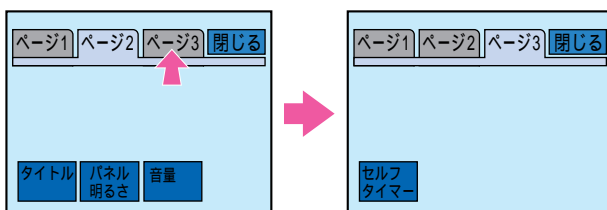
［ビデオ］ページ2画面のとき
• 「タイトル」
• 「デジタルエフェクト」
• 「再生ズーム」

［ビデオ］ページ3画面のとき
• 「データコード」
• 「録画そうさ」

メモリーモードのときは97ページをご覧ください。

❺ 「ページ2」を押す。

操作に必要なボタンが出る（ページ2画面）。

❻ 「ページ3」を押す。

操作に必要なボタンが出る。（ページ3画面）

❼ 希望の項目を押す。

詳しくは各機能の説明をご覧ください。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

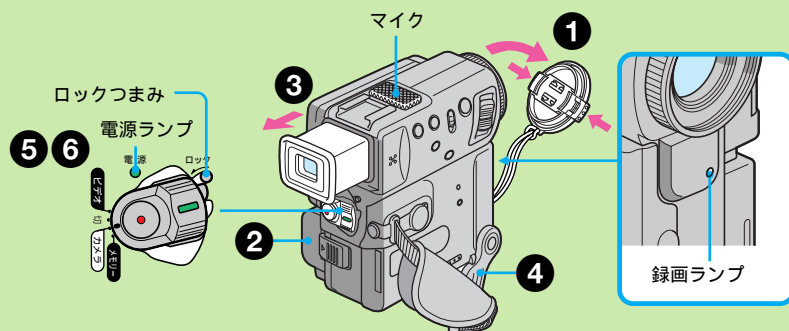
設定を決定する

「⮐決定」を押す。ページ1／ページ2／ページ3画面に戻る。

設定を解除する

「⮐切」を押す。ページ1／ページ2／ページ3画面に戻る。

撮影する

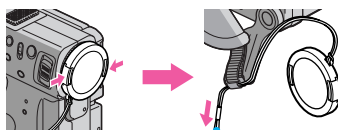
ピント合わせも自動で、簡単に撮影できます。

ご注意

- グリップベルトをしっかりしめてください。
  マイクに手が触れないようにしてください。
- ファインダーを縮めたままにすると、液晶画面を閉じていてもファインダーに画像は映りません。

長時間録画したいときは
メニューの「録画モード」を「LP」にします（87ページ）。録画時間がSP（標準）モードの1.5倍になります。本機のLPモードで録画したテープは本機で再生することをおすすめします。

きれいなつなぎ撮りのために
カセットを取り出さない限り、電源を切っても撮影した映像はきれいにつながります。また、以下の点にご注意ください。

- 同じテープにSPモードで撮影した映像とLPモードで撮影した映像を混在させない。
- バッテリーの交換は電源スイッチを「切」にしてから行う。
- カセットメモリー付きのカセットでは、カセットを取り出した後でもエンドサーチ（20ページ）を使うと、きれいにつながります。

❶ レンズキャップの両側をつまんで取りはずす。

❷ バッテリーなどの電源を付け、カセットを入れる。

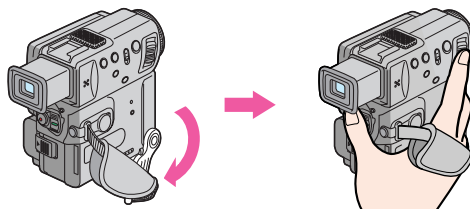
「準備1、2」（6〜10ページ）をご覧ください。

❸ ファインダーを伸ばす。

❹ ホールドグリップを下げる。

グリップベルトに手を通して本機を握る。

撮る

次のページへつづく

撮影スタンバイが5分以上続くと
自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するためです。再び撮影を始めるには電源スイッチを１度「切」にしてから、「カメラ」に戻します。
ただしカセットが入っていなければ、撮影スタンバイが5分以上続いても電源は切れません。

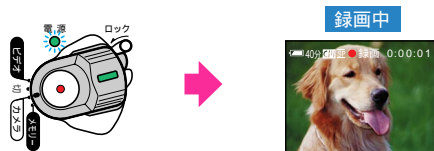
次のようなときは
つなぎ撮りの部分で再生画像や音声が乱れたりタイムコードが正しくつながらないことがあります。
- テープの途中で録画モード（SP/LP）を変える。
- LPモードでつなぎ撮りをする。

❺ 緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。

撮影スタンバイになる。

ロックつまみについて
ロックつまみを左側（ロック）にすると、気付かないうちに電源スイッチが「メモリー」になるのを防ぎます。（お買い上げ時は右側（解除）になっています。）

❻ スタート/ストップボタンを押す。

撮影が始まる。録画ランプが点灯する。
もう一度押すと止まる。

撮影が終わったら

1 **電源スイッチを「切」にする。**
2 **ホールドグリップとファインダーを元の位置に戻す。**
3 **カセットを取り出す。**
4 **バッテリーを取りはずす。**

ファインダーを縮めたままのときは
ファインダーに画像は映りません。

ご注意

液晶画面を開いているときは、ファインダーには画像が映りません。ただし、対面撮影中にファインダーをのばすとファインダーにも画像が映ります。

液晶画面は
屋外では日差しの加減で見えにくい場合があります。ファインダーでのご使用をおすすめします。
角度を調節する場合は必ず90°まで 開いた状態で行ってください。

対面撮影では
液晶画面に映る画像は鏡のように左右が反転しますが、記録される画像は実際の被写体と同じになります。

対面撮影中は
リモコンのゼロセットメモリーボタンは働きません。

対面撮影中の表示
撮影スタンバイ中は❚❚●、撮影中は●が表示されます。その他の表示は左右が反転します。表示が出ないものもあります。

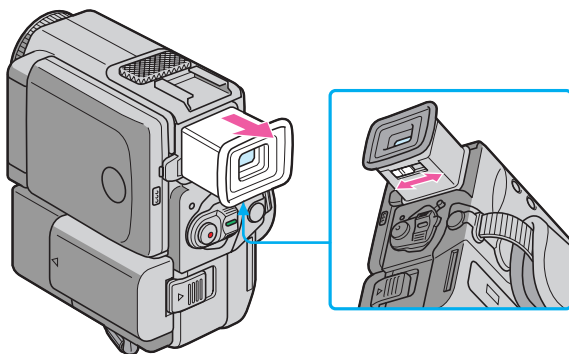
「機能」を押したときは
ファインダー内と液晶画面に☺は出ません。

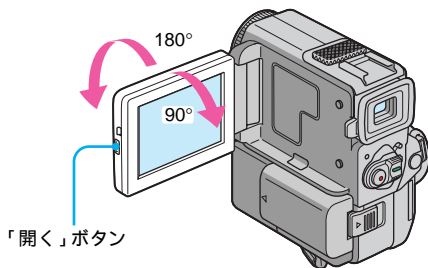
液晶画面を使って撮影するときのバッテリーの使用時間は
ファインダーを使っての撮影時間より若干短くなります。

ファインダー内では
対面撮影中は「機能」が反転して見えます。

ファインダーの視度を調節する

液晶画面を閉じて撮影するときは、ファインダーで画像を見ます。自分の視力に合わせてファインダー内の文字がはっきり見えるように、調節します。

ファインダーをのばして、視度調節つまみを動かす。

液晶画面を見ながら撮影する

「開く」ボタンを押して、液晶画面を開く。

液晶画面は90°まで開きます。また、レンズの方向に180°まで、ファインダーの方向に90°まで回転し、 角度を調節できます。

撮影スタンバイ中にレンズの方向に180°回転させると、ファインダー内と液晶画面に☺が出ます。(**対面撮影モード**)

液晶画面を閉じるときは、液晶画面をカチッというまで垂直(上図の位置)にしてから本体に戻します。

撮る

次のページへつづく

液晶バックライトの明るさは
メニューの「パネルバックライト」で変えることができます（87ページ）。

パネル明るさ／パネルバックライトは
調節してもテープ上に記録される画像に変化はありません。

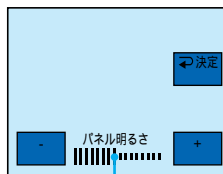
液晶画面の明るさを調節する

❶ ［カメラモード中］または［メモリーモード中］のときは
「機能」を押して、「ページ2」を押してページ2画面を出す。（11ページ）
［ビデオモード中］のときは
「機能」を押して、ページ1画面を出す。（11ページ）

❷ **「パネル明るさ」を押す。**

パネル明るさ画面が出る。

❸ **「－」／「＋」を押して明るさを調節する。**

－：暗くするとき
＋：明るくするとき

バー表示

❹ **「決定」を押す。**

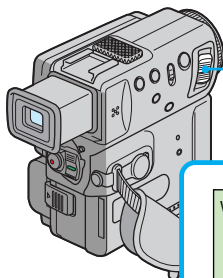
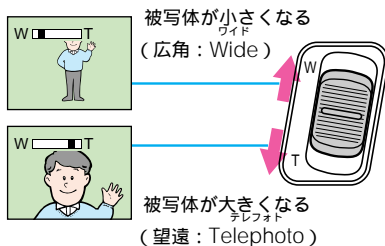
ページ1/ページ2画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

近くのものにピントがうまく合わないときは
ズームレバーをW側に動かして広角にします。ピントが合うのに必要な被写体との距離は、W側では約1cm以上、T側では約80cm以上です。

デジタルズームについて
- デジタルズームを使うと、ズーム倍率は20倍または120倍までになります。
- 画像をデジタル処理するため画質が低下します。
- 電源スイッチを「メモリー」にすると、デジタルズームは使えません。

ズームする

ズームレバーを動かす。

10倍を超えるズームをするには

メニューで「デジタルズーム」を「20×」または「120×」にします。（87ページ）

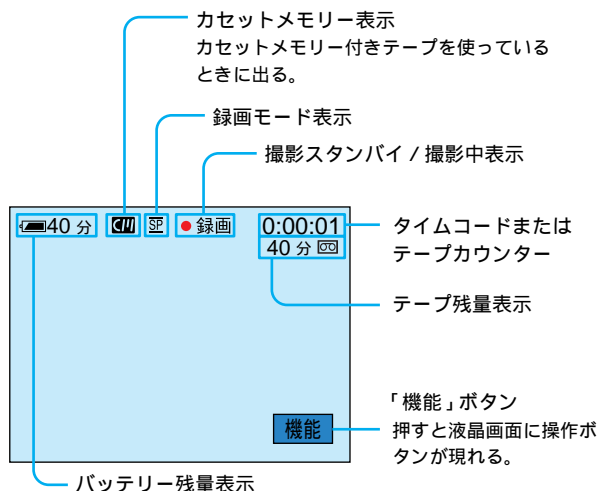
このラインよりT側が
デジタルズームになります。
メニューで「デジタルズーム」を「20×」
または「120×」にすると表示されます。

タイムコードについて
ファインダー内と液晶画面にテープ走行時間が「0:00:00」（時：分：秒）と出ます。ビデオモードのときには「0:00:00:00」（時：分：秒：フレーム）と出ます。あとからこのタイムコードだけを書き直すことはできません。

テープの残量表示について
テープの種類によっては正しく表示されないことがあります。

撮影日時は
画面には出ません。自動でテープ上に記録され、再生時にデータコードボタンを押せば見ることができます。（23ページ）

撮影中の表示

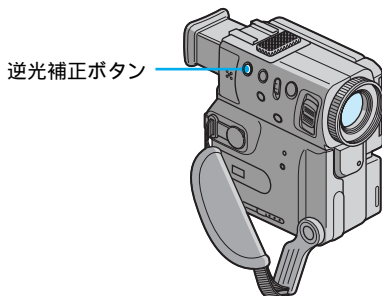
これらの表示はテープには記録されません。

次のページへつづく

逆光補正をする

逆光補正中に「カメラ明るさ」を押し、「マニュアル」または「スポット測光」を押すと（38、40ページ）
逆光補正は解除されます。

被写体のうしろに光源があり、被写体が暗く映る時などに明るさの補正をします。

［カメラモード中］または［メモリーカメラモード中］に逆光補正ボタンを押す。

液晶画面またはファインダー内に逆光補正表示が出ます。逆光補正ボタンをもう一度押すと解除されます。

暗闇で撮る−NIGHTSHOT（ナイトショット）/SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）

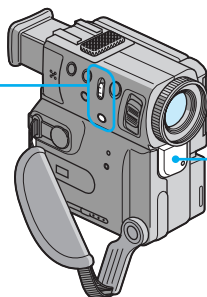
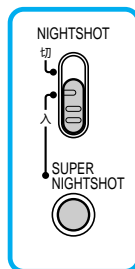
ご注意

- 昼間の屋外の明るいところではお使いにならないでください。故障の原因になります。
- NIGHTSHOTで撮影中の画像は、正しい色が表現されません。
- NIGHTSHOT時、オートフォーカスが合いにくい時は、マニュアルフォーカスをご使用ください。
- NIGHTSHOTで撮影中は、指などで赤外線発光部をかくさないでください。

NIGHTSHOT中は以下の操作ができません
- カメラ明るさ
- プログラムAE
- ホワイトバランス

夜間に動植物を観察するときやキャンプなど、暗い場所で撮影することができます。

［カメラモード中］または［メモリーカメラモード中］に
NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。

液晶画面またはファインダー内にNIGHTSHOT表示と
“ NIGHTSHOT ”が点滅します。
NIGHTSHOTスイッチを「切」にすると解除されます。

SUPER NIGHTSHOT時のシャッタースピードは
明るさによって自動的に変わります。このとき画像の動きは遅くなります。

SUPER NIGHTSHOT中は以下の機能が働きません
- フェーダー
- デジタルエフェクト
- プログラムAE
- カメラ明るさ
- ホワイトバランス

メモリーモード中は
SUPER NIGHTSHOTは働きません。

NIGHTSHOTライトは
赤外線のため、目には見えません。ライトの届く範囲は約3mです。

バッテリーNP-F10/FS11を使って対面撮影中は
NIGHTSHOTライトは使えません。

SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）を使う

SUPER NIGHTSHOTボタンを使うと、NIGHTSHOTの最大16倍の感度で被写体を明るく撮影できます。

1 ［カメラモード中］に
NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。

液晶画面またはファインダー内に◉表示が出ます。

2 **SUPER NIGHTSHOTボタンを押す。**

液晶画面またはファインダー内にS◉表示と“ SUPER NIGHTSHOT ”表示が出ます。

SUPER NIGHTSHOTボタンをもう一度押すと解除されます。

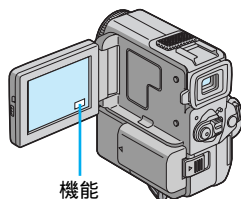
NIGHTSHOTライトを使う

NIGHTSHOTライトを使うと画像がよりはっきりします。メニューで「N.S.ライト」を「入」にします。（87ページ）

セルフタイマー録画

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー録画を実行したあと。
- 電源スイッチを「切」か「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーを使用すると、10秒後に自動的に撮影が始まります。自分を撮影したいときなどに使用してください。

1 ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。（11ページ）

2 **「セルフタイマー」を押す。**

セルフタイマー表示⏲が出る。

次のページへつづく

❸ スタート／ストップボタンを押す。

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影が始まる。

秒読み中に撮影を止めるとき

スタート／ストップボタンをもう1度押す。リモコンを使うと便利です。

セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度「セルフタイマー」を押して、セルフタイマー表示を消す。

セルフタイマーでテープに静止画を撮るとき

手順3でフォトボタンを押す。（27ページ）

最後に撮影した部分に戻る － エンドサーチ

ご注意

テープの冒頭や途中に一度無記録部分を作ると、エンドサーチが正しく動作しないことがあります。（124ページ）

エンドサーチは

カセットメモリーの付いていないカセットでは、カセットを一度取り出すと働きません。カセットメモリー付きのカセットを使えば、カセットを一度取り出してもエンドサーチは働きます。

最後に撮影した映像の終わりの部分に戻ります。

❶ ［撮影スタンバイ中］に

「機能」を押し、ページ1画面を出す。

（11ページ）

❷ 「エンドサーチ」を押す。

最後に撮影した映像の終わりの5秒間を再生し、再び撮影スタンバイに戻る。

スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

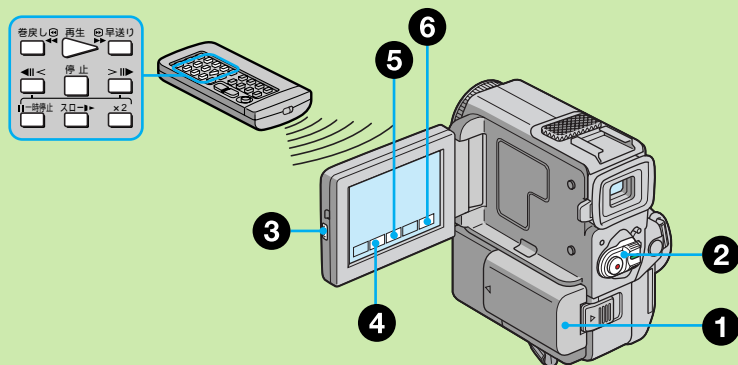
機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

サーチを止める

もう一度「エンドサーチ」を押す。

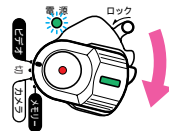
再生する

撮影した映像を液晶画面で見ることができます。液晶画面を閉じると、ファインダーで見ることもできます。
リモコンでも操作できます。

長時間電源を入れたままにしておくと
本体があたたかくなりますが故障ではありません。

液晶画面を開けたり閉じたりするときは
液晶画面を必ず垂直にしてから行ってください。

ファインダーで見るときは
液晶画面を外側に向けて本体に閉じて、ファインダーをのばします。
このとき液晶画面には画像は映りません。

❶ バッテリーなどの電源を付け、再生したいカセットを入れる。

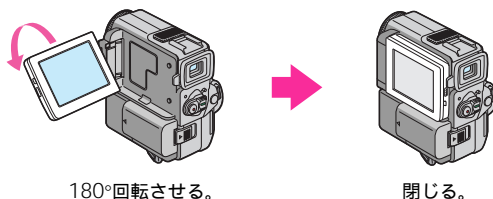
❷ 緑のボタンを押しながら、「ビデオ」にする。

電源ランプが点灯する。

❸ 「開く」ボタンを押して、液晶画面を開ける。

液晶画面を外側に向けて本体に閉じることもできます。

180°回転させる。　閉じる。

見る

次のページへつづく

❹ ◀◀ 巻戻しボタンを押す。

巻き戻しが始まる。

❺ ▶ ll 再生ボタンを押す。

画像が映る。

❻ 音量を調節する。

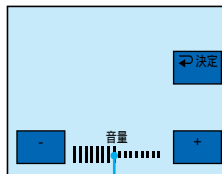
1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

2 「音量」を押す。

音量画面が出る。

3 「－」／「＋」を押して音量を調節する。

－：小さくするとき

＋：大きくするとき

❼ 「決定」を押す。

ページ1画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

再生を止める

■停止ボタンを押す。

カメラデータとは
撮影したときのビデオカメラの設定の情報です。撮影中は表示されません。

次のときは、-- -- --を表示します。
- 何も記録されていない部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を設定しないで撮影したテープ

データコードは
本機をテレビにつなぐと、テレビ画面にも出ます。
（25ページ）

画面表示を出したり消したりする

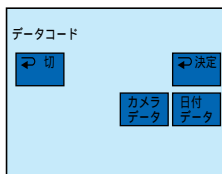
本機の画面表示／タッチパネルボタンまたはリモコンの画面表示ボタンを押す。

液晶画面の表示が消える。
出すときはもう1度押す。

データコードについて

本機は撮影時の日付・時刻およびカメラデータを自動的に画像とは別にテープに記録しています（データコード機能）。
データコードを表示させるにはタッチパネルまたはリモコンを使って以下の操作をおこないます。

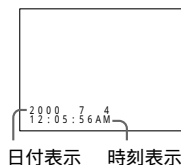
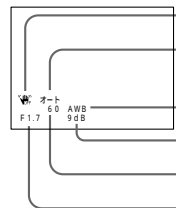
タッチパネルで操作する

① ［再生中］に「機能」を押し、「ページ3」を押す。
② 「データコード」を押す。

③ 「カメラデータ」または「日付データ」を選び、「決定」を押す。
④ 「閉じる」を押す。

リモコンで操作する

［再生中］にリモコンのデータコードボタンを押す。
押すたびに次のように表示が変わります。

「日付データの表示」→「カメラデータの表示」→（表示なし）

カメラデータを表示させないようにする
メニューの「データコード」で「日付データ」を選ぶ。
（87ページ）

次のページへつづく

見る

ボタンのマークについて
本体とリモコンではボタンのマークが異なります。
本体のマーク：
▶II、◀◀、▶▶
リモコンのマーク：
▶、II、◀◀、▶▶

変速再生中は
- 音声は出ません。
- 前の映像がモザイク状に残ることがあります。

一時停止（静止画）について
5分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、もう1度 ▶II/▶再生ボタンを押します。

スロー再生について
本機にはスロー画像もなめらかに再生する機能があります。ただし i. DV入力／出力端子から出力される信号にはこの機能は働きません。

逆方向再生について
画面の上下や、中央に横縞が入りますが、故障ではありません。

いろいろな再生

電源スイッチが「ビデオ」のときに操作します。

静止画を見る
［再生中］に ▶II/II一時停止ボタンを押す。
もう1度押すとふつうの再生に戻る。

早送りする
［停止中］に ▶▶/▶▶早送りボタンを押す。
▶II/▶再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

巻き戻す
［停止中］に ◀◀/◀◀巻戻しボタンを押す。
▶II/▶再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

逆方向に再生する
［再生中］にリモコンの＜ボタンを押す。
▶再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

画像を見ながら早送り／巻き戻しする（ピクチャーサーチ）
［再生中］に ▶▶/▶▶早送り／ ◀◀/◀◀巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り／巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）
［早送り中］または［巻き戻し中］に ▶▶/▶▶早送り／ ◀◀/◀◀巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

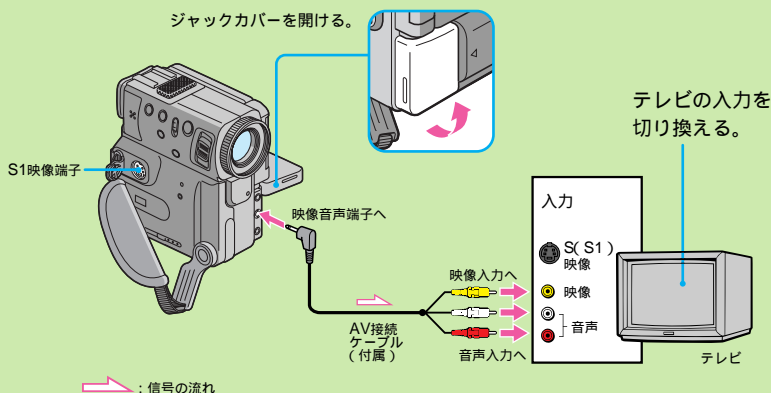
スロー画を見る
［再生中］にリモコンのスローI▶ボタンを押す。
逆方向にスロー再生するときは、リモコンの＜ボタンを押してからスローI▶ボタンを押す。
▶再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

2倍速で見る（倍速再生）
［再生中］にリモコンのX2ボタンを押す。
逆方向に倍速再生するときは、リモコンの＜ボタンを押してからX2ボタンを押す。
▶再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

コマ送りで見る
［再生一時停止中］にリモコンのII▶ボタンを押す。
逆方向にコマ送りするときは、◀IIボタンを押す。
▶II/▶再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

最後に撮影した部分を探す（エンドサーチ）
［停止中］にエンドサーチボタンを押す。
最後に撮影した終わりの部分を約5秒間再生して止まる。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見るときは、本機を付属のAV接続ケーブルでつなぎます。再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。
電源は別売りのACアダプター／チャージャーを使って、コンセントからとることをおすすめします(9ページ)。接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

別売りのS映像ケーブルを使うと再生画像がより鮮明になります。
テレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色い端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルを接続することをおすすめします。
本機のS1映像端子とテレビのS（S1）映像端子を接続します。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

テレビ画面にカウンターなどの表示を出すには
メニューで「画面表示」を「ビデオ出力／パネル」にし（87ページ）、画面表示／タッチパネルボタンを押します。
消すときはもう１度押します。

すでにテレビにビデオがつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力（ライン）」にしてください。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぐ。

音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が聞こえます。

モノラル音声でお聞きになりたいときは別売りの接続コードをお使いください。

テープに静止画を撮る – テープフォト撮影

ミニDVテープに静止画を記録できます。60分テープらSPモードで約510枚、LPモードで約765枚撮れます。本機ではこのページの方法以外に、“メモリースティック”に静止画を記録することができます。
（100ページ）

- ビデオプリンターでプリントしたいとき
- 後からテレビやモニターで記念写真のように見たいときなど

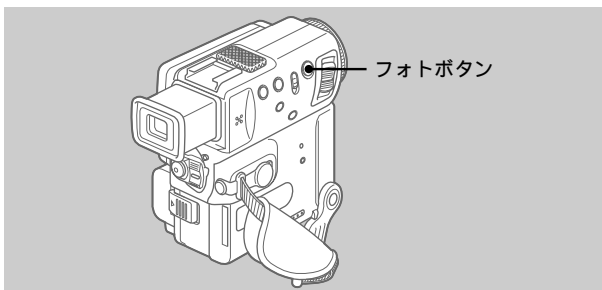
ご注意

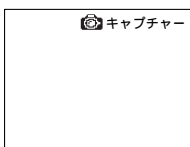
- テープフォト撮影中はモードや設定を変更することはできません。
- 静止画を撮影するときは、本機を振らないでください。画像が乱れることがあります。
- 以下の設定中や操作中は、テープフォト撮影できません。
  – フェーダー
  – デジタルエフェクト

動きのある画像をテープフォト撮影で撮影すると
他の機器で再生したときに画像がぶれることがありますが、故障ではありません。

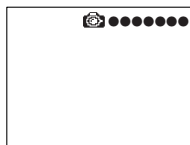
リモコンのフォトで撮影すると
押したときに液晶画面またはファインダーに映っている画像が記録されます。

カメラ録画中にフォト撮影するときは
フォトボタンを軽く押して画像を確認することはできません。フォトボタンを深く押し、撮影してください。約7秒間静止画を記録したあと、撮影スタンバイに戻ります。

ブレの少ない、美しい静止画を撮影するには
“メモリースティック”を使った「メモリーフォト撮影」をおすすめします。

❶ 電源スイッチを「カメラ」にする。

❷ [撮影スタンバイ中]に
フォトボタンを軽く押したまま画像を確認する。

画像が静止画になり、キャプチャー表示が出る。
このとき録画はされません。

画像を選びなおすときはフォトボタンを離してからもう1度軽く押す。

❸ フォトボタンを深く押し込む。

録画中は1秒ごとに赤い丸が消えていく。

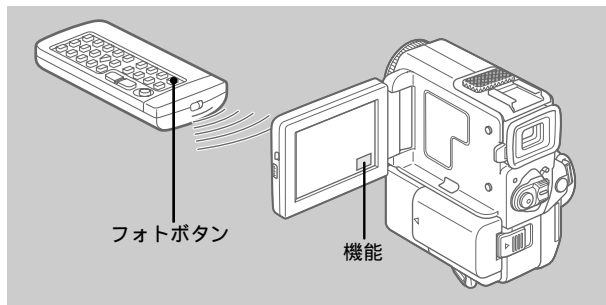
ボタンを押し込んだときの画像が約7秒間静止画で記録される。記録中の音声も同時に録音される。

記録中にファインダーまたは液晶画面に映る画像は静止画となります。

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマーテープフォト撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切」か「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーテープフォト撮影

セルフタイマーを使って静止画を撮影することができます。リモコンでも操作できます。

❶ 電源スイッチを「カメラ」にする。

❷ 「機能」を押し、

「ページ3」を押してページ3画面を出す。（11ページ）

❸ 「セルフタイマー」を押す。

セルフタイマー表示が出る。

❹ フォトボタンを深く押し込む。

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度「セルフタイマー」を押して、セルフタイマー表示を消す。

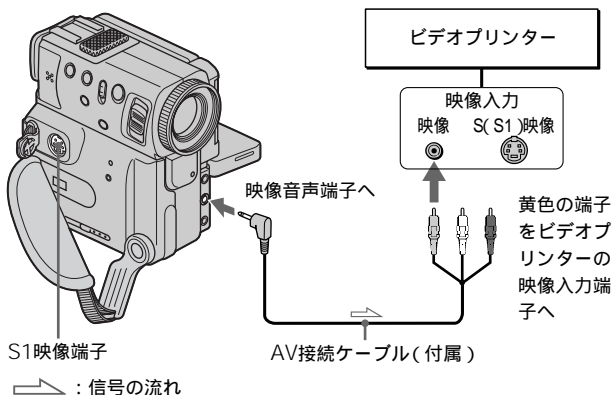
リモコンを使って撮影を中断することはできません。

使いこなす―撮影―

次のページへつづく

ビデオプリンターにS（S1）映像入力端子がついているときは
別売りのS映像ケーブルでつなぐと、プリント画像がより鮮明になります。

静止画を別売りのビデオプリンターでプリントする

本機と別売りのビデオプリンターを使うとビデオプリンターに画像を取り込みプリントできます。

ビデオプリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

自然な色あいに調節する – ホワイトバランス

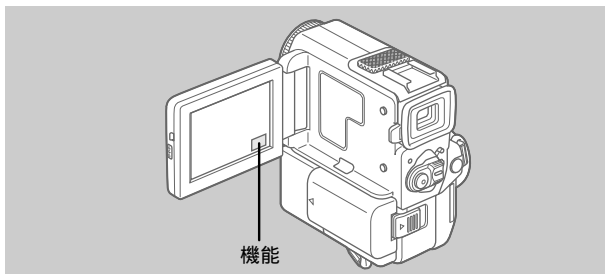
これから撮ろうとする光のもとで、自然な色あいの画像になるように手動で調節できます。通常は、自動的に色あいの調節が行われています。

- パーティー会場など照明条件が変化する場所で撮るとき
- 夜景やネオンサインなどを屋外で撮るときなど。

スタジオ照明やビデオライトで撮影する場合は
（オクナイ）に設定して撮影することをおすすめします。

蛍光灯照明下で撮影する場合は
ホワイトバランスを自動調節にするか、ホールドに設定して撮影することをおすすめします。（オクナイ）に設定して撮影すると、ホワイトバランスが正しくとれない場合があります。

ホワイトバランスを「オート」にしたままで
次のように撮影条件を変えたときは、電源スイッチを「カメラ」にしてから10秒間くらい白っぽい被写体に向けるとよりよい色あいに調節されます。
- バッテリーを交換したとき
- 画像の明るさを固定させたまま屋外と屋内を行き来したとき

ホワイトバランスを「ホールド」にしたままで
次のように撮影条件を変えたときは、ホワイトバランスを一度「オート」にしてしばらくしてから「ホールド」に戻してください。
- プログラムAEのモードを変えたとき
- 屋外と屋内を行き来したとき

1 ［カメラモード中］または「メモリーカメラモード中」に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

2 **メニューでの項目の「ホワイトバランス」を選び、希望のホワイトバランスモードを選ぶ。（87ページ）**

HOLD（ホールド）
単一色の被写体や背景を撮るとき

（オクガイ）
- 夜景やネオン、花火などを撮るとき
- 日の出、日没などを撮るとき
- 昼光色蛍光灯の下で撮るとき

（オクナイ）
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下で撮るとき
- ナトリウムランプや水銀灯の下で撮るとき

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

自動調節に戻す

メニューの「ホワイトバランス」で「オート」を選ぶ。（87ページ）

横長の画面にする – ワイドTVモード

ワイドテレビでご覧になるときに、画面いっぱいに映るように撮影できます。接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ワイドテレビで画面いっぱいに映るようにしたいとき

ワイドTVモードで撮影

ファインダー/液晶画面

通常のテレビで再生*

*画像が縦長になります。

ワイドテレビで再生*

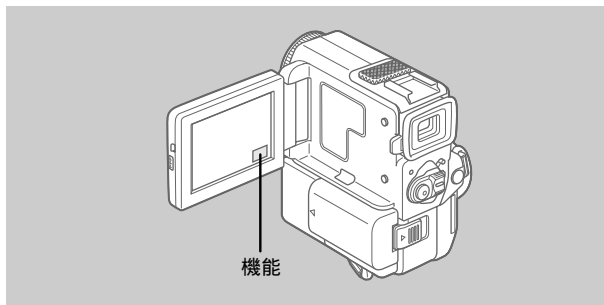
テレビをフルモードに切り換える

ワイドTVモード中は
以下の操作はできません。
- オールドムービー
- フェーダーのバウンド

録画中は
ワイドTVモードを選んだり、解除したりできません。
ワイドTVモードを解除するときは、必ず「撮影スタンバイ」にしてから、メニューの「ワイドTV」を「切」にしてください。

テレビの接続について
下記の接続のとき、「ワイドTVモード」で記録した画像を再生すると、画像は自動的にフルモードに切り換わります。
- ビデオIDシステム(ID-1/ID-2)方式対応のテレビと接続したとき。
- テレビのS(S1)映像入力端子に接続したとき。

ID-1方式とは
ビデオ信号のすきまに信号を加算することにより、画面の縦横比(16:9、4:3またはレターボックス)の情報を通信するシステムです。この方式に対応しているテレビとつなぐと、自動的にテレビのワイドモードが切り換わります。

ID-2方式とは
ID-1方式に加え著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステムです。

❶ [撮影スタンバイ中] に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。(11ページ)

❷ **メニューで📷の項目の「ワイドTV」を「入」にする。(87ページ)**

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

ワイドTVモードを解除する

メニューで「ワイドTV」の「切」を選ぶ。

効果的な場面転換をする – フェーダー

余韻を残して場面を変えたり徐々に画像と音を出したり（フェードイン)、逆に徐々に消したり（フェードアウト）して効果的な場面転換を演出できます。

フェードイン

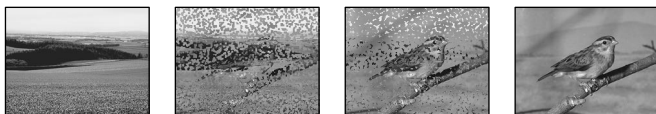
ノーマルフェーダー

モザイクフェーダー

バウンド*
（フェードインのみ）

オーバーラップ
（フェードインのみ）

ワイプ**
（フェードインのみ）

ドットフェーダー
（フェードインのみ）

フェードアウト

モノトーンフェーダー　フェードインは白黒からカラーに、
フェードアウトはカラーから白黒になります。

*　メニューでデジタルズームが「切」になっているときのみ使えます。
** 音声は消えません。

次のページへつづく

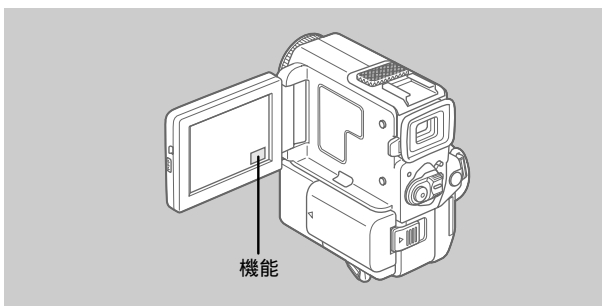
ご注意

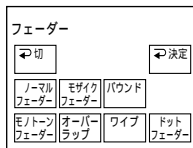
フェード中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはフェードイン・フェードアウトはできません。
- デジタルエフェクト
- プログラムAEのキャンドルモード（オーバーラップ、ワイプまたはドットフェーダーのみ）
- SUPER NIGHTSHOT
- テープフォト撮影

「オーバーラップ」、「ワイプ」または「ドットフェーダー」を選ぶと
本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。このとき、テープの状態によっては、きれいな画像が撮影できないことがあります。

バウンド動作中には以下の操作ができません
- カメラ明るさ
- フォーカス
- ズーム
- ピクチャーエフェクト

以下の操作中にはバウンドが表示されません
- メニューでデジタルズームの「20×」または「120×」を選択しているとき
- ワイドTVモード
- ピクチャーエフェクト
- プログラムAE

メモリーモードにしているときは
フェードイン・フェードアウトはできません。

1 • フェードインは［撮影スタンバイ中］に
• フェードアウトは［撮影中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

2 **「フェーダー」を押す。**
フェーダー画面が出る。

3 **希望のフェーダー項目を選ぶ。**

4 **「決定」を押し、ページ1画面に戻す。「閉じる」を押し、機能画面に戻す。**
フェーダーモード表示が点滅する。

5 **スタート/ストップボタンを押す。**
フェーダーモード表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消える。フェードイン、フェードアウトはフェード終了後に自動的に解除される。

フェードイン・フェードアウトを解除する

フェード終了後：自動的に解除される。

フェード前：スタート／ストップボタンを押す前に「切」を押す。ページ1画面に戻る。「閉じる」を押すと機能画面に戻る。

画像に特殊効果を加える – ピクチャーエフェクト

画像にデジタル処理をして、テレビや映画のような特殊効果を加えられます。

ネガアート
→写真のネガフィルムのように

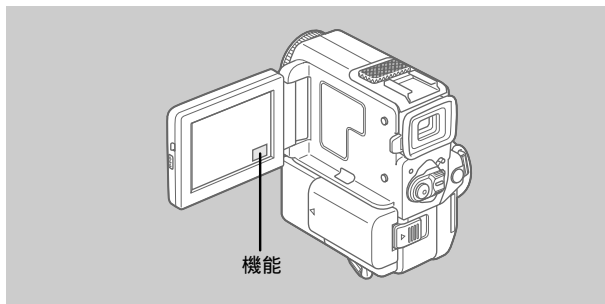
ソラリ
→明暗をはっきりさせたイラストのように

パステル
→淡い色のパステル画のように

モザイク
→タイルを組み合わせたように

セピア→古い写真のような色合いに　**モノトーン**→白黒に

ピクチャーエフェクト中は
オールドムービーは選べません。

電源スイッチを「切」にすると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［カメラモード中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

❷ **メニューで[M]の項目の「ピクチャーエフェクト」を選び、希望のピクチャーエフェクトを選ぶ。（87ページ）**

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

ピクチャーエフェクトを解除する

メニューの「ピクチャーエフェクト」で「切」を選ぶ。

特殊な演出を加えて撮る – デジタルエフェクト

デジタル機能を使って撮影画像にさまざまな演出を加えることができます。音声はそのまま録音されます。

スチル
あらかじめ取り込んだ静止画に、動画を重ねて撮影する。

フラッシュ（フラッシュモーション）
コマ送り撮影をする。

ルミキー（ルミナンスキー）
あらかじめ取り込んだ静止画の明るい部分に、動画をはめ込む。

トレイル
被写体の動きが、尾を引くように撮影する。

スローシャッター
シャッタースピードを落とす。暗いところで撮影しやすい。画像はザラつく。

オールドムービー
画面を横長、画像をセピア、シャッタースピードを遅くして、昔の映画のように撮影する。

（スチル）

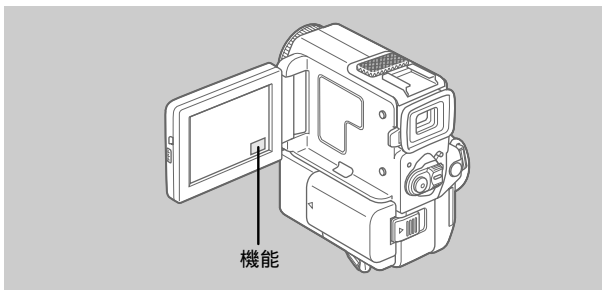
静止画　動画

（ルミキー）

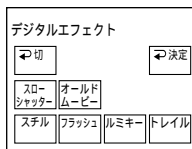
静止画　動画

ご注意

- デジタルエフェクト操作中は以下の操作ができません。
  – フェーダー
  – プログラムAEのキャンドルモード
  – テープフォト撮影
  – SUPER NIGHTSHOT
- スローシャッターを選ぶと以下の操作ができません。
  – プログラムAE
- オールドムービーを選ぶと以下の操作ができません。
  – ワイドTVモード
  – ピクチャーエフェクト
  – プログラムAE

電源スイッチを「切」にすると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

1 ［カメラモード中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
（11ページ）

2 **「デジタルエフェクト」を押す。**

デジタルエフェクト画面が出る。

スローシャッターでは
自動でピントが合いにくくなることがあります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください。

スローシャッターのシャッタースピードは

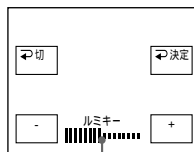
表示	シャッタースピード
スローシャッター1	1/30
スローシャッター2	1/15
スローシャッター3	1/8
スローシャッター4	1/4

❸ 希望のデジタルエフェクト項目を選ぶ。

スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

❹ 「－」／「＋」を押して、効果を調節する。

－：効果を小さくするとき

＋：効果を大きくするとき

バー表示。スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルのときに表示される。

調節する内容は以下の通り。

スチル	撮影中の動画の背景にある静止画の写り具合。
フラッシュ	フラッシュの間隔。
ルミキー	静止画の、動画を取り込む部分の明るさの度合い。
トレイル	残像が残る時間。
スローシャッター	シャッタースピード。 数字を大きくするほど遅くなる。

❺ 「⮐決定」を押す。

ページ1画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

デジタルエフェクトを解除する

「⮐切」を押す。ページ1画面に戻る。

撮影状況に合わせて撮る – プログラムAE

被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行います。

スポットライトモード
結婚式や舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。

ソフトポートレートモード
人物、花などを撮影するときに背景をぼかして被写体を引き立てると同時に、ソフトな印象の映像になるようにします。

スポーツレッスンモード
ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに被写体のぶれを少なくします。

ビーチ&スキーモード
真夏の砂浜や、冬山（スキー場）などの照り返しが強い場所で撮影するときに、人物の顔などが暗くなるのを防ぎます。

サンセット&ムーンモード
夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに、雰囲気を損なわずに撮影することができます。

風景モード
山などの遠くの景色を撮影するときに景色をはっきりさせ、風景を窓ガラスや金網越しに撮影する場合、手前のガラスや金網にピントが合うのを防ぎます。

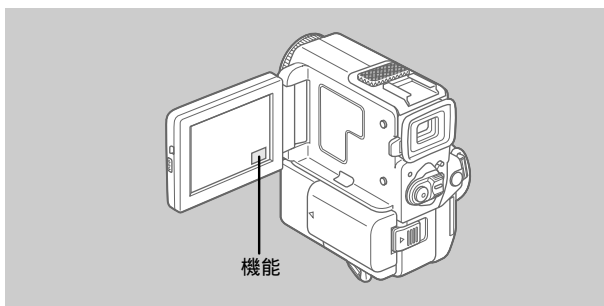
キャンドルモード
暗い場所でも、被写体を明るく撮影することができます。

ご注意

- 次のモードでは近くのものにピントが合わないようにフォーカスを制御します。
  – スポットライトモード
  – スポーツレッスンモード
  – ビーチ＆スキーモード
- 次のモードでは遠景のみにピントが合うようにフォーカスを制御します。
  – サンセット＆ムーンモード
  – 風景モード
- プログラムAE中は以下の操作ができません。
  – スローシャッター
  – オールドムービー
  – バウンド
- キャンドルモード中は以下の操作ができません。
  – デジタルエフェクト
  – メモリーオーバーラップ
  – オーバーラップ
  – ワイプ
  – ドットフェーダー
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にしているとき、プログラムAEモードは使えません。（表示が点滅します）
- メモリーモード時、キャンドルモードとスポーツレッスンモードは操作できません。（表示が点滅します）

ホワイトバランスを「オート」にしているときは
プログラムAEを使うときも自動的にホワイトバランスが調節されます。

プログラムAEモードで撮影中でも
「カメラ明るさ」を調節できます。

蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下で撮影すると
次のモードでは画面が明るくなったりする現象（フリッカー）が起こったり、色が変化することがあります。このような場合にはプログラムAEを解除してください。
– ソフトポートレートモード
– スポーツレッスンモード

❶ ［撮影スタンバイ中］または［メモリーカメラモード中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
（11ページ）

❷ **メニューで[M]の項目の「プログラムAE」を選び、希望のプログラムAEモードを選ぶ。**
（87ページ）

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

プログラムAEを解除する

メニューの「プログラムAE」で「オート」を選ぶ。

使いこなす―撮影―

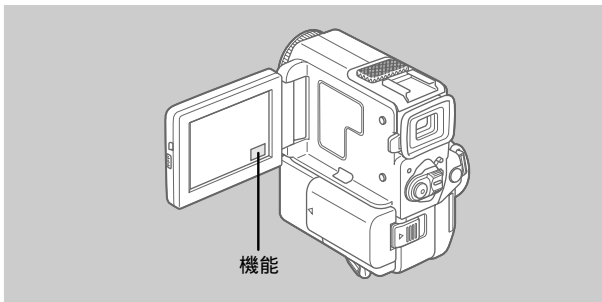
手動で画像の明るさを調節する

画像をお好みの明るさに手動調節し、固定することができます。

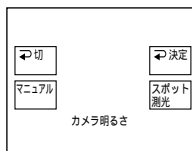
- 逆光補正を細かく行いたいとき。
- 背景に比べて、被写体が明るすぎるとき。
- 夜景を撮りたいときなど

ご注意

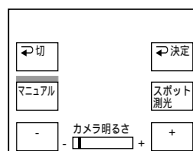
「カメラ明るさ」調節をしているときは逆光補正ボタンは働きません。

以下のとき、明るさ調節は自動に戻ります。
- プログラムAEのモードを変える。
- NIGHTSHOTを「入」にする。

❶ ［カメラモード中］または［メモリーカメラモード中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

❷ **「カメラ明るさ」を押す。**

カメラ明るさ画面が出る。

❸ 「マニュアル」を押し、「－」／「＋」を押して、明るさを調節する。

－：暗くするとき

＋：明るくするとき

❹ 「⮐決定」を押す。

ページ1画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

自動調節に戻す

「⮐切」を押す。ページ1画面に戻る。

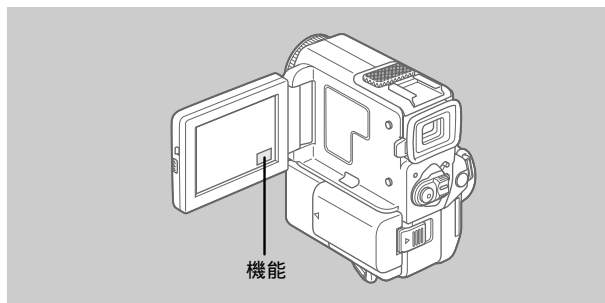
フレキシブルスポット測光を使う

撮りたいポイントを基準にして自動的に画像の明るさを調節することができます。

- 逆光のとき。
- スポットライトで照明されたステージなど、被写体と背景のコントラストが強いときなど。

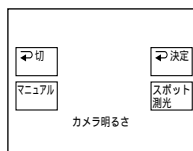
ご注意

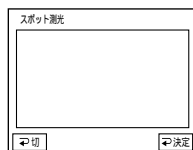
- 「カメラ明るさ」調節をしているときは逆光補正ボタンは働きません。
- 一度調節された明るさは固定されます。

以下のとき、明るさ調節は自動に戻ります。

- プログラムAEのモードを変える。
- NIGHTSHOTを「入」にする。

❶ ［カメラモード中］または［メモリーカメラモード中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
（11ページ）

❷ **「カメラ明るさ」を押す。**

カメラ明るさ画面が出る。

❸ 「スポット測光」を押す。

スポット測光画面が出る。

❹ 画面上の枠内の撮りたいポイントを押す。

スポット測光の表示が点滅から点灯にかわり、押したポイントの明るさが調節されます。

❺ 「決定」を押す。

ページ1画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

自動調節に戻す

「切」を押す。ページ1画面に戻る。

次のページへつづく

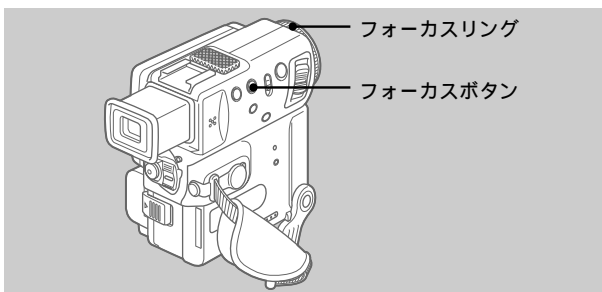
手動でピントを合わせる

撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。

- 自動ではピントが合いにくいとき。
  – 被写体が水滴のついた窓ごしにあるとき
  – 被写体が横縞だけのもののとき
  – 被写体と背景とのコントラストが弱いとき
- 手前の被写体から後方の被写体へと、意図的にピントの合う位置を変えたいとき。
- 三脚を使って静止した被写体を撮るのにピントを固定したいとき。

正確にピントを合わせるには
ズームをT側（望遠）でピントを合わせたあと、なるべくW側（広角）で撮るようにズームを調節するとピントが合いやすくなります。

近づいて大きく撮るとき
ズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。

手動でピント合わせをするとき、Ⓕが次のようなマークに変わります。
▲ 無限遠にあるとき。
● それ以上近くにピント合わせをすることができないとき。

❶ ［カメラモード中］または「メモリーカメラモード中」に
フォーカスボタンを軽く1回押す。
手動ピント合わせ表示Ⓕが出る。

❷ **フォーカスリングを回し、ピントの合う位置を調節する。**

自動調節に戻す

フォーカスボタンを軽く押して、Ⓕまたは▲、●表示を消す。

ピントを無限遠にして撮影する

フォーカスボタンを深く押し込むとピントは無限遠になり、▲の表示が出る。

指を離すとピント合わせが手動に戻る。

遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントがあってしまうときに使います。

画像にピクチャーエフェクトを加えて見る

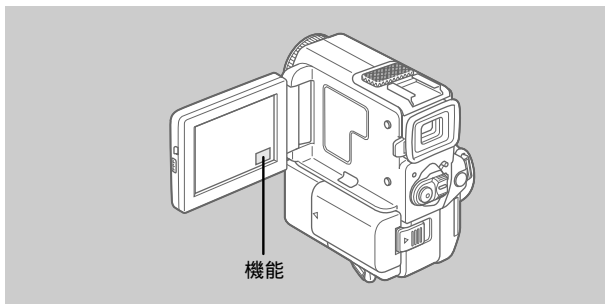
再生しているテープの画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることができます。

ネガアート、セピア、モノトーン、ソラリのピクチャーエフェクトが使えます。

ご注意

- 外部入力している画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- 加工した画像を本機で録画することはできません。
  本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

ピクチャーエフェクトを加えた画像は
i DV入力/出力端子からは出力されません。

電源スイッチを「切」にするか、再生を停止すると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［再生中］または［再生一時停止中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

❷ **メニューで[M]の項目の「ピクチャーエフェクト」を選び、希望のピクチャーエフェクトを選ぶ。（87ページ）**

各ピクチャーエフェクトについて詳しくは33ページをご覧ください。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

ピクチャーエフェクトを解除する

メニューの「ピクチャーエフェクト」で「切」を選ぶ。

画像にデジタルエフェクトを加えて見る

再生しているテープの画像にデジタルエフェクトを加えて見ることができます。

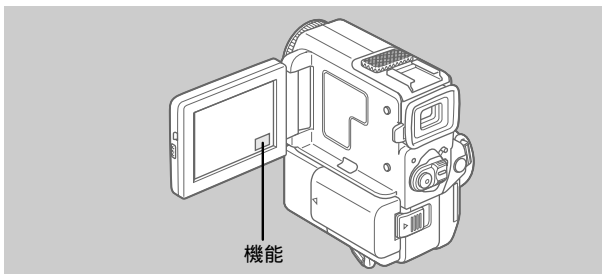
スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルのデジタルエフェクトが使えます。

ご注意

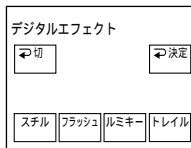
- 外部入力している画像にデジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- 加工した画像を本機で録画することはできません。
  本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

デジタルエフェクトを加えた画像は

i. DV入力/出力端子から出力することはできません。

電源スイッチを「切」にするか、再生を停止すると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［再生中］または［再生一時停止中］に
「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。（11ページ）

❷ **「デジタルエフェクト」を押す。**

デジタルエフェクト画面が出る。

❸ **希望のデジタルエフェクトを選ぶ。**

スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

❹ **「－」／「＋」を押して、効果を調節する。**

詳しくは34ページをご覧ください。

❺ **「決定」を押す。**

ページ2画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

デジタルエフェクトを解除する

「切」を押す。ページ2画面に戻る。

撮影した画像を拡大する – 再生ズーム

本機で再生中の動画や静止画を拡大できます。拡大した画像は他のテープへダビングしたり“ メモリースティック ”に記録できます。（106ページ）

ご注意

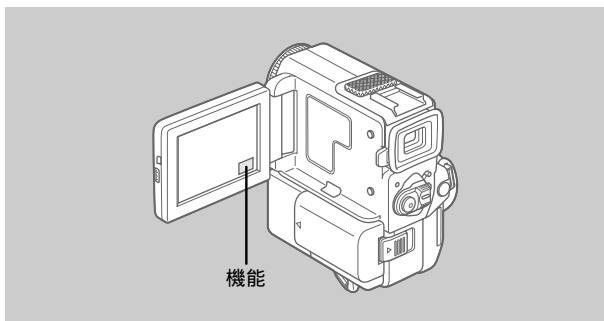
外部入力された画像には、再生ズームは働きません。

メニュー、タイトルの表示中は
再生ズームはできません。

再生ズーム中に以下の操作をすると再生ズームは自動的に解除されます
– 電源スイッチを「切」にする。
– 再生を停止する。

再生ズームの画像は
i DV入力／出力端子から出力することはできません。

再生ズーム中に
画面表示／タッチパネルボタンを押すと表示枠が消えます。この時再生ズームは働きません。

画像の周辺部分は
拡大することはできますが、画面の中心には移動しません。

❶ ［再生中］または［再生一時停止中］に**「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。****（11ページ）。**

❷ **「再生ズーム」を押す。**

再生ズーム画面が出る。

❸ **画面上の枠内の拡大したい部分を押す。**

押した部分を中心に2倍に拡大された画像が再生されます。さらに枠内の別の場所を押すと、押した部分を画面の中心に移動することができます。

再生ズームを解除する

「⮐終了」押す。

見たい場面にすばやく戻す – ゼロセットメモリー

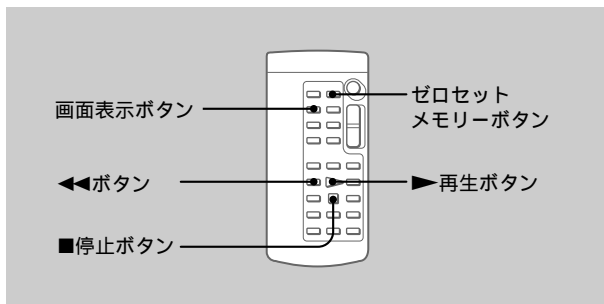
テープカウンター値が「0:00:00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。リモコンでのみ操作できます。

再生中に、後からもう一度見たいと思う場面があったときなど。

ご注意

- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう１度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。
- テープの途中に記録されていない部分があるとゼロセットメモリー機能が正しく働かない場合があります。
- ゼロセットメモリー表示は、「機能」を押すと表示されません。

撮影スタンバイ中にも操作できます

ある部分だけ撮り直したいときに、撮り直したい部分の終了点でゼロセットメモリーボタンを押しておきます。
撮り直したい部分の開始点まで巻き戻して撮影を始めると終了点でテープが停止し、再び撮影スタンバイになります。

❶ ［再生中］に
表示が出ていないときは画面表示ボタンを押す。

❷ **後から見たい場面でゼロセットメモリーボタンを押す。**
テープカウンター値が「0:00:00」になる。
ゼロセットメモリー表示が点滅する。

❸ **再生し終わったら■停止ボタンを押す。**

❹ **◀◀巻戻しボタンを押す。**
テープカウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止する。テープカウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

❺ **►再生ボタンを押す。**
再生が始まる。

タイトル場面を頭出しする – タイトルサーチ

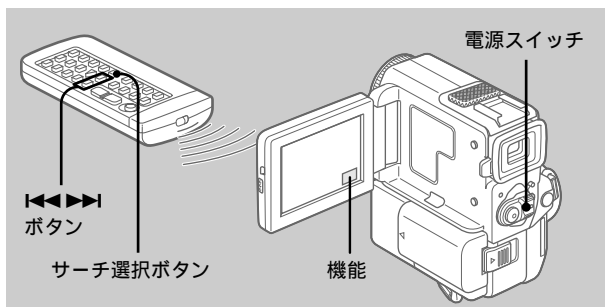
カセットメモリー付きカセットを使えば（124ページ）、タイトルを入れた場面を探せます。リモコンも使います。

タイトルを入れた場面を探したいとき

カセットメモリーの付いていないカセットでは
タイトルを入れたり、タイトル場面を頭出ししたりできません。

録画した部分の間に無記録部のあるテープでは
タイトルサーチが正しく働かないことがあります。

タイトルを入れるには
78ページをご覧ください。

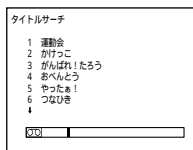
サーチ選択ボタンは
押すごとにタイトルサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャンの順番で切り替わります。

1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

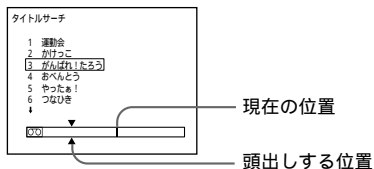
3 メニューで CM の項目の「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（87ページ）

お買い上げ時は「入」に設定されています。

4 リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「タイトルサーチ」を選ぶ。

タイトルサーチ画面が出る。

使いこなすー再生ー

❺ リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたいタイトルを選ぶ。

選んだタイトルの場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

リモコンの■停止ボタンを押す。

撮影日で頭出しする – 日付サーチ

撮影した日付の変わり目を頭出しできます。カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。リモコンも使います。

撮影日の変わり目を確認したり、撮影日ごとに編集するときなど。

■カセットメモリーを使った日付サーチ ➡ 画面で撮影日を選んで頭出し

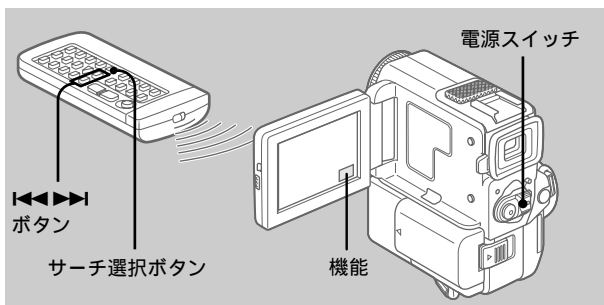
■カセットメモリーを使わない日付サーチ ➡ 撮影した日付の変わり目を頭出し

ご注意

日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

録画した部分の間に無記録部のあるテープでは
日付サーチが正しく働かないことがあります。

1つのカセットのカセットメモリーに入る日付データは
6つまでです。日付データが7つ以上あるときは、「カセットメモリーを使わずに頭出しする」（50ページ）の手順で検索してください。

サーチ選択ボタンは
押すごとにタイトルサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャンの順番で切り替わります。

カセットメモリーを使って頭出しする

カセットメモリー付きカセットでのみできます。（124ページ）

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）**

❸ **メニューで の項目の「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（87ページ）**

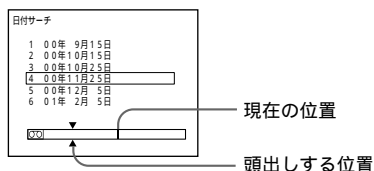
お買い上げ時は「入」に設定されています。

❹ **リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「日付サーチ」を選ぶ。**

日付サーチ画面が出る。

次のページへつづく

❺ リモコンの⏮ または⏭ボタンを押して、頭出ししたい日付を選ぶ。

選んだ日付の場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

リモコンの■停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに頭出しする

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

❸ メニューでの項目の「Cメモリーサーチ」を「切」にする。（87ページ）

❹ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「日付サーチ」を選ぶ。

❺ リモコンの⏮ または⏭ボタンを押す。

日付をさかのぼるときは、⏮ボタンを、日付を進めるときは、⏭ボタンを押す。日付の変わり目で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の場面が頭出しされる。

サーチを止める

リモコンまたは本体の■停止ボタンを押す。

見たい静止画を探す – フォトサーチ／フォトスキャン

「テープフォト撮影」でミニDVテープに撮影した静止画を頭出しできます（フォトサーチ）。カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。
また、カセットメモリーとは関係なく静止画を次々に探し、自動的に5秒ずつ再生することもできます（フォトスキャン）。リモコンでのみ操作できます。

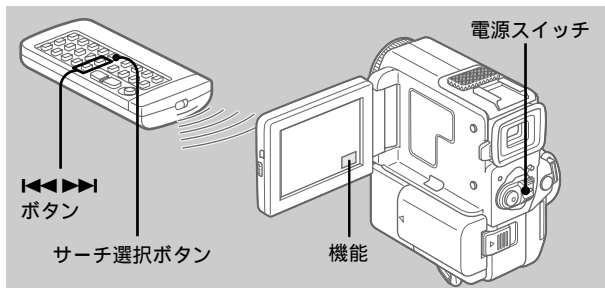
静止画の場面を確認したり、静止画をまとめて編集するときなど。

■カセットメモリーを使ったフォトサーチ ➡ 画面で静止画の撮影日時を選んで頭出し

■カセットメモリーを使わないフォトサーチ ➡ 撮影日時とは関係なく静止画を探して頭出し

録画した部分の間に無記録部のあるテープでは
フォトサーチが正しく働かないことがあります。

1つのカセットのカセットメモリーに入るフォトデータは
12枚までです。
13枚以上ある場合は、フォトスキャンで検索してください。

サーチ選択ボタンは
押すごとにタイトルサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャンの順番で切り替わります。

カセットメモリーを使って静止画を探す –フォトサーチ

カセットメモリー付きカセットでのみできます。（124ページ）

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

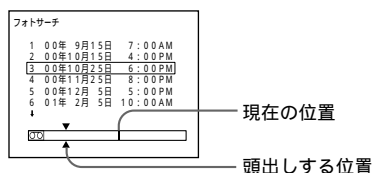
❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

❸ メニューで[CM]の項目の「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（87ページ）
お買い上げ時は「入」に設定されています。

❹ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「フォトサーチ」を選ぶ。
フォトサーチ画面が出る。

次のページへつづく

5 リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたい静止画の撮影日時を選ぶ。

選んだ撮影日時の静止画が出る。

サーチを止める

リモコンの■停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに静止画を探す ーフォトサーチ

1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 「機能」を押し、ページ1画面を出す。(11ページ)

3 メニューで[CM]の項目の「Cメモリーサーチ」を「切」にする。(87ページ)

4 リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「フォトサーチ」を選ぶ。

5 リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

静止画の場面で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前(⏮)または後ろ(⏭)の場面が頭出しされる。

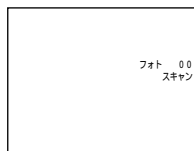
サーチを止める

リモコンまたは本体の■停止ボタンを押す。

静止画を次々に出して探すーフォトスキャン

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「フォトスキャン」を選ぶ。**

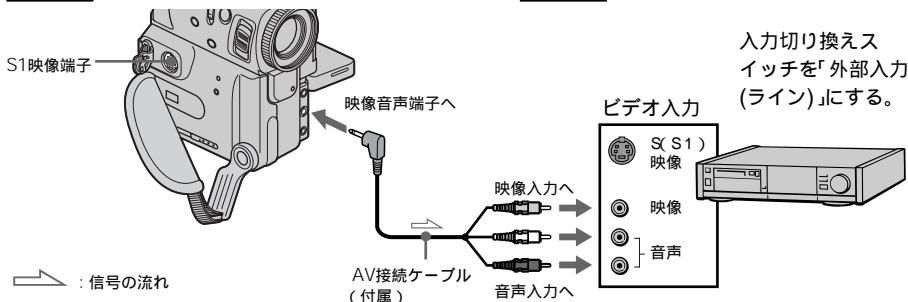
フォトスキャン画面が出る。

❸ **リモコンの|◀◀ または▶▶|ボタンを押す。**

静止画が順に5秒ずつ表示される。

フォトスキャンを止める

リモコンまたは本体の■停止ボタンを押す。

他のビデオへダビングする

AV接続ケーブルでつなぐ

ダビングの前に
メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。（お買い上げ時は、「パネル」に設定されています。）

次のボタンを押して画面の表示を消してからダビングしてください。
- 画面表示／タッチパネルボタン（本機）
- 画面表示ボタン（リモコン）
- 「データコード」（本機）
- データコードボタン（リモコン）
- サーチ選択ボタン（リモコン）

消さないでダビングするとテープに記録されてしまいます。

相手側のビデオは以下のどの方式のビデオでも使えます。
8, Hi8, VHS, VHS C, S VHS, S VHS C, β, ED Beta, Mini DV, DV, D

録画側ビデオの音声入力がひとつ(モノラル)の場合
AV接続ケーブル（付属）の黄色のプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

別売りのS映像ケーブルを使うと録画画像がより鮮明になります。
ビデオにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルを接続することをおすすめします。
本機のS1映像端子とビデオのS(S1)映像端子を接続します。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影済みのカセットを入れる。

録画機：ダビングしたいカセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチを「外部入力（ライン）」にする。
詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画をはじめる。

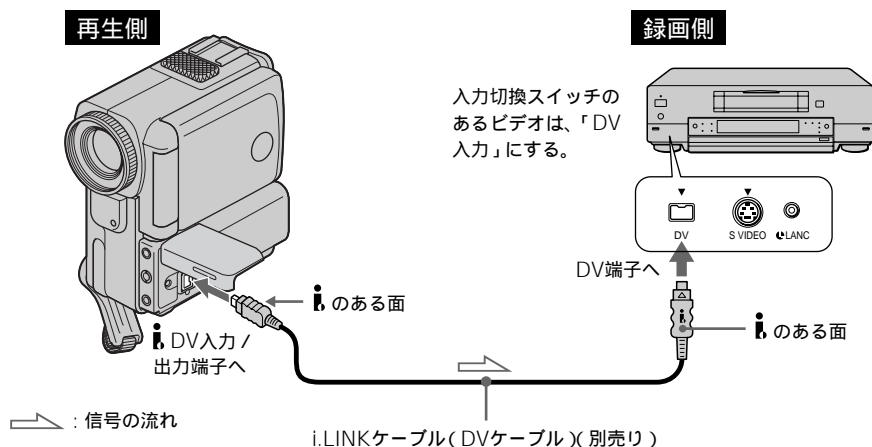
詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

ダビングが終わったら

録画機の録画を停止し、本機での再生を停止する。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）でつなぎダビング編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。
タイトル、画面表示、カセットメモリーの内容、メモリーインデックス画面の文字はダビングできません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです

デジタルダビング編集中は以下の操作はできません。
– デジタルエフェクト
– 再生ズーム
– ピクチャーエフェクト

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、他機で再生したとき画像がぶれることがあります。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影済みのカセットを入れる。
録画機：ダビングしたいカセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチがある場合は、「DV入力」にする。詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画をはじめる。

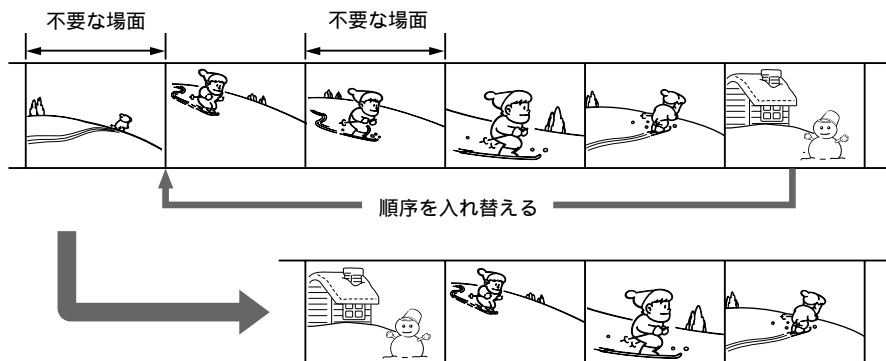
ダビングが終わったら

録画機の録画を停止し、本機での再生を停止する。

必要な場面を選びダビングする

– デジタルプログラムエディット

録画済みのテープから必要な場面（プログラム）を選び、お好みの順番でつなぎ合わせ、録画機を操作せずに別のテープに簡単にダビングできます。

場面はフレーム単位で選べます。

ご注意

- タイトル、画面表示、カセットメモリーの内容はダビングできません。
- i.LINKケーブル（DVケーブル）で接続したとき、録画機の機種により正しく操作できない場合があります。本機の「コントロール選択」を「リモコン」に設定してください。
- デジタルプログラムエディットの操作信号は、デジタルI/O／◐(リモート)端子では送信できません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐと
デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

デジタルプログラムエディットには、次の準備が必要です。

準備1： 録画機をつなぐ。（56ページ）

準備2： 録画機を操作するための設定をする。（57、60ページ）

準備3： 録画機のタイミングを補正する。（61ページ）

上記の準備を1度行なった録画機を使用する場合は準備2、3は不要です。

操作は以下の順で行ないます。

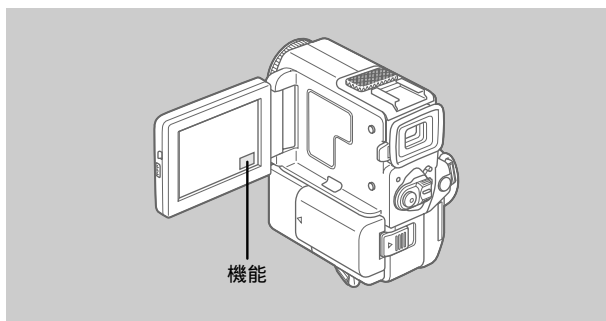
操作1： プログラムを作る。（63ページ）

操作2： デジタルプログラムエディットを実行する（ダビングする）。（66ページ）

準備1 録画機をつなぐ

AV接続ケーブル、i.LINKケーブル（DVケーブル）どちらでも接続できます。AV接続ケーブルの場合は54ページ、i.LINKケーブル（DVケーブル）の場合は55ページの図のように接続します。

準備2 録画機を操作するための設定をする ー AV接続ケーブルで接続した場合

AV接続ケーブルで接続したときは、本機の赤外線発光部から録画機のリモコン受光部に録画機を操作するための信号を送ります。
正しく信号を送るために、以下の設定（❶〜❹）を行ってください。

❶ リモコンコードを設定する

① 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

② 録画機の電源を入れ、入力切換を選ぶ。

録画機がビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

③ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

④ メニューでETCの項目の「エディット設定」を選び、「決定」を押す。（87ページ）

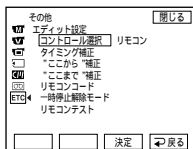
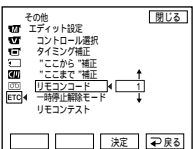
次のページへつづく

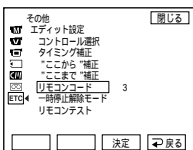
リモコンコードについて
本機には、下記のリモコンコードが記憶されています。お使いの録画機のリモコンコードを設定してください。お買い上げ時、本機は「1」に設定されています。

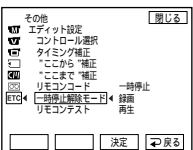
メーカー	リモコンコード
ソニー	1、2、3、4、5、6
アイワ	47、54、55、57、60、64
キヤノン	97
コルディナ	34
富士通	34
フナイ	61、80
ゴールドスター	47
日立	43、47、75
ビクター	12、13、14、21
マルマン	26
三菱	22、27、28、29
ＮＥＣ	35、65、66、67
オリオン	69、72
松下	16、18、19、78、79、96
フィリップス	83
パイオニア	31
三洋	36、38、46
シャープ	88、89、90、98
東芝	39、40、68
ユピテル	47

リモコンコードが対応していない機種は、デジタルプログラムエディットはできません。

⑤ **「コントロール選択」を選び「決定」を押す。**

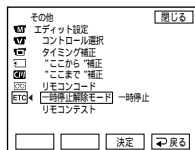
⑥ **「リモコン」を選び「決定」を押す。**

⑦ **「リモコンコード」を選び「決定」を押す。**

⑧ **録画機のリモコンコード（番号）を選び「決定」を押す。**

「リモコンコードについて」を参照する。

❷ **録画機の録画一時停止解除モードを設定する**

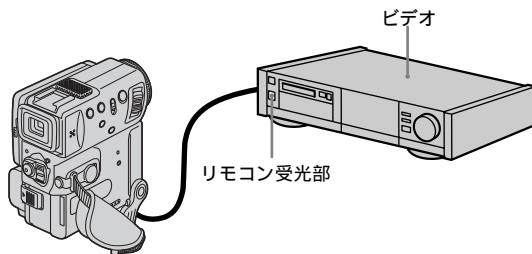
① **「一時停止解除モード」選び「決定」を押す。**

録画一時停止解除モードについて
お使いの録画機で録画一時停止を解除し、録画を始めるときに押すボタンを下記よりお選びください。（ボタンの種類は録画機により異なります。）
それぞれのボタンに合った録画一時停止解除モードを設定してください。

録画機のボタン	録画一時停止解除モード
❚❚（一時停止）	「一時停止」
●（録画）	「録画」
►（再生）	「再生」

② 録画機の録画一時停止解除モードを選び「決定」を押す。

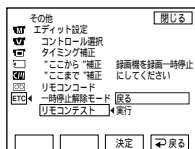
詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 再生機と録画機の向きを合わせる

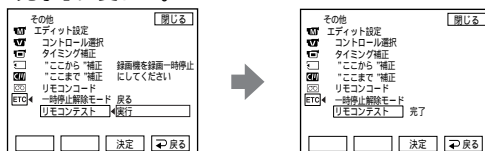
本機の赤外線発光部と録画機のリモコン受光部を向かい合わせる。

機器の距離は約30cm離し、間に障害物等がない状態にする。

❹ 録画機が正しく動作するか確認する

① 録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

② 「リモコンテスト」を選び「決定」を押す。

次のページへつづく

③ 「実行」を選び「決定」を押す。

録画機が録画を開始すれば、正しく設定されている。
終了すると本機の液晶画面またはファインダーの表示は「完了」に変わる。

録画機が正しく動作しないとき

- 「リモコンコードについて」のコードをご覧の上、「リモコンコード」または「録画一時停止解除モード」を設定し直す。
- 本機と録画機を約30cmまで離す。
- 録画機の取扱説明書をご確認ください。

ご注意

i.LINKケーブル（DVケーブル）接続で録画機の操作がうまく行なえないときは
接続はそのままで、57ページの準備2からやり直してください。映像／音声はデジタル信号で送られます。

準備2　録画機を操作するための設定をする
ー i.LINKケーブル（DVケーブル）で接続した場合

i.LINKケーブル（DVケーブル）で接続したときはこの設定を行ないます。

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 録画機の電源を入れ、入力切換を「DV入力」にする。

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）**

❹ **メニューでETCの項目の「エディット設定」を選び「決定」を押す。（87ページ）**

❺ **「コントロール選択」を選び「決定」を押す。**

❻ **「i.LINK」を選び「決定」を押す。**

ご注意

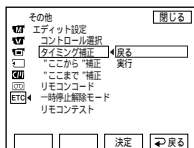
- タイミング補正用の画像が約50秒間録画されます。
- テープの頭から記録すると、始めの部分が切れることがあります。10秒ほどテープを送ってから記録してください。

準備3 録画機のタイミングを補正する

筆記具をご用意ください。
本機の動作と録画機の動作のタイミングの誤差を補正します。
本機のテープを取り出しておいてください。

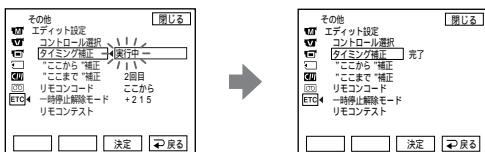
❶ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。**

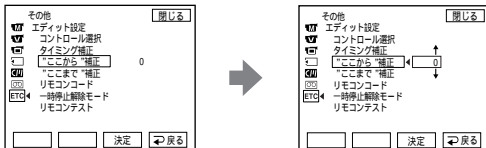
「コントロール選択」で「i.LINK」を選んだときは不要です。

❸ 「タイミング補正」を選び「決定」を押す。

❹ 「実行」を選び「決定」を押す。

録画機にタイミング補正用のカウンターが5回分入った画像が録画される。

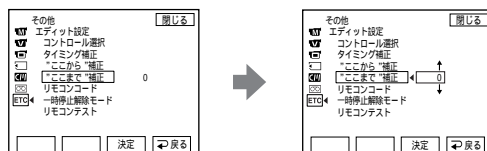
終了すると本機の液晶画面またはファインダーの表示は「実行中」の点滅から「完了」の点灯に変わる。

❺ 録画機のカセットを巻き戻し、スロー再生する。

5回分の「ここから」のカウンター数値と「ここまで」のカウンター数値が表示される。これらのカウンター数値の中から、各回ごとに「ここから」の最初に表示される数値と「ここまで」の最後に表示される数値をメモする。

❻ 「ここから」の5回分の数値と「ここまで」の5回分の数値それぞれの平均値を計算する。

❼ 「”ここから ”補正」を選び「決定」を押す。

❽ 「ここから」の平均値の数値を選び「決定」を押する。

録画開始のタイミングが補正される。

❾「”ここまで”補正」を選び「決定」を押す。

❿「ここまで」の平均値の数値を選び「決定」を押す。

録画停止のタイミングが補正される。

⓫「⮐戻る」を押して決定する。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

テープの無記録部には
「ここから」「ここまで」の設定はできません。

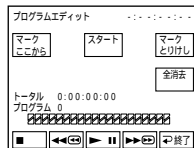
「ここから」と「ここまで」の間に無記録部があると
タイムコードが正しく表示されません。

操作1 プログラムをつくる

❶ 本機に再生するカセットを入れ、録画機に録画するカセットを入れる。

❷「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

❸ メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選び「決定」を押す。（87ページ）

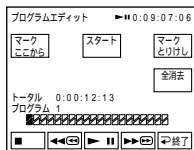
編集する

❹ ビデオ操作ボタンを使って、録画したい部分の始めを探し、再生一時停止にする。
（24ページ）

❺ 画面上の「マークここから」またはリモコンのマークボタンを押す。

最初のプログラム「ここから」が設定され、最初のプログラムマークの上側が水色に変わる。

❻ ビデオ操作ボタンを使って、録画したい部分の終わりを探し、再生一時停止にする。

❼ 画面上の「マークここまで」またはリモコンのマークボタンを押す。

最初のプログラム「ここまで」が設定され、最初のプログラムマークの下側が水色に変わる。

8 手順4〜7を繰り返し、プログラムを設定する。

プログラムが設定されると、プログラムマークが水色に変わる。

最大20プログラムまで設定できます。

一度設定したプログラムを消す

最後に設定したプログラムの「ここまで」、「ここから」の順で消去していきます。

1 「マークとりけし」を押すと、最後に設定したプログラムマークが点滅する。「実行」を押すと、設定が取り消される。

消去を中止する

手順の1で「中止」を押す。

プログラムの全消去

1 メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選ぶ。（87ページ）

2 「全消去」を押と、設定したプログラムマークすべてが点滅する。「実行」を押すと、設定が取り消される。

編集する

全消去を中止する

手順の2で「中止」を押す。

プログラムを終了する

「⮐終了」を押す。

設定したプログラムはテープを取り出さないかぎり記憶されます。

以下の場合には、録画機で録画できません

- カセットが入っていない。
- テープが終わりになっている。
- テープが誤消去防止状態になっている。
- リモコンコードが合っていない。（「リモコン」に設定したとき）
- 録画一時停止解除モードがまちがっている。（「リモコン」に設定したとき）
- プログラムが未設定
- i.LINKケーブル（DVケーブル）を接続していない。（「i.LINK」に設定したとき）
- 接続している録画機の電源が入っていない。

操作2 デジタルプログラムエディットを実行する（ダビングする）

機器の接続と録画機が録画一時停止状態であることを確認する。（i.LINKでの接続のときは不要です。）

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

❶ 「プログラムエディット」を選択し、「スタート」を押す。

❷ 「実行」を押す。

最初のプログラムの始まりをサーチし、ダビングを開始する。このとき、実行中のプログラムマークが点滅する。

本機の液晶画面またはファインダーの表示は、サーチ中は「サーチ中」、録画中は「エディット中」が表示される。

ダビングの終了したプログラムはプログラムマークが水色に点灯する。

ダビングが終わると本機も録画機も自動的に停止する。

エディット中にダビングを中止する

「中止」を押す。

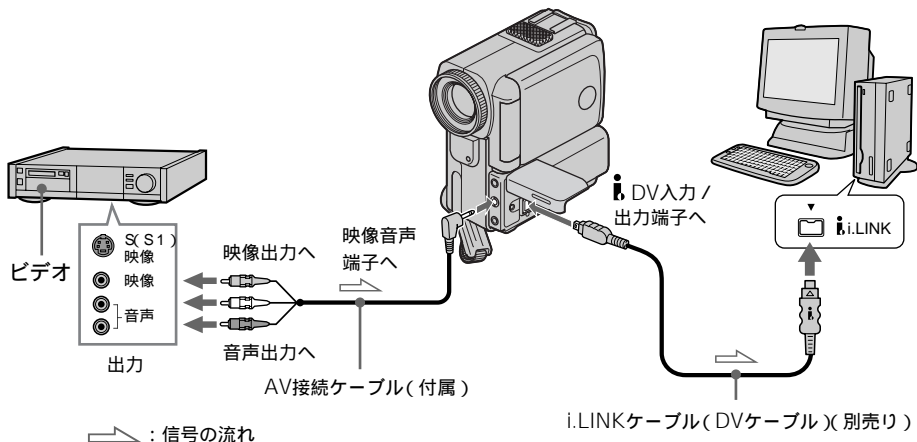
デジタルプログラムエディットを終了する

ダビングが終了すると本機は停止し、画面は「プログラムエディット」の設定画面に戻る。

終了するには、「⮐終了」を押す。

アナログ機器とパソコンをつなげて使う
– デジタル変換機能

本機を通してデジタル信号とアナログ信号の相互変換ができます。

本機の映像／音声端子にアナログビデオ機器などをつなぎi.LINKケーブル（DVケーブル）でパソコンにつなぐと、アナログビデオの映像・音声をパソコンに取り込めます。

ご注意

- ビデオ信号の取り込みや送り出しができるソフトウェアがパソコン側にインストールされている必要があります。
- 本機に入力される映像信号の状態によっては、本機からのDV出力をパソコンに入力した場合、正しいアナログ映像を出力することができないことがあります。受信機によっては色消えやノイズがでることがあります。
- 著作権保護の為の信号（ID-2方式など）が記録されているソフトを再生して本機に入力し、本機から出力された信号を録画したり、パソコンで取り込むことはできません。

アナログビデオ機器の映像・音声をパソコンに取り込む

❶ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **メニューでETCの項目の「画面表示」を「パネル」にする。（87ページ）**

❸ **メニューで📼の項目の「A/V入力→DV出力」を「入」にする。**

❹ **アナログビデオ機器で取り込みたい映像の始めの部分より少し前の位置から再生を始める。**

❺ **パソコンで取り込みを始める。**

取り込む操作は、お使いになるパソコンのソフトウェアによって異なります。詳しくは、お使いになるソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

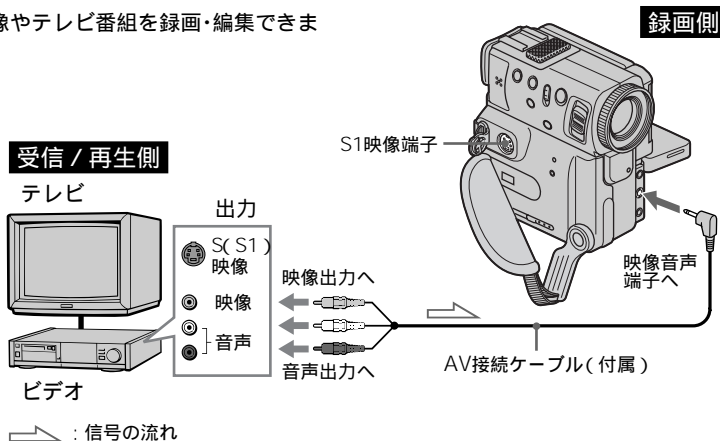
取り込みが終わったら

パソコンで取り込み動作を停止し、アナログビデオ機器の再生を停止する。

編集する

ビデオやテレビから録画する

AV接続ケーブルでつなぐ

本機を録画機として使い、再生側のビデオの画像やテレビ番組を録画・編集できます。

ビデオやテレビの音声出力端子がひとつ(モノラル)の場合
AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

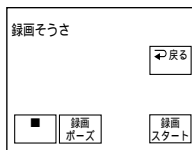
別売りのS映像ケーブルを使うと録画画像がより鮮明になります
ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルを接続することをおすすめします。
本機のS1映像端子とビデオやテレビのS（S1）映像端子を接続します。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

1 カセットを準備する。
本機：録画用カセットを入れる。
ビデオから録画するときは：再生側ビデオに録画ずみのカセットを入れる。

2 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 メニューで ETC の項目の「画面表示」を「パネル」にする。（87ページ）
「閉じる」を押し、機能画面に戻す。

4 「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。（11ページ）

5 本機を録画一時停止にする。
「録画そうさ」を押し、 次に「録画ポーズ」を押す。

ご注意

ビデオやテレビの画像が液晶画面またはファインダーに出ないときは、受信／再生側の出力端子にAV接続ケーブルを接続しているか確認してください。

❻ 再生側のビデオを再生する。または、録画したいテレビ番組を受信する。

ビデオやテレビの画像が本機の液晶画面またはファインダーに出る。

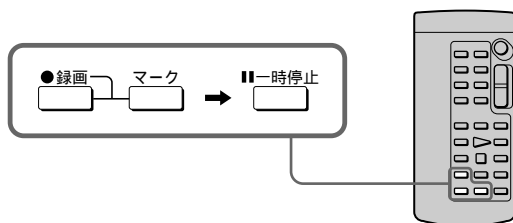
❼ 録画を始める。

録画したい場面で「録画スタート」を押す。

ダビングが終わったら

本機での録画を停止し、再生側のビデオでの再生を停止する。

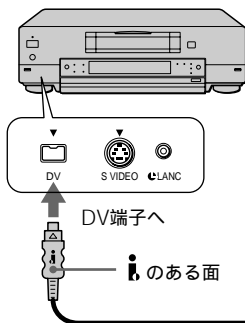
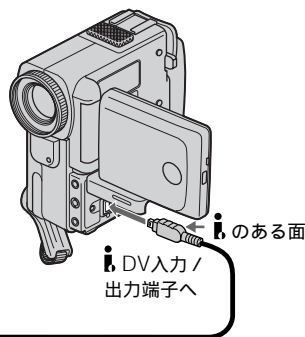
リモコンを使って録画する

手順5で●録画ボタンとマークボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押して本機を録画一時停止にする。手順7で❚❚一時停止ボタンを押して、録画を始める。

編集する

次のページへつづく

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）でつなぎ、本機で録画・編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです

デジタルダビングしているとき
モニター映像に色ムラが出ることがありますが、ダビングされた画像には影響ありません。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、本機で再生したとき画像がぶれることがあります。

❶ **カセットを準備する。**
本機　：ダビングしたいカセットを入れる。
再生機：撮影ずみのカセットを入れる。

❷ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❸ **メニューで ETC の項目の「画面表示」を「パネル」にする。**（87ページ）
「閉じる」を押し、機能画面に戻す。

❹ **「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。**（11ページ）

❺ **本機を録画一時停止にする。**
「録画そうさ」を押し、次に「録画ポーズ」を押す。

録画を始める前に
液晶画面やファインダーに「DV入力」の表示が出るのを確認してください。表示は両方の機器に出ることもあります。

❻ 再生側のビデオ機器を再生する。

再生機の画像が液晶画面またはファインダーに出る。

❼ 録画を始める。

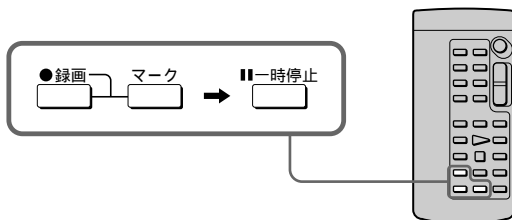
録画したい場面で「録画スタート」を押す。

ダビングが終わったら

本機での録画を停止し、再生側のビデオでの再生を停止する。

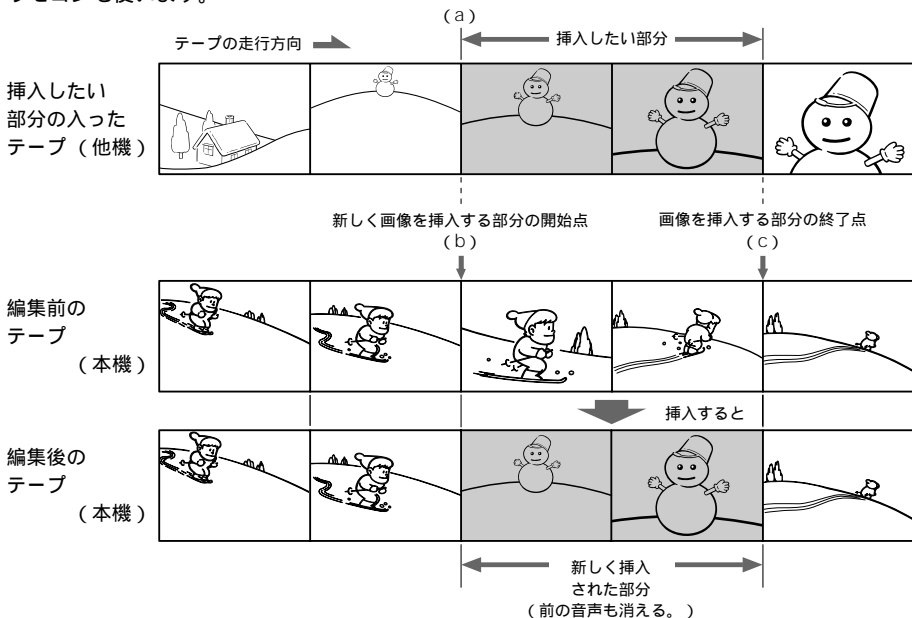
リモコンを使って録画する

手順5で●録画ボタンとマークボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押して本機を録画一時停止にする。手順7で録画したい場面で❚❚一時停止ボタンを押して、録画を始める。

編集する

撮影したテープに新しく画像を挿入する

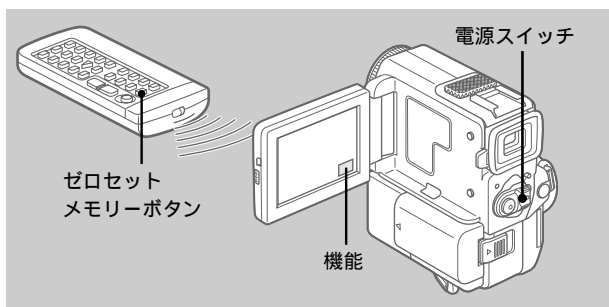
撮影、録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像・音声を挿入（インサート編集）できます。

リモコンも使います。

68ページまたは70ページの接続と準備をし、他機に挿入したい部分の入ったテープを入れておきます。

ご注意

新しく挿入された部分の編集前の映像と音声は消えます。

他のビデオで録画したテープに画像を挿入すると
画質や音質が劣化することがあります（本機以外のDCR-PC5を含む）。本機で録画されたテープに挿入することをおすすめします。

新しく挿入された部分を再生すると
終了点の画像や音声が乱れることがありますが、故障ではありません。
LPモード時は、開始点と終了点の画像と音声が乱れることがあります。

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

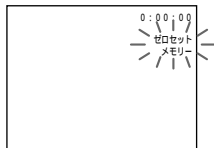
❷ 他機（再生側）で、挿入したい部分（a）の少し前で、再生一時停止状態にする。

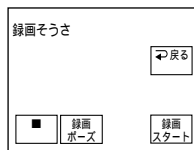
終了点を設定せずに録画するときは
手順3、4をとばします。
終了したいところで■停止ボタンを押します。

ゼロセットメモリー表示は
「機能」を押すと表示されません。

❸ 本機で、挿入部分の終了点（c）を探し、再生一時停止状態にする。

❹ リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。

「ゼロセットメモリー」が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、テープカウンター値が「0:00:00」になる。

❺ 本機で、挿入部分の開始点（b）を探し、録画一時停止状態にする。

「機能」を押してページ3画面を選び、「録画そうさ」を押す。次に「録画ポーズ」を押す。

❻ 他機（再生側）のII一時停止ボタンを先に押し、数秒後に本体の「録画スタート」を押す。

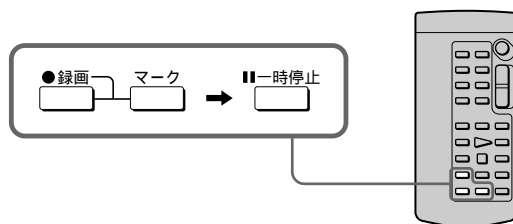
本機の挿入部分に、新たにビデオ（再生側）の映像と音声が記録され始める。
テープカウンター値が「0:00:00」の付近で、本機は自動的に停止になり、ゼロセットメモリーが解除される。

次のページへつづく

終了点の位置を変える

手順5の後でゼロセットメモリーボタンをもう1度押し、「ゼロセットメモリー」表示を消して、手順3からやり直す。

リモコンを使って録画する

手順5で●録画ボタンとマークボタンを2つ同時に押し、すぐにII一時停止ボタンを押して本機を録画一時停止にする。手順6でII一時停止ボタンを押して、記録を始める。

記録済みテープに音声を追加する – アフレコ

録画済みテープの指定した部分に音声を追加できます。撮影時の音声は消えません。

リモコンも使います。

次の3つの方法のいずれかで、音声を録音してください。

ご注意

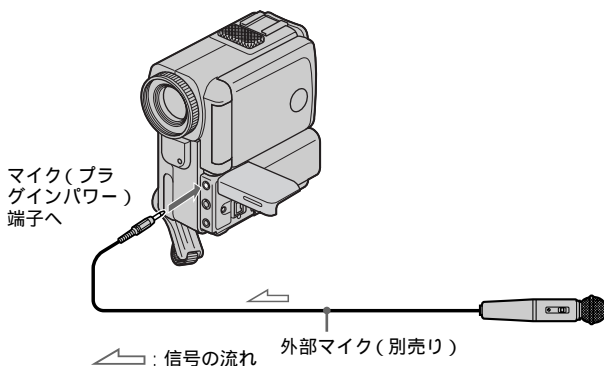
- 16BITモードで記録されたテープには、アフレコできません。（91ページ）
- LPモードで記録されたテープには、アフレコできません。
- i.DV入力／出力端子からはアフレコできません。
- テープの無記録部分にはアフレコできません。
- マイク端子からアフレコするときは、映像音声端子にテレビなどをつないで画像と音声を確認することができます。アフレコする音声はスピーカーから出力されません。テレビかヘッドホンで確認してください。
- 映像音声端子または内蔵マイクでアフレコするときは、S1映像端子、映像音声端子から映像は出力されません。映像は液晶画面またはファインダーで確認してください。アフレコする音声はヘッドホンで確認してください。

すべての接続をすると
追加する音声は、以下の順番で優先されて録音されます。
- マイク（プラグインパワー）端子
- 映像音声端子
- 内蔵マイク

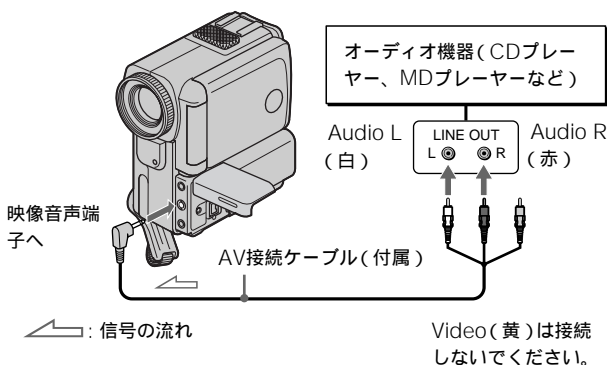
i.LINKケーブル（DVケーブル）が接続されていると
アフレコできません。

他のビデオ（本機以外のDCR-PC5を含む）で録画したテープにアフレコすると
音質が劣化することがあります。本機で録画されたテープにアフレコすることをおすすめします。

誤消去防止状態のカセットでは
アフレコできません。誤消去防止つまみを元に戻してください。

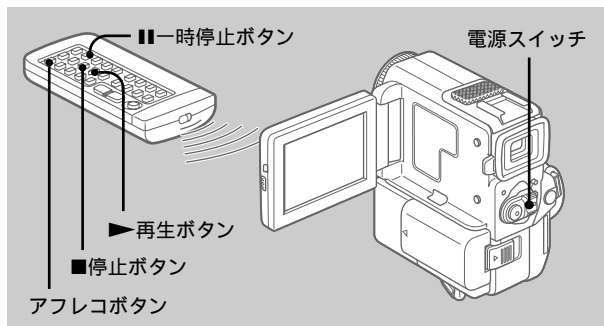
別売りの外部マイクでマイク端子からアフレコする場合

映像音声端子でアフレコする場合

編集する

次のページへつづく

内蔵マイクでアフレコする場合

接続は不要です。

アフレコする

上記のいずれかの接続をして、次の操作をします。

❶ **本機に録画済みカセットを入れる。**

❷ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❸ **アフレコの開始点を決める。**

リモコンの►再生ボタンを押して再生し、アフレコを始めたいところで❚❚一時停止ボタンを押す。

❹ **リモコンのアフレコボタンを押す。**

液晶画面またはファインダー上に緑色の⊖❚❚マークが出る。

より正確にアフレコするには
再生中にアフレコを終了したいところで、あらかじめリモコンのゼロセットメモリーボタンを押しておきます。そのあと手順3からアフレコをはじめると、アフレコの終了点で自動的に録音が止まります。

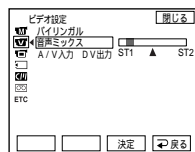
❺ 本機の►IIまたはリモコンのII一時停止ボタンを押すと同時に、オーディオ機器またはマイクで追加する音声を出す。

画像を再生しながら、ステレオ2に追加する音声を記録する。
アフレコ中は画面上に赤色の⊖マークが出る。

❻ アフレコを終了したいところで本機またはリモコンの■停止ボタンを押す。

アフレコした音声を聞く

アフレコしたテープを再生する。

メニューでVの項目の「音声ミックス」を選び、撮影時の音声（ステレオ1）とアフレコした音声（ステレオ2）の音のバランスを調整します。（87ページ）

お買い上げ時はステレオ1の音声のみが出るように設定されています。メニューでバランスを調整しても、電源をはずして約5分たつとバランスはステレオ1の音のみが出る設定に戻ります。

タイトルを入れる

CM のみ　カセットメモリー付きカセットを使うと、撮影中、または撮影後にタイトルを入れられます（インデックスタイトラー機能）。再生すると、タイトルを入れた場面から約5秒間タイトルが出ます。

本機にあらかじめ登録してある8種類のタイトルと、自分で作ったオリジナルタイトル2種類（81ページ）の中から好みのものが選べます。

また、タイトルの色やサイズ、表示位置も選べます。

誤消去防止状態のカセットでは
タイトルを入れられません。誤消去防止ツマミを元に戻してください。

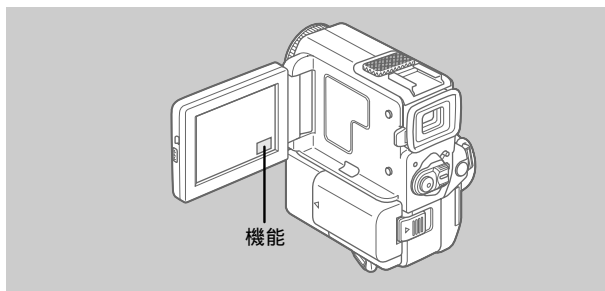
オリジナルタイトルを入れるときは
手順3で「🗀」を選びます。

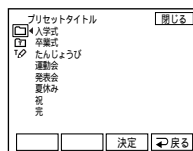
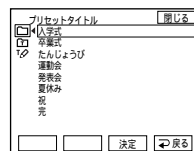
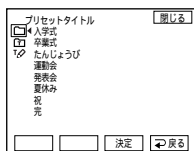
テープの無記録部分には
タイトルを入れられません。

録画した部分の間に無記録部があるテープでは
タイトルが正しく表示されないことがあります。

本機で入れたタイトルは
- インデックスタイトラー機能付きのMini DVビデオでのみ見られます。
- 他機で頭出ししたとき、インデックスデータとして誤検出されることがあります。

タイトルがたくさん打ち込まれている、または他のデータが記録されているテープには
メモリー不足でタイトルを入れられないことがあります。この場合は、不要なデータを消去してください。

タイトルを出したくないとき
メニューで「タイトル表示」を「切」にします。（87ページ）

1 ［カメラモード中］または［再生中］、［再生一時停止中］のとき
「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。（11ページ）

2 **「タイトル」を押す。**
タイトル画面が出る。

3 **「↓」／「↑」を押して「🗀」を選び、「決定」を押す。**

設定表示と表示順

- 「色設定」
  しろ→きいろ→むらさき→あか→みずいろ→みどり→あお
- 「サイズ設定」
  ちいさい↔おおきい
  12文字をこえるタイトルには「おおきい」サイズの設定はできません。
- 「位置設定」
  「ちいさい」サイズは9段階、「おおきい」サイズは8段階から選べます。

1つのカセットに記憶できるタイトルは

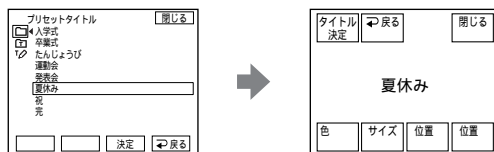
平均5文字で20タイトルです。ただし、カセットメモリーに日付データ／フォトデータ／カセットラベルデータが容量いっぱいに入っているときは、平均5文字で11タイトルです。１つのカセットのカセットメモリーに入る各データの容量は次の通りです。

- 日付データ　6つ
- フォトデータ　12枚
- カセットラベル1つ

カセットメモリーの容量がいっぱいのときは

「カセットメモリーがいっぱいです」のお知らせメッセージが出ます。不要なタイトルを消してください。

❹ 「↓」／「↑」を押して入れたいタイトルを選び「決定」を押す。

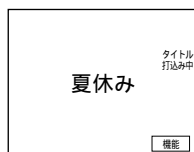
タイトルが表示される。

❺ 「色」または「サイズ」、「位置↓」／「位置↑」を押して、希望の色、サイズ、位置を選択する。

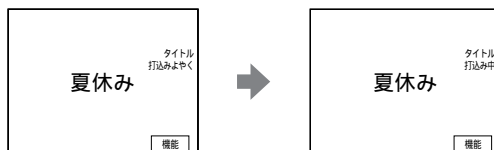
表示されているタイトルの色、サイズ、位置でよいときは手順6にすすむ。

❻ 「タイトル決定」を押す。

❼ 「タイトル打込み」を押す。

[再生中]、[再生一時停止中]、[撮影中] のとき

[打込み中] の表示が出る。約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶される。

[撮影スタンバイ中] のとき

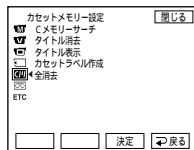
[打込みよやく]の表示が出る。スタート／ストップボタンを押して撮影を始めると同時に[打込み中]の表示になり、約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶される。

次のページへつづく

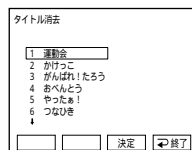
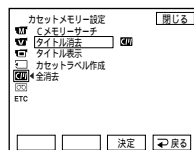
タイトルを消す

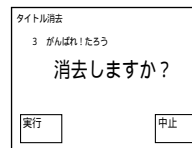
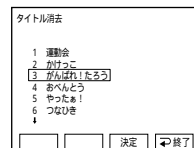
❶ **電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にする。**

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）**

❸ **「メニュー」を押してメニュー画面を出す。**

❹ **「↓」／「↑」を押してカセットメモリー設定を選び、「決定」を押す。**

❺ **「↓」／「↑」を押して「タイトル消去」を選び、「決定」を押す。**

タイトル消去画面が出る。

❻ **「↓」／「↑」を押して消したいタイトルを選び、「決定」を押す。**

「消去しますか？」の表示が出る。

❼ **消去するタイトルを確認し、「実行」を押す。**

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

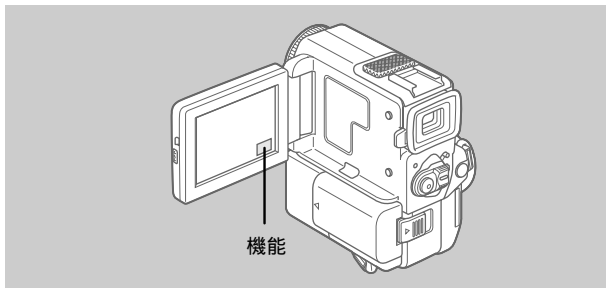
タイトルの消去を中止する

手順7で「中止」を押す。

オリジナルタイトルを作る

20文字以内のタイトルを自分で作って2種類までカセットメモリーに記憶できます。

撮影スタンバイ状態で、カセットを入れてタイトルを作成中に5分以上たつと自動的に電源が切れます
作成中のタイトルは残っています。一度電源スイッチを「切」にしてから、もう1度手順1からやり直してください。
5分以上かかりそうなときは「ビデオ」にしておくかカセットを取り出しておけば電源は切れません。

漢字変換機能はありません
「きごう」にある漢字以外をタイトルに使うことはできません。

❶ ［カメラモード中］または［ビデオモード中］のとき
「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。（**11ページ**）

❷ **「タイトル」を押す。**

❸ **「↓」／「↑」を押して「T✎」を選び、「決定」を押す。**

編集する

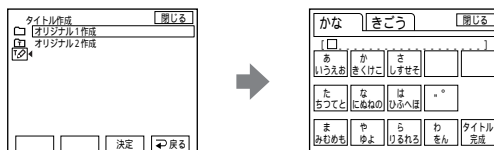
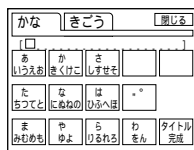
次のページへつづく

文字を消すとき
「←」を押すと、一番後ろの文字が消えます。

空白を入れたいとき
「→」を押します。

同じボタン内の文字を入れたいとき
「→」でカーソルを移動させてから文字を入れます。

小さい「っ」などの文字を選ぶとき
ボタンを繰り返し押してください。

❹ 「↓」／「↑」を押して、「オリジナル1作成」または「オリジナル2作成」を選び、「決定」を押す。

❺ 入力する文字の種類を選ぶ。

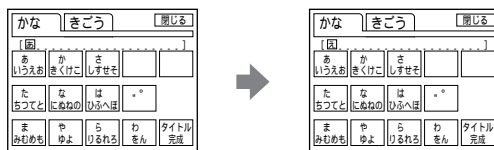
「かな」：ひらがなを入力するとき

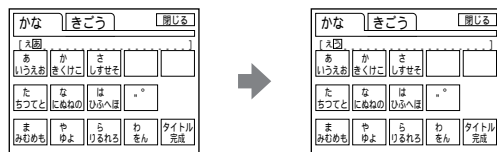
「きごう」：アルファベットや数字を入力するとき

「かな」を選んだとき

「きごう」を選んだとき

❻ 希望の文字列を選び、ボタンを繰り返し押して希望の文字を入力する。

1つのボタンに複数の文字が割り当てられており、ボタンを押す回数によって文字が切り替わる。

❼ **「→」を押してカーソルを右に移動し、2文字目を入力する。**

手順6を繰り返す。

❽ **「タイトル完成」を押す。**

タイトルが記憶される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

作成したタイトルを変更する

手順4で、変更したいオリジナルタイトルを選び、「決定」を押し、文字を選び直す。

カセットになまえを付ける – カセットラベル

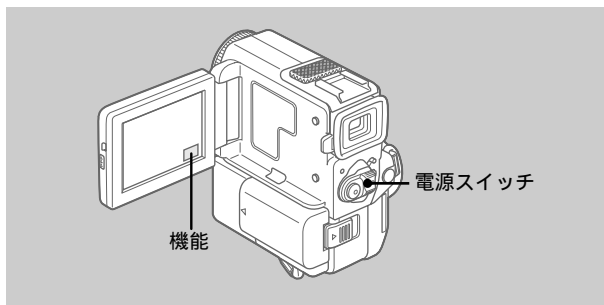
カセットメモリー付きカセットには、10文字までのなまえを付けることができます。

なまえを付けたカセットを入れ、電源スイッチを入れると、付けたなまえが自動的に約5秒表示されます。

誤消去防止状態のカセットでは
なまえをつけられません。誤消去防止ツマミを元に戻してください。

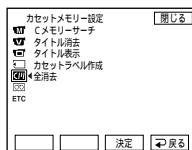
タイトルがたくさん打ち込まれている、または他のデータが記録されているテープには
メモリー不足でカセットになまえを付けられないことがあります。この場合は、不要なデータを消去してください。

タイトルが入れてあると
カセットのなまえが表示されるときに、カセットに記憶されているタイトルが4つまで画面に出ます。

文字を入れるスペースが10文字分よりも少ないとき
カセットメモリー容量がいっぱいになっています。スペースが表示されている分だけ文字を入れることができます。

❶ **なまえを付けたいカセットを入れる。**

❷ **電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にする。**

❸ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）**

❹ **「メニュー」を押してメニュー画面を出す。**

❺ **「↓」／「↑」を押して「」を選び、「決定」を押す。**

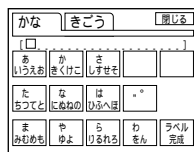
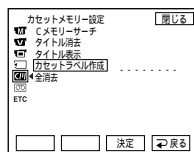
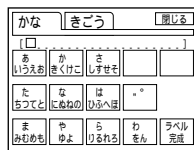
文字を消すとき
「←」を押すと、一番後ろの文字が消えます。

空白を入れたいとき
「→」を押す。

同じボタン内の文字を入れたいとき
「→」でカーソルを移動させてから文字を入れます。

小さい「っ」などの文字を選ぶとき
ボタンを繰り返し押してください。

❻ 「↓」／「↑」を押して「カセットラベル作成」を選び、「決定」を押す。

カセットラベル作成画面が出る。

❼ 入力する文字の種類を選ぶ。

「かな」：ひらがなを入力するとき

「きごう」：アルファベットや数字を入力するとき

「かな」を選んだとき

「きごう」を選んだとき

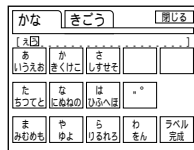
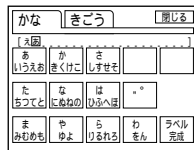
❽ 希望の文字列を選び、ボタンを繰り返し押して希望の文字を入力する。

1つのボタンに複数の文字が割り当てられており、ボタンを押す回数によって文字が切り替わる。

❾ 「→」を押してカーソルを右に移動し、2文字目を入力する。

手順8を繰り返す。

編集する

次のページへつづく

❿ **「ラベル完成」を押す。**

カセットラベルが記憶される。

機能画面に戻す
「閉じる」を押す。

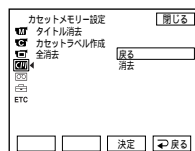
作成したカセットラベルを消す
上の手順6で「←」を選んで消す。

作成したカセットラベルを変更する
カセットラベルを変更したいカセットを入れ、カセットラベルを作るときと同じ手順で作り直す。

カセットメモリーのデータを全て消去する

カセットメモリーに保存されている全てのデータを一度に消去することができます。

❶ ［カメラモード中］または［ビデオモード中］のとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

❷ **メニューで の項目の「全消去」を選び、「決定」を押す。（87ページ）**

❸ **「消去」を選び、「決定」を押す。**

❹ **「消去します」を選び、「決定」を押す。**

「消去中」が出る。
全消去が完了すると「完了」が出る。

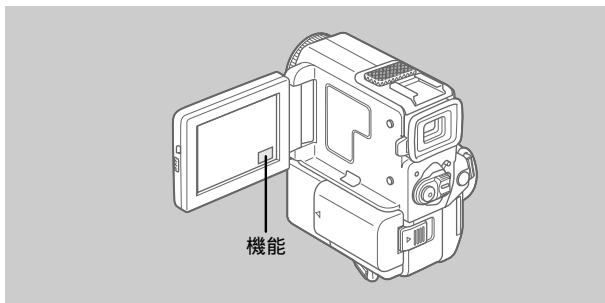
機能画面に戻す
「閉じる」を押す。

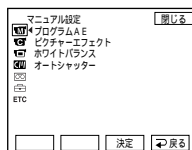
消去を中止する
手順3または4で「戻る」を選び、「決定」を押す。

メニューで設定を変える

画面上のメニュー項目を、「↓」／「↑」で選択し、本機のお買い上げ時の設定を一部変更することができます。次の順で選択します。
メニュー画面→アイコン→項目→設定内容

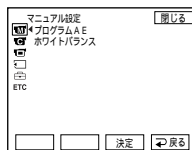
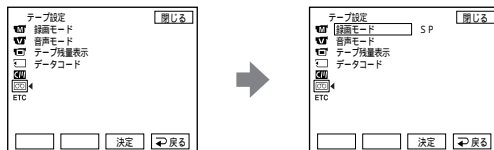
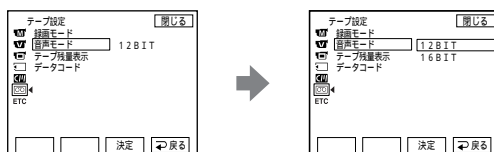
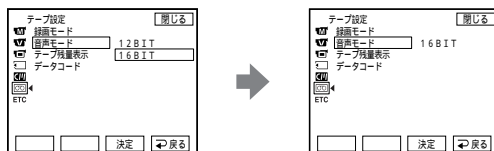
メニュー項目は
以下のアイコン（絵文字）で区別されています。

- マニュアル設定
- カメラ設定
- ビデオ設定
- パネル設定
- メモリー設定
- カセットメモリー設定
- テープ設定
- 初期設定
- ETC その他

❶ ［カメラモード中］、［ビデオモード中］、または［メモリーモード中］のとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
（11ページ）

❷ **「メニュー」を押して、メニュー画面を出す。**

撮影スタンバイ中のとき
（「カメラ」のとき）

「ビデオ」のとき

「メモリー」のとき

次のページへつづく

❸ **「↓」／「↑」を押して希望のアイコンを選び、「決定」を押す。**

❹ **「↓」／「↑」を押して希望の項目を選び、「決定」を押す。**

❺ **「↓」／「↑」を押して設定を切り換え、「決定」を押す。**

❻ **必要なだけ手順3〜5を繰り返す。**

手順3に戻るには、「⮐戻る」を押す。

詳しくは「各設定項目の説明」（89ページ）をご覧ください。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

各設定項目の説明　お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置によって、操作できる項目に違いがあります。本機の画面には、その時使える項目のみ表示されます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
M **プログラム**AE		被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行う。（36ページ）	「カメラ」「メモリー」
ピクチャーエフェクト		画像にテレビや映画のような特殊効果を加える。（33ページ）	「ビデオ」「カメラ」
ホワイトバランス		ホワイトバランスを調整する。（29ページ）	「カメラ」「メモリー」
オートシャッター	●入	電子シャッターが自動でスピードを調節する。	「カメラ」
	切	電子シャッターのスピードを固定する。	
C **デジタルズーム**	●切	デジタルズームを使用しない 10倍までのズームが働く。	「カメラ」
	20×	ズームが10倍を超えると20倍までデジタルズームが働く。（17ページ）	
	120×	ズームが10倍を超えると120倍までデジタルズームが働く。（17ページ）	
ワイドTV	●切	ワイド録画モードにしない。	「カメラ」
	入	ワイド録画モードにする。（30ページ）	
手ぶれ補正	●入	手ぶれ補正が働く。	「カメラ」
	切	手ぶれ補正が働かない。三脚を使用するときに自然な画像になる。	
N.S.**ライト**	●入	NIGHTSHOTライトを使用する。（19ページ）	「カメラ」「メモリー」
	切	NIGHTSHOTライトを使用しない。	
V **バイリンガル**	●切	ステレオ音声または主＋副音声で再生する。（125ページ）	「ビデオ」
	メイン	左音声または主音声で再生する。	
	サブ	右音声または副音声で再生する。	
音声ミックス		音声モードST1↔ST2間のバランスを調節する。（77ページ） ST1 ▲ ST2	「ビデオ」
A/V**入力→**DV**出力**	●切	本機を通してデジタルの画像音声をアナログ出力します。	「ビデオ」
	入	本機を通してアナログの画像音声をデジタル出力します。（67ページ）	

手ぶれ補正は

- 手ぶれ補正が「入」になっていても、手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を取り付けると、手ぶれ補正が効きにくくなります。

手ぶれ補正を解除すると

ハンディカムを左右に動かしたときにその動きを補正しようとするなど、不必要な補正を防ぎます。このとき画面に手ぶれ補正「切」表示が出ます。

次のページへつづく

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
パネルバックライト	●明るさノーマル	液晶画面の明るさを標準にする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	明るい	液晶画面を明るくする。	
パネル色のこさ		液晶画面の色のこさを「↓」／「↑」を押して、バーで調節する。 うすくなる　こくなる	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
連写	●切	連写しない。	「メモリー」
	マルチ画面連写	9連写する。（101ページ）	
画質	●ファイン（FINE）	“ メモリースティック ”を使い、高画質で静止画を記録する。（99ページ）	「ビデオ」「メモリー」
	スタンダード（STD）	“ メモリースティック ”を使い、標準の画質で静止画を記録する。（99ページ）	
スライドショー	—	スライドショーをする。（115ページ）	「メモリー」
全消去	—	プロテクトのかかっていないすべての静止画を消去する。（120ページ）	「メモリー」
フォーマット		本機に入れた“ メモリースティック ”をフォーマット（初期化）する。1「フォーマット」の項目を選び、「決定」を押す。2「フォーマット」を選び、「決定」を押す。3「フォーマットします」を選び、「決定」を押す。「フォーマット中」の表示が点滅する。「完了」と表示されると終了。	「メモリー」
オートフォトコピー	—	静止画をコピーする。（108ページ）	「ビデオ」

「パネルバックライト」は
バッテリー以外の電源使用時は自動的に「明るい」になります。

バッテリーNP-F10/FS11使用時は
「パネルバックライト」で「明るい」を選ぶことはできません。

フォーマットについて
- 市販の“ メモリースティック ”はお買い上げ時にフォーマット（初期化）済みです。あらためてフォーマット（初期化）する必要はありません。
- 「フォーマット中」と表示されている間は電源スイッチを切り換えたりボタン操作をしないでください。
- “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると、フォーマット（初期化）できません。
- フォーマット（初期化）したあとに「メモリースティックを確認してください」と表示されたら、もう一度フォーマット（初期化）してください。
- 「メモリースティックフォーマットエラー」と表示された時は、フォーマット（初期化）してください。

フォーマット（初期化）すると“ メモリースティック ”の記録内容は消去されます。
画像にプロテクトをかけても消去されます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
Cメモリーサーチ	●入	サーチ時にカセットメモリーを使用する。（49ページ）	「ビデオ」
	切	サーチ時にカセットメモリーを使用しない。	
タイトル消去	—	タイトルを消去する。（80ページ）	「ビデオ」「カメラ」
タイトル表示	●入	タイトルを入れてあるところでタイトルを出す。	「ビデオ」
	切	タイトルを出さない。	
カセットラベル作成	—	カセットになまえを付ける。（84ページ）	「ビデオ」「カメラ」
全消去	—	カセットメモリーのデータをすべて消去する。（86ページ）	「ビデオ」「カメラ」
録画モード	●SP	SP（標準）モードで録画する。	「ビデオ」「カメラ」
	LP	SPモードの1.5倍の録画時間で録画する。長時間録画できる。	
音声モード	●12BIT	12ビットモード（2つのステレオ音声）の記録ができる。	「ビデオ」「カメラ」
	16BIT	16ビットモード（高音質で1つのステレオ音声）の記録ができる。	
テープ残量表示	●オート	以下のときにテープ残量を表示する。 • 電源／テープを入れた後、テープ残量が確定してから8秒間。• ►再生ボタンまたは画面表示／タッチパネルボタンを押してから8秒間。 • 早送り、巻き戻し、ピクチャーサーチ中。	「ビデオ」「カメラ」
	入	テープ残量を常に表示する。	
データコード（リモコン操作時）	●日付／カメラデータ	データコードボタンを押したとき、日付・時刻またはカメラデータを表示する。	「ビデオ」
	日付データ	日付・時刻を表示する。	

LPモードについて
- LPモードでは本機で記録したテープを本機で再生することをおすすめします。他機で記録したテープを本機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- LPモードで記録するときは、本機の性能を最大限に生かすためにソニー製のMaster（マスター）DVテープをおすすめします。
- アフレコしたいときはSPモードで録画してください。LPモードで録画したテープにはアフレコできません。
- テープの途中で、SP/LPモードを切り換えると、再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

音声モードを「16BIT」にすると
アフレコできません。

音声モードが16ビットで記録されたテープでは
音声ミックスのバランス調節をすることができません。

次のページへつづく

メニューで設定を変える（つづき）

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
日時あわせ	—	日付・時刻を合わせ直す。（93ページ）	「カメラ」「メモリー」
デモモード	●入	本機の機能を一覧できる。	「カメラ」
	切	デモンストレーションを表示しない。	
ETC 時差補正	—	時差の設定をする。「↓」／「↑」を押して時差を設定すると、時刻も時差に合わせて変わる。時差を0に設定すると、補正前の時間に戻る。	「カメラ」「メモリー」
おしらせブザー	●メロディー	撮影スタート／ストップ時や、誤った操作をしたときにメロディーが鳴る。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	ノーマル	メロディーのかわりにブザーが鳴る。	
	切	メロディー、ブザー音が鳴らない。	
リモコン	●入	付属のワイヤレスリモコンが働く。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	切	リモコンが働かない。他機のリモコンによる誤動作を防ぐ。	
画面表示	●パネル	カウンターなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出す。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	ビデオ出力／パネル	テレビ画面にも画面表示を出す。	
録画ランプ	●入	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯する。	「カメラ」「メモリー」
	切	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。被写体に撮影していることを意識させずに撮影できる。	
プログラムエディット	—	プログラムの作成、実行をする。（56ページ）	「ビデオ」
エディット設定	—	デジタルプログラムエディットでダビングするときに、録画機を操作するための設定とタイミング補正をする。（56ページ）	「ビデオ」

デモモードは
- カセットが入った状態では操作できません。
- お買い上げ時は「スタンバイ」という設定になっています。これは10分後にデモンストレーションが始まる設定です。カセットを入れるか、電源スイッチを「カメラ」以外にするか、メニューで「切」にすれば解除されます。
- デモンストレーション中にタッチパネルを押すと、デモンストレーションが中断され、スタンバイ状態になります。10分後に再びデモンストレーションが始まります。
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にしていると、『“ NIGHTSHOT ”』が表示され、デモンストレーションは始まりません。また、メニューで「デモモード」が選べません。

ご注意

「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」のとき画面表示／タッチパネルボタンを押すと、外部入力ができなくなります。

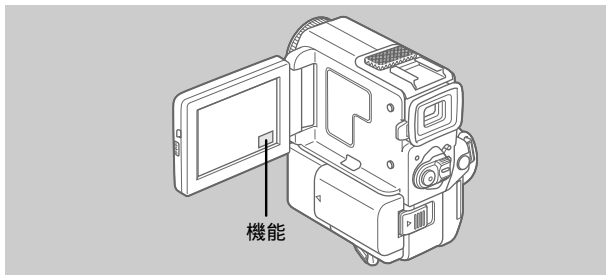
電源をはずして5分以上たつと

「音声ミックス」、「リモコン」、「バイリンガル」、「プログラムAE」、「ホワイトバランス」はお買い上げ時の設定に戻ります。その他のメニュー項目は電源をはずしても設定を保持します。

日付・時刻を合わせ直す

お買い上げ時にあらかじめ日付・時刻は設定されていますが、3ヶ月近く使わなかったときなどに内蔵の充電式ボタン電池が放電して日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから合わせ直してください。（139ページ）

しばらく使わずにいて時計が合っていないとき

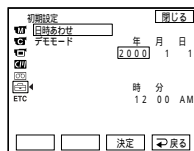
日時を設定しないと
テープと“ メモリースティック ”のデータコードには「– –:– –:– –」が記録されます。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

1 ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
（11ページ）

2 **「メニュー」を押して、メニュー画面を出す。**

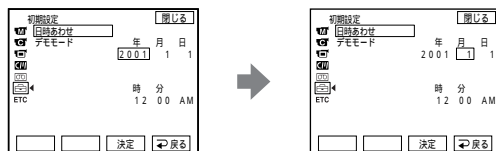
3 **「↓」／「↑」を押して「🧰」を選び、「決定」を押す。**

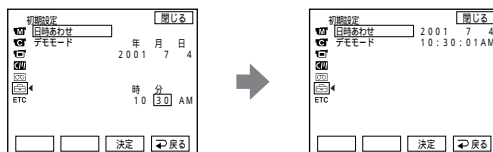
4 **「↓」／「↑」を押して「日時あわせ」を選び、「決定」を押す。**

次のページへつづく

日付・時刻を合わせ直す（つづき）

真夜中、正午は
真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

❺ 「↓」／「↑」を押して「年」を合わせ、「決定」を押す。

年表示は次のように変わる。

❻ 手順5と同様に「月」、「日」、「時」を合わせる。

❼ 「↓」／「↑」を押して「分」を合わせて時報と同時に「決定」を押す。

機能画面に戻す

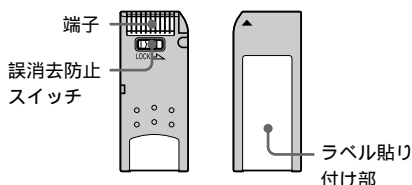
「閉じる」を押す。

“ メモリースティック ”を使う – はじめに

別売りの“ メモリースティック ”は、静止画を記録し、見たい画像を簡単に再生するほか、以下のようなことができます。
ー画像をテープから“ メモリースティック ”、“ メモリースティック ”からテープへ取りこむ。
ー別売りのパソコン接続キットや“ メモリースティック ”用PCカードアダプターを使用し、パソコンに画像データを取りこむ。
ー画像の消去、プロテクト、プリントマーク操作。

画像の圧縮形式（JPEG）
本機は、撮影した画像データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮／記録しています。ファイル拡張子は「. jpg」です。

画像のデータファイル名
次のようになります。
100-0001： 本機の液晶画面またはファインダー上の表示
DSC00001.jpg： パソコンに取り込んだときのパソコン画面上の表示

“ メモリースティック ”について

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録、消去ができなくなります。
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  ー読み込み中、書き込み中に“ メモリースティック ”を抜いたり、本機の電源を切った場合
  ー静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 端子部に触れたり、金属を接触させないでください。
- ラベルの貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  ー高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  ー直射日光のあたる場所
  ー湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は、“ メモリースティック ”を付属の収納ケースに入れてください。

パソコンでフォーマット（初期化）した“ メモリースティック ”は

パソコン（Windows OS/Macintosh OS）でフォーマットした“ メモリースティック ”は、本機での動作を保証致しません。

画像の互換性について

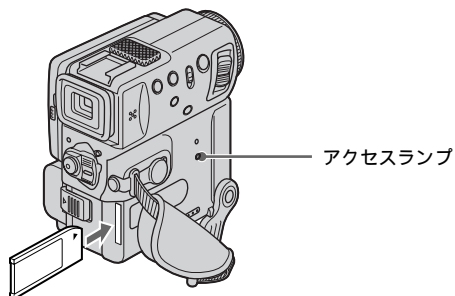
- 本機は日本電子工業振興会にて制定された統一規格“ Design rules for Camera File systems ”に対応しています。
  統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900, DSC-D700/D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した“ メモリースティック ”が本機で使えないときは、90ページの手順にしたがい本機でフォーマット（初期化）をしてください。
  フォーマットすると“ メモリースティック ”に記録してあるデータは全て消去されますので、ご注意ください。

次のページへつづく

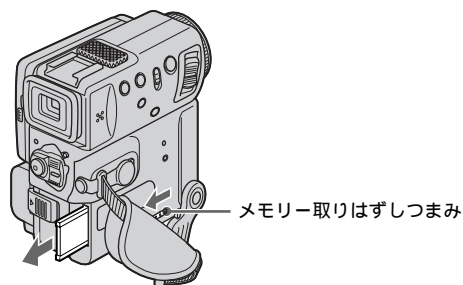
アクセスランプ点灯中および点滅中は
データの読み込み、または書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。またこのとき電源を切ったり、“ メモリースティック ”やバッテリーを取りはずすと画像データが壊れることがあります。

「メモリースティックエラー」と表示されたときは
“ メモリースティック ”が壊れているか、ファイルの形式が正しくありません。“ メモリースティック ”を交換してください。

“ メモリースティック ”を入れる

“ メモリースティック ”を、▲マークを上にして奥まで押しこむ。

“ メモリースティック ”を取り出す

メモリー取りはずしつまみを矢印の方向へずらす。

ご注意

- タッチパネルを使うときは、液晶画面の裏側をささえながら親指で押すか、人差し指で軽く押してください。ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。
- 液晶画面にはぬれた手で触れないでください。
- 「機能」が表示されていないときは、液晶画面を軽く押すと表示されます。液晶画面の表示は、本機の画面表示／タッチパネルボタンを押して出したり消したりすることができます。
- 押したボタンが動作しないときは調節(キャリブレーション)が必要です。(140ページ)

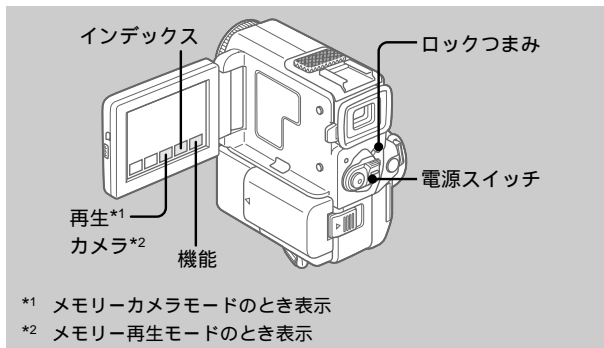
各々の項目が設定されているときは
緑色のバー表示が項目の上に出ます。

選択できないボタンは
グレー表示になります。

タッチパネルは
ファインダーを見ながら操作することもできます。
(122ページ)

タッチパネルの使い方

操作に必要なボタンが液晶画面に表示されます。指で直接ボタンを押して操作します。

*1 メモリーカメラモードのとき表示
*2 メモリー再生モードのとき表示

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**

ロックつまみが左側になっているときは右側(解除)にする。

❷ **「開く」ボタンを押して、液晶画面を開ける。**

操作に必要なボタンが出る。

メモリーカメラモードのとき

メモリー再生モードのとき

2つのモードは「再生」ボタンまたは「カメラ」ボタンを押すことで入れ替わります。リモコンでも操作できます。

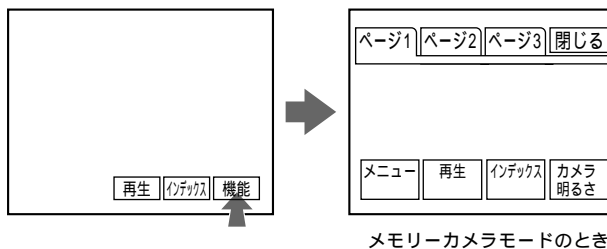
「機能」を押すと
液晶画面に操作ボタンが現れます。
［メモリーカメラモード］
ページ1画面のとき
- 「メニュー」
- 「再生」
- 「インデックス」
- 「カメラ明るさ」

［メモリーカメラモード］
ページ2画面のとき
- 「パネル明るさ」
- 「再生」
- 「インデックス」

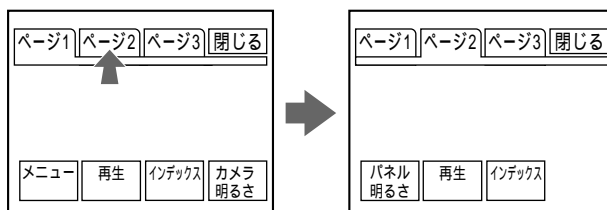
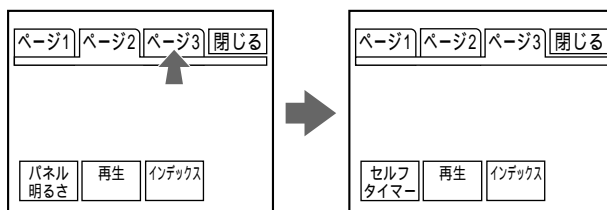
［メモリーカメラモード］
ページ3画面のとき
- 「セルフタイマー」
- 「再生」
- 「インデックス」

［メモリー再生モード］
ページ1画面のとき
- 「メニュー」
- 「カメラ」
- 「インデックス」
- 「消去」
- 「＋」
- 「－」

［メモリー再生モード］
ページ2画面のとき
- 「パネル明るさ」
- 「カメラ」
- 「インデックス」
- 「再生ズーム」
- 「＋」
- 「－」

［メモリー再生モード］
ページ3画面のとき
- 「データコード」
- 「カメラ」
- 「インデックス」
- 「＋」
- 「－」

❸ 「機能」を押す。
操作に必要なボタンが出る（ページ1画面）。

メモリーカメラモードのとき

❹ 「ページ2」を押す。
操作に必要なボタンが出る（ページ2画面）。

❺ 「ページ3」を押す。
操作に必要なボタンが出る（ページ3画面）。

❻ 希望の項目を押す。
詳しくは各機能の説明をご覧ください。

設定を決定する
「⏎決定」を押す。

設定を解除する
「⏎切」を押す。ページ1／ページ2／ページ3画面に戻る。

機能画面に戻す
「閉じる」を押す。

ご注意

画像によっては、画質モードを変えても画質に差がないことがあります。

画質モードの違いは
画像はJPEGという方式で圧縮処理をしてから記録されます。記録されるときに割り当てられるメモリー容量は画質モードにより、次のようになります。
（画素数は、画質モードに関係なく640×480で、圧縮前のデータ量は約600Kバイトです。）

ファインモード	約100Kバイト
スタンダードモード	約 60Kバイト

1枚の“メモリースティック”に記録できる枚数の目安
画質モードの設定および被写体の状況で最大撮影枚数が異なります。

4Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約40枚
スタンダード	約60枚

8Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約81枚
スタンダード	約122枚

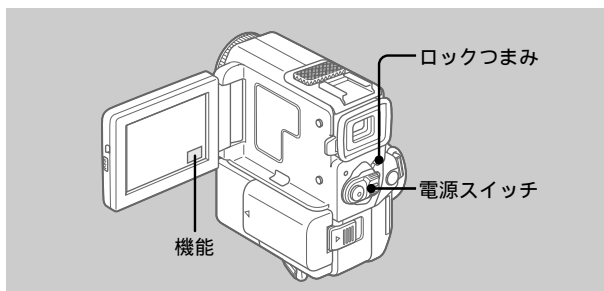
16Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約164枚
スタンダード	約246枚

32Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約329枚
スタンダード	約494枚

64Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約659枚
スタンダード	約988枚

画質モードは
再生時は表示されません。

画質モードを選ぶ

あらかじめ静止画記録時の画質を選んで記録できます。お買い上げ時は「ファイン」に設定されています。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。（97ページ）

❸ メニューで[アイコン]の項目の「画質」を選び、希望の画質を選ぶ。

画質モードについて

設定	表示	意味
ファイン	FINE	画質を優先するときに使います。約1/6に圧縮されます。
スタンダード	STD	標準の画質です。約1/10に圧縮されます。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

“ メモリースティック ”に静止画を撮る – メモリーフォト撮影

静止画を“ メモリースティック ”に記録します。

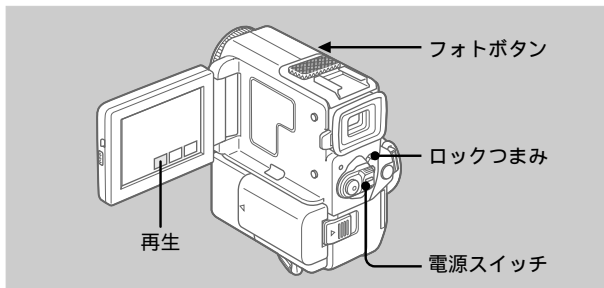
9枚の静止画を連写することもできます。（マルチ画面連写）

電源スイッチを「メモリー」にすると
以下の機能が使えません。

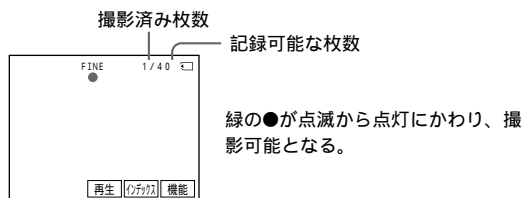
- ワイドTV
- デジタルズーム
- 手ぶれ補正
- SUPER NIGHTSHOT
- フェーダー
- ピクチャーエフェクト
- デジタルエフェクト
- タイトル
- キャンドルモード（表示が点滅します）
- スポーツレッスンモード（表示が点滅します）

静止画を記録中は
電源を切ったりフォトボタンを押したりすることはできません。

リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

手順2でフォトボタンを軽く押すと
画像が瞬間的にまたたきますが、異常ではありません

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。
電源ランプが点灯する。
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ フォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。
画像の明るさとフォーカスが固定され、撮影が可能になる。撮影するとき、明るさとフォーカスは画面の中央部分の被写体に合わせて調整されます。

❸ フォトボタンを深く押し込む。

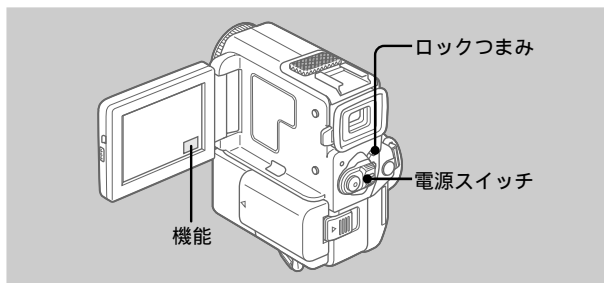
「カシャ」とシャッター音がして、画像が静止画になる。バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを押し込んだときの画像が“ メモリースティック ”に記録される。

ビデオフラッシュライト（別売り）は
マルチ画面連写をしているときは使えません。

連続して撮る（連写）

あらかじめ下記の設定をしてメモリーフォト撮影をすると、マルチ画面連写ができます。

マルチ画面連写
約0.5秒間隔で9枚の静止画を連続して撮影し、9分割された1つの画面に表示します。（表示：▦）

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。（97ページ）**

❸ **メニューで メモリー設定の「連写」を「マルチ画面連写」にする。**

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

“ メモリースティック ”の容量がいっぱいになると

「メモリースティックのメモリーがいっぱいです」と表示され、メモリーフォト撮影は終了します。

次のページへつづく

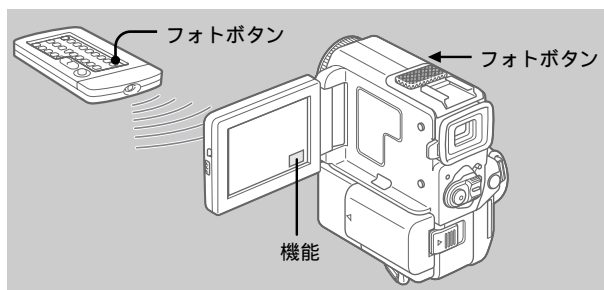
ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー“ メモリースティック ”フォト撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切」か「ビデオ」にしたとき。

画像の確認

セルフタイマー撮影をするとき、本体のフォトボタンを軽く押して、画像を確認できます。深く押し込むとセルフタイマー撮影が始まります。

セルフタイマー“ メモリースティック ”フォト撮影

セルフタイマーを使って自分の静止画を撮影することができます。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。

❸「セルフタイマー」を押す。

セルフタイマー表示⏲が出る。

❹ フォトボタンを深く押し込む。

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

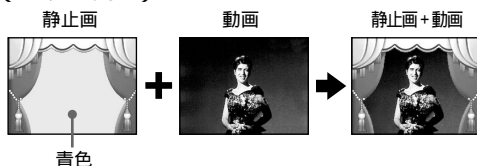
セルフタイマーを止めるとき

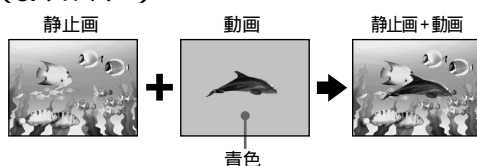
撮影スタンバイ中にもう1度「セルフタイマー」を押す。

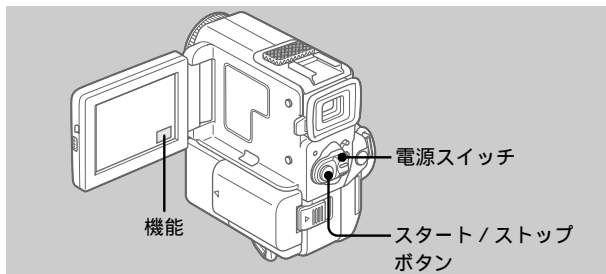
リモコンを使って撮影を中断することはできません。

静止画を重ねて撮る – メモリーミックス

“ メモリースティック ”に記録してある静止画を、カメラで撮影している動画に重ねることができます。

M. クロマキー（メモリークロマキー）
イラストや枠などの静止画を使い、静止画の青色の部分を抜いて動画と重ねる。

M. ルミキー（メモリールミキー）
手書きイラストやタイトルなどの静止画を使い、静止画の明るい部分を抜いて動画に重ねる。旅行やイベントの前にあらかじめタイトルを“ メモリースティック ”に入れておくと便利です。

C. クロマキー（カメラクロマキー）
背景などの静止画に動きのある被写体を重ねる。(青色を背景に被写体を撮影し、青色の部分を抜く。)

M.オーバーラップ（メモリーオーバーラップ）
オーバーラップフェーダーと同様に、“ メモリースティック ”に記録してある静止画から、カメラで撮影している動画にフェードインをする。

撮影中は
モードを選び直すことはできません。

- あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。
- 記録用のミニDVテープを入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「カメラ」にする。**

❷ ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
(11ページ)

“メモリースティック”を使う

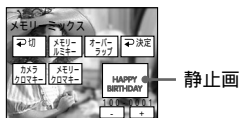
次のページへつづく

ご注意

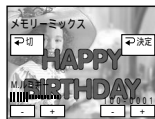
重ねる静止画に白い部分が多いと、小画面で表示したときにはっきりと見えないことがあります。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
本機で再生できないことがあります。

❸ 「メモリーミックス」を押す。

最後に撮影した静止画、または最後に合成した静止画が画面の右下に出る。

❹ 画面右側またはリモコンの「−」／「＋」を押して、重ねたい静止画を選ぶ。

−：前の画像を出すとき
＋：次の画像を出すとき

❺ 希望のモードを選ぶ。

静止画が撮影スタンバイ中の動画と重なる。

静止画をそのままミニDVテープに記録するには
M. ルミキーモードで、画面左側の「−」／「＋」を押してバー表示を右側いっぱいまで増やします。

❻ 画面左側の「−」／「＋] を押して効果を調節し、「⮐決定」を押す。

ページ1画面に戻る。

調節する内容は以下の通り。

M. クロマキー	静止画の、青色の抜き具合。
M. ルミキー	静止画の、明るい部分の抜き具合。
C. クロマキー	動画の、青色の抜き具合。

M.オーバーラップは調節できません。

バー表示を小さくするほど効果が大きくなる。

❼ 「閉じる」を押して、機能画面に戻る。

ご注意

メモリーオーバーラップを選ぶと、静止画を選び直せません。一度「⮐切」を押し、メモリーオーバーラップを解除してから選び直してください。

❽ スタート／ストップボタンを押して撮影を始める。

静止画を選び直す

手順6の後で画面右側の「－」／「＋」を押す。

モードを選び直す

手順5の後で「⮐切」を押す。手順2に戻る。

メモリークロマキー／メモリールミキー／カメラクロマキー／メモリーオーバーラップを解除する

「⮐切」を押す。ページ1画面に戻る。

ミニDVテープの画像を静止画として取りこむ

ミニDVテープに記録された画像を、“ メモリースティック ”に静止画として記録することができます。

また、外部入力されている画像を取りこんで、“ メモリースティック ”に静止画として記録することもできます。

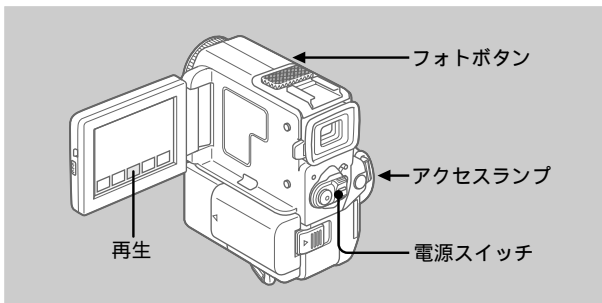
アクセスランプ点灯中および点滅中は
絶対に本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“ メモリースティック ”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

画面に「メモリースティックを確認してください」と表示されたら
フォーマットの形式が違うなど本機で認識できない“ メモリースティック ”を使用しています。フォーマット形式をご確認ください。

再生中にフォトボタンを軽く押すと
テープは一時停止します。

ミニDVテープに記録された音声は
記録できません。

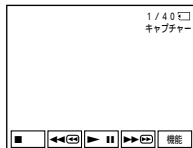
タイトルは
記録できません。フォトボタンを押し込んで画像を記録しているときは、タイトルは表示されません。

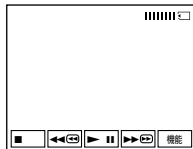
リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

- 録画済みのミニDVテープを入れておいてください。
- あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **► II 再生ボタンを押す。**

ミニDVテープの画像が映る。

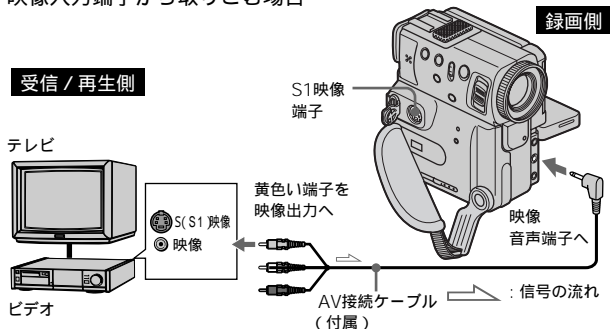
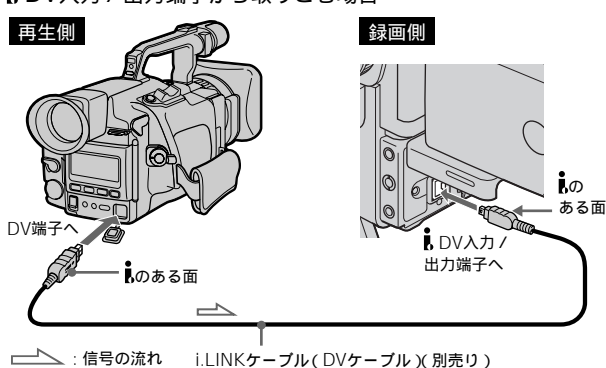
❸ **画像を取り込みたい部分でフォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。**

ミニDVテープの画像が一時停止する。このとき記録はされません。

❹ **フォトボタンを深く押し込む。**

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを押し込んだときの画像が“ メモリースティック ”に記録される。ミニDVテープの画像は再生に戻る。

別売りのS映像ケーブルを使うと
録画画像がより鮮明になります。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色い端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルを接続することをおすすめします。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

他機をつないで静止画を取りこむ

映像入力端子から取りこむ場合

DV入力／出力端子から取りこむ場合

❶ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にして、メニューでETCの項目の「画面表示」を「パネル」にする。**

❷ **メニューでVTRの項目の「A/V入力→DV出力」を「切」にする。**

❸ **他機のビデオなどで再生を始める。または録画したいテレビを受信する。**
他機の画像が液晶画面またはファインダーに映ります。

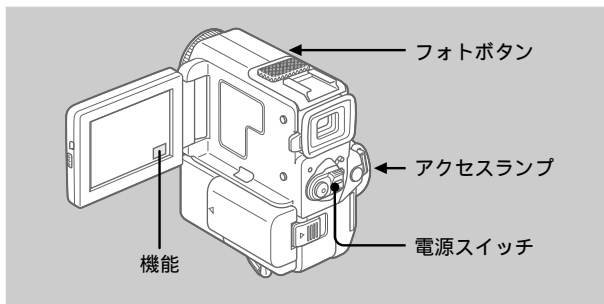
❹ **106ページの手順3～4を行う。**

ミニDVテープの静止画を自動記録する – オートフォトコピー

サーチ機能を使って、ミニDVテープに記録されている静止画のみを“ メモリースティック ”に順次取りこんで、記録することができます。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
絶対に本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“ メモリースティック ”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

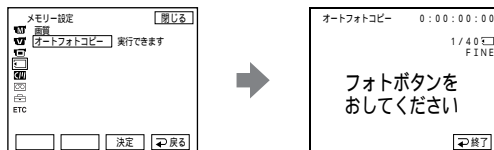
ミニDVテープの静止画をすべてコピーしたいときは
ミニDVテープを最初まで巻き戻してから、コピーを行ってください。

“ メモリースティック ”の誤消去防止つまみが「LOCK」になっていると
「実行できません」と表示されます。

- 録画済みのミニDVテープを入れて、巻き戻しておいてください。
- あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

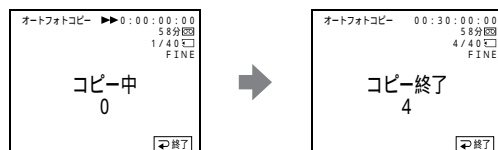
❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。（11ページ）

❸ メニューで の項目の「オートフォトコピー」を選び「決定」を押す。（87ページ）

「フォトボタンをおしてください」の表示が出る。

途中で“ メモリースティック ” を入れかえると
前の“ メモリースティック ” に記録した画像データの続きの画像から記録し始めます。

❹ フォトボタンを強く押し込む。

ミニDVテープの静止画が“ メモリースティック ”に記録される。コピーされた静止画の数が表示され、コピーが終了すると、「コピー終了」の表示が出る。

コピーを中止する／終了する

「⮐終了」を押す。

機能画面に戻す

「⮐終了」を押すと、ページ1画面に戻る。そのあと「閉じる」を押す。

“ メモリースティック ”の容量がいっぱいになると

「メモリーフル」と表示され、コピーは終了します。
「⮐終了」を押し“ メモリースティック ”を入れ換え、もう1度手順2から操作してください。

静止画を見る – メモリーフォト再生

“ メモリースティック ”に記録してある静止画を見ることができます。

また、インデックス表示をすると、画像を6枚ずつ表示することができます。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ 「再生」を押す。（97ページ）

最後に撮影した画像が出る。

❸ 本体またはリモコンの「–」／「+」を押して、静止画を選ぶ。

–：前の画像を見るとき

＋：次の画像を見るとき

メモリーフォト再生を止める

「カメラ」を押す。

データファイル名について
- ディレクトリ構造がDCF98規格に準拠していないと、ディレクトリは表示されません。
- ファイルがDCF98規格に準拠していないと「メモリースティックディレクトリーエラー」と表示されることがあります。このとき、再生は可能ですが、記録することはできません。
- データファイル名が点滅したときは、ファイルが壊れているか、本機で扱えないファイル形式です。

テレビで見るときは
- あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでおいてください。
- テレビや液晶画面でメモリーフォト再生をすると、画質が劣化しているように見えることがありますが、故障ではありません。データ上は問題ありません。
- テレビの音量を下げておいてください。テレビのスピーカーから「ピー」という音（ハウリング）が出ることがあります。

撮影日時は
データコードボタンを操作することにより見ることができます。ただし、カメラデータを見ることはできません。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
本機で再生できないことがあります。

静止画は
ページ1／ページ2／ページ3画面上でも、「–」／「+」を押して選ぶことができます。

静止画再生中の画面表示

画像を6枚ずつ表示する（インデックス表示）

撮影した画像を6枚ずつ一度に再生できます。画像を検索するときなどに便利です。

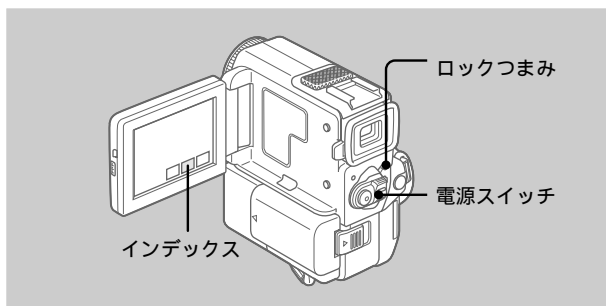
❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

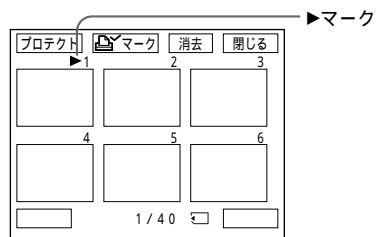
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

ご注意

インデックス表示をしているときの画像右上の番号は、“メモリースティック”の記録順を示す番号です。データファイル名（95ページ）とは異なりますのでご注意ください。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
インデックス表示されない場合があります。

画面表示を消すには
画面表示／タッチパネルボタンを押す。

❷ 本機またはリモコンの「インデックス」を押す。

インデックス表示がされる。インデックス表示をする前に映っていた画像に赤色の▶マークが表示される。

前の6枚を見るときは「←」を押す
次の6枚を見るときは「→」を押す

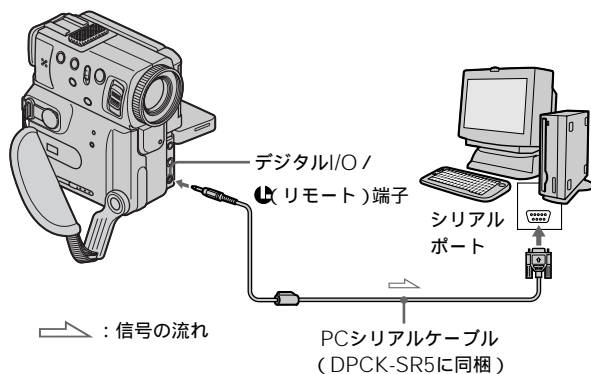
機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

1枚の表示（シングル表示）に戻す

表示したい画像を押す。

“ メモリースティック ”の画像をパソコンに取り込む

別売りのパソコン接続キットDPCK-SR5を使って、“ メモリースティック ”に記録した静止画をパソコンに取り込むことができます。

1　**電源スイッチを「メモリー」にする。**

2　**液晶画面またはファインダーに「PCモード」と表示される。**

　通常の操作はできなくなります。

詳しくはPictureGear 4.1 Lite、およびパソコンの取扱説明書をご覧ください。

“ メモリースティック ”に撮った画像を拡大する – メモリー再生ズーム

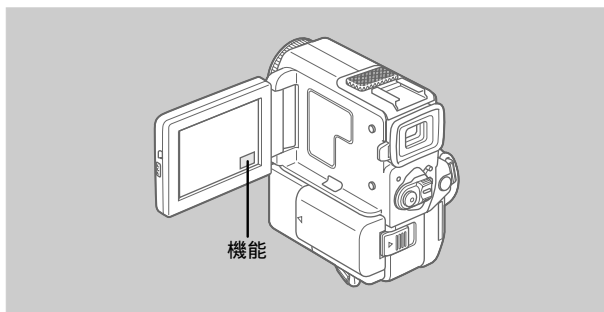
“ メモリースティック ”に記録した静止画を
拡大して見ることができます。

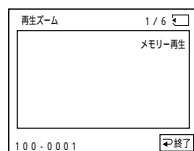
ご注意

再生ズームで拡大した“ メモリースティック ”内の画像を“ メモリースティック ”に記録することはできません。

再生ズームの画像は
i DV入力／出力端子から出力することはできません。

再生ズーム中に
画面表示／タッチパネルボタンを押すと表示枠が消えます。この時再生ズームは働きません。

画像の周辺部分は
拡大することはできますが、画面の中心には移動しません。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ ［メモリー再生中］に
「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。

❷ **「再生ズーム」を押す。**

再生ズーム画面が出る。

❸ **画面上の枠内の拡大したい部分を押す。**

押した部分を中心に2倍に拡大された画像が再生されます。さらに枠内の別の場所を押すと、押した部分を画面の中心に移動することができます。

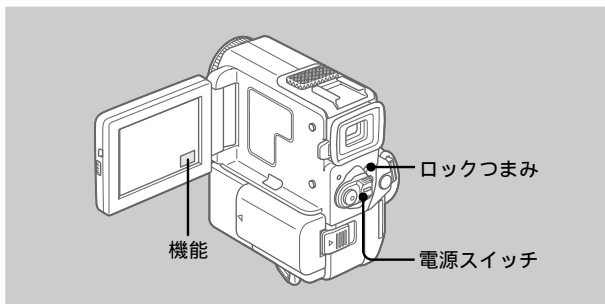
メモリー再生ズームを解除する

「終了」を押す。

静止画を順番に自動再生する – スライドショー

画像を順番に自動再生します。
記録された画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

テレビで見るときは
あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでください。

設定中に“ メモリースティック ”を入れ換えると
スライドショーは動作しません。“ メモリースティック ”を入れ換えたら、必ず初めから操作し直してください。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

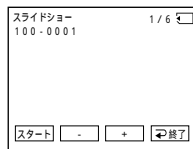
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。（97ページ）

❸ メニューで の項目の「スライドショー」を選び、「決定」を押す。（87ページ）

「実行できます」の表示が出る。

❹ 「スタート」を押す。

“ メモリースティック ”の画像が順番に再生される。

“メモリースティック”を使う

スライドショーを中止する／終了する

「⮐終了」を押す。

スライドショーを一時停止する

「ポーズ」を押す。

機能画面に戻す

「⮐終了」を押すと、ページ1画面に戻る。そのあと「閉じる」を押す。

お好みの画像からスライドショーを始める

手順4の前に「－」／「＋」で最初の画像を選んでおく。

大事な画像を残す – プロテクト

大事な画像を誤って消さないために、撮影した画像を選んで誤消去防止（プロテクト）指定ができます。

ご注意

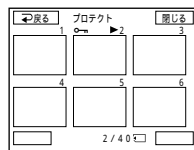
- 画像にプロテクトがかかっていても“メモリースティック”をフォーマットすると“メモリースティック”の内容はすべて失われます。フォーマットする前に内容を確認してください。
- “メモリースティック”の誤消去防止つまみが「LOCK」になっているとプロテクトは実行できません。

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ **本機またはリモコンの「インデックス」を押し、インデックスを表示する。**

❸ **「プロテクト」を押す。**
プロテクト画面になる。

❹ **プロテクトしたい画像を押す。**
プロテクトされた画像に「⊶」マークが表示される。

機能画面に戻す
「閉じる」を押す。

プロテクトを解除する
手順4でプロテクトを解除する画像を押す。解除された画像からは「⊶」マークが消える。

画像を消す – 消去

不要になった画像を消去できます。
撮影したすべての画像を一度に消去したり、
画像を選んで消去することもできます。

ご注意

- プロテクトされている画像は消去できません。プロテクトされている画像を消去したいときは、あらかじめプロテクトを解除してください。
- 一度消去した画像はもとに戻せません。消去する前に内容を確認してください。
- “メモリースティック”の誤消去防止つまみが「LOCK」になっていると消去は実行できません。

シングル画面表示のとき

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

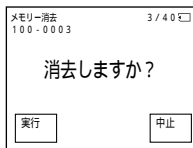
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ 削除したい画像を再生する。（110ページ）

❸ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。（97ページ）

❹ 「消去」を押す。

「消去しますか？」の表示が出る。

❺ 「実行」を押す。

画像が消去される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

画像の消去を中止する

手順5で「中止」を押す。

インデックス表示のとき

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ **本機またはリモコンの「インデックス」を押し、インデックスを表示する。**

❸ **「消去」を押し、消去したい画像を押す。**

消去する画像の番号が反転する。

❹ **「決定」を押す。**

「消去しますか？」の表示が出る。

❺ **「実行」を押す。**

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

画像の消去を中止する

手順5で「中止」を押す。

次のページへつづく

「消去中」と表示されているときは
電源スイッチを切り換えたり、ボタン操作を行わないでください。

すべての画像を消去する

プロテクトのかかっていない画像ファイルをすべて消去します。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**

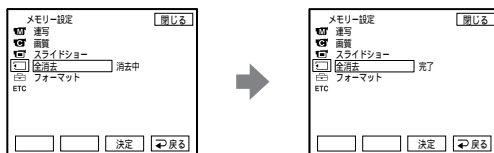
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）ににする。

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。（97ページ）**

❸ **メニューで▭の項目の「全消去」を選び「消去」にして「決定」を押す。（87ページ）**

「消去」が「消去します」の表示に変わる。

❹ **「決定」を押す。**

「消去中」と表示され、プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、「完了」と表示される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

全消去を中止する

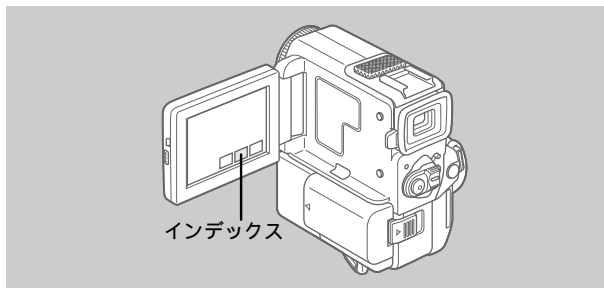
手順3で「戻る」を選び、「決定」を押す。

プリントマークを付ける – プリントマーク

“ メモリースティック ”に撮影した画像の中から印刷したい画像を直接指定することができます。後で印刷するときに便利です。

本機は印刷したい画像を選択できるDPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しています。

ご注意

“ メモリースティック ”の誤消去防止つまみが「LOCK」になっているとプリントマークは実行できません。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

1 電源スイッチを「メモリー」にする。

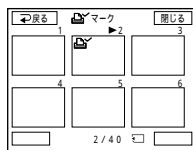
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

2 本機またはリモコンの「インデックス」を押し、インデックスを表示する。

3 「マーク」を押す。

「マーク」画面になる。

4 プリントしたい画像を押す。

マークを付けた画像に「」マークが表示される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

プリントマークを解除する

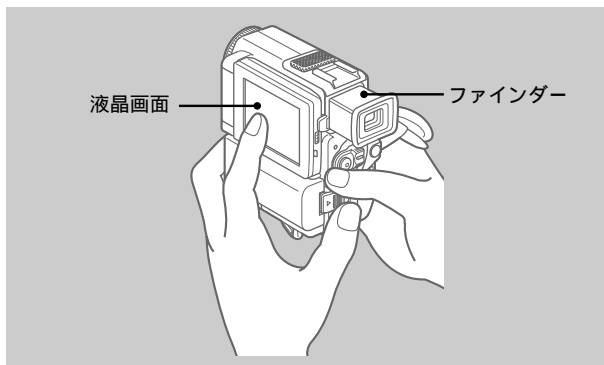
手順4でマークを解除する画像を押す。解除された画像からは「」マークが消える。

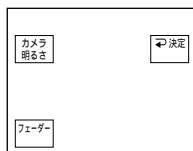
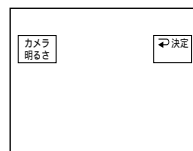
ファインダーを見ながら操作する

液晶画面を外側に向けて閉じてファインダーをのばすと、ファインダーを見ながら液晶画面を押して画面上のボタンを操作することができます。

ご注意

- 液晶画面はぬれた手で触れたり、ペンなどの先の尖ったもので押したりしないでください。
- ビデオモード中またはメモリー再生中は操作できません。

ファインダーに表示されない項目を操作したいときは
ファインダーと液晶画面を元の位置に戻し、液晶画面を見ながら操作してください。

❶ ［カメラモード中］または［メモリーカメラモード中］のとき
ファインダーをのばし、液晶画面を外側に向けて本体に閉じる。（21ページ）
液晶画面は消える。

❷ **液晶画面を押す。**
「カメラ明るさ」ボタン、「⮐決定」ボタン、「フェーダー」ボタン（カメラモードのみ）が出る。

電源スイッチが［カメラ］のとき

電源スイッチが［メモリー］のとき

❸ 液晶画面を押して希望の項目を選び、「⮐決定」を押す。

カメラ明るさ：「＋」「−」で調節する。

フェーダー：「フェーダー」を押すごとに次の順で項目が変わる。
フェーダー → モザイクフェーダー → バウンド → モノトーンフェーダー → オーバーラップ → ワイプ→ ドットフェーダー→（表示なし）

画面上のボタンを消すとき

「⮐決定」を押す。

その他

使えるビデオカセット

使えるビデオカセット

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。本機には、ミニDVカセットのみ使えます。Mini DVマークのついたカセットをお使いください。*

8、Hi8方式や、VHS、VHSC、S-VHS、S-VHSC、β、ED Beta、DV、8方式のビデオカセットは使えません。

* ミニDVカセットには、カセットメモリー付きのものと、カセットメモリーなしのものがあります。カセットメモリー付きカセットにはCM（Cassette Memory）マークが付いています。本機ではカセットメモリー付きのものを推奨しています。

カセットメモリー付きのカセットは、カセット自体にICメモリーを内蔵しています。本機はこのICメモリーを利用して、画像情報（録画日時、タイトルなど）を書き込んだり、呼び出したりします。
カセットメモリー機能は、テープ上に記録された信号を基準にして動作します。テープの冒頭や途中に1度無記録部を作ると、信号が不連続になり、タイトルが間違って表示されたり、サーチが誤動作することがあります。無記録部を作らないために、下記の操作を行ってください。

撮影の途中でテープを出し入れしたり、VTRモードで再生した場合には、次の撮影の前にエンドサーチボタンを押し、撮影終了位置に戻す。

無記録部があったり、テープ上の信号が不連続なものは、上記の点に注意して新たにテープの最初から最後まで撮影すれば、カセットメモリー機能を正しくお使いいただけます。
カセットメモリー機能付きデジタルビデオカメラレコーダーで録画したテープの上に、機能なしカメラレコーダーで録画したときも同じ症状が出ることがあります。

著作権保護信号について

再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、本機で再生した信号の他機での記録が制限されることがあります。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されているカセットは本機で録画することはできません。
このようなカセットを録画しようとすると液晶画面やファインダーに「ダビングプロテクトされています。録画できません。」の表示が現れます。

なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

カセットのCM 4K マークについて
この表示は、このカセットで4キロビットまでメモリーができることを示します。なお、本機は16キロビットのカセット（CM 16K マークが本体正面についています）まで対応しています。

これらは商標です。

Mini DV Digital Video Cassette

ミニDVカセットのマークです。

CM Cassette Memory

カセットメモリーのマークです。

音声多重記録テープを再生するとき

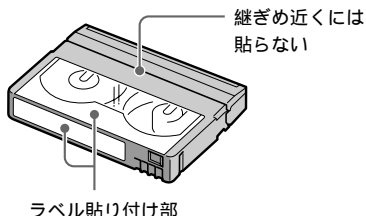
ステレオ音声で二重音声を記録したテープを再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。（87ページ）

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	左音声	主音声
「サブ」にする	右音声	副音声

本機では二重音声は記録できません。

ミニDVカセットについてのご注意

ラベルは指定の位置に

カセットにラベルを貼るときは、指定の位置に正しくお貼りください。故障の原因になります。

ミニDVカセットの使用後は

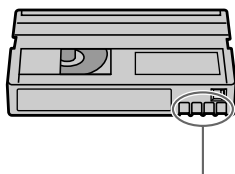
ご使用後は必ずテープを巻き戻してください。（画像や音声が乱れる原因となります）。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

カセットメモリー機能が働かないときは

カセットを入れなおしてください。金メッキ端子にゴミ等が付着していると、カセットメモリー機能が働かないことがあります。

金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、カセットメモリーを使う機能などが正しく働かないことがあります。

カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

i.LINK（アイリンク）について

本機のDV端子はi.LINKに準拠したDV入力/出力端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できる機器は通常１台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。
本機のように特に転送速度の記載がされていない機器の最大転送速度は「S100」です。
最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のDV端子付きビデオとつないでダビングする方法については55、70ページをご覧ください。
また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK（DV）対応機器（パーソナルコンピュータVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書を合わせてご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください
4ピン←→4ピン（DVダビング時）

i.LINK、i は商標です。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店にお問い合わせください。

ファインダーや液晶画面に「C:□□:□□」のような表示が出たときは、自己診断表示機能が働いています。134ページをご覧ください。

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
スタート／ストップボタンを押してもテープが走行しない。	•電源スイッチが「カメラ」になっていない。	•「カメラ」にする。	13
	•テープが終わりになっている。	•巻き戻すか、新しいカセットを入れる。	10、24
	•カセットが誤消去防止状態になっている。	•そのカセットで撮るなら誤消去防止ツマミを元に戻す。または新しいカセットを入れる。	10
	•テープがヘッドドラムに貼りついている (結露)。	•カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	138
電源が途中で切れる。	•撮影スタンバイ状態が5分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	•1度電源スイッチを「切」にしてから、もう1度「カメラ」にする。またはあらかじめテープを取り出しておく。	−
	•バッテリーが消耗している。	•充電されたバッテリーを取りつける。	
ファインダーの画像がはっきりしない。	視度調節が正しくない。	視度調節する。	15
手ぶれ補正が働かない。	メニューの「手ぶれ補正」が「切」になっている。	「入」にする。	87
オートフォーカスが働かない。	•手動ピント合わせになっている。	•フォーカスボタンを押し自動調節にする。	42
	•オートフォーカスが働きにくい状態で撮影している。	•手動でピントを合わせて撮影する。	42
フェーダーボタンが働かない。	デジタルエフェクト機能が働いている。	解除する。	34

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではありません。	ー	ー
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる。	スミア現象といい、故障ではありません。	ー	ー
画面に白点が出ることがある。	スローシャッターやキャンドルモード、SUPER NIGHTSHOTモードのときに出る現象で、故障ではありません。	ー	ー
液晶画面やファインダーに見慣れぬ画面が現れる。	カセットを入れずに電源を「カメラ」にして10分たつと、自動的にデモンストレーションが始まります。	カセットを入れるか液晶画面のどこかを押すとデモンストレーションが中断される。デモンストレーションが出ないようにすることもできます。	92
画像の色が正しくない。	NIGHTSHOTが「入」になっている。	「切」にする。	18
画面が白すぎて画像が見えない。	明るいところでNIGHTSHOTを「入」にしている。	「切」にする。 または暗いところで撮影する。	18
シャッター音が出ない。	メニューの「お知らせブザー」が「切」になっている。	「お知らせブザー」を「メロディー」または「ノーマル」にする。	87
テレビやコンピューターの画面を撮影すると黒い帯が出る。	ー	メニューの「手ぶれ補正」を「切」にする。	87
対面撮影中に液晶画面の画像が消える。	電源を入れた時やカセットを出し入れするときにおこる現象で、故障ではありません。（この時、電源ランプが点滅します。	ー	ー

再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ビデオ操作ボタンが働かない。	テープが終わりになっている。	テープを巻き戻す。	24
画像がぼけたり、映らなかったりする。	テレビのビデオ用チャンネルが正しく調整されていない。	調整し直す。	25
画像に横線が入る。またはぼけたり、映らなかったりする。	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	138
音声が小さい。または聞こえない。	•音量を最小にしている。 •メニューの「音声ミックス」が「ST2」側になっている。	•音量を大きくする。 •「音声ミックス」を調節する。	22 77
撮影日を画面に出して日付サーチできない。	•カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 •メニューの「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。 •テープの冒頭や途中に無記録部分がある。	•カセットメモリー付きカセットを使う。 •「入」にする。 ー	49、124 87 124
タイトルサーチできない。	•カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 •メニューの「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。 •タイトルが入っていない。 •テープの冒頭や途中に無記録部分がある。	•カセットメモリー付きカセットを使う。 •「入」にする。 •タイトルを入れる。 ー	47、124 87 78 124
アフレコした音声が聞こえない。	メニューの「音声ミックス」が「ST1」側になっている。	「音声ミックス」を調節する。	77
タイトルが出ない。	•メニューの「タイトル表示」が「切」になっている。 •画面表示が出ている。	•「入」にする。 •画面表示を消す。	87 23

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチをビデオ／カメラにしても動作しない。	•バッテリーが消耗している／入っていない／消耗が近い。	•充電されたバッテリーを取り付ける。	6、8
	•ACアダプター／チャージャーのプラグがコンセントからはずれている。	•コンセントに差し込む。	9
	•ACアダプター／チャージャーのモード切替スイッチが「充電」になっている。	•「ビデオ／カメラ」にする。	9
エンドサーチが働かない。	•カセットメモリーの付いていないカセットで、撮影後にカセットを取り出した。	ー	20、24
	•カセットを入れてからエンドサーチ操作をするまでに、１度も撮影していない。	ー	20、24
エンドサーチが誤動作する。	テープの冒頭や途中に無記録部分がある。	ー	124
ファインダーの画像が消えている。	•液晶画面が開いている。	•液晶画面を使って撮影しないときは液晶画面を閉じる。	15
	•ファインダーを縮めている。	•ファインダーを伸ばす。	13
バッテリーの消耗が早い。	•周囲の温度が極端に低い。	ー	ー
	•充電が不充分。	•満充電する。	6
	•バッテリーそのものの寿命。	•新しいバッテリーに交換する。	8
カセットが取り出せない。	•電源（バッテリーやACアダプター／チャージャー）がはずれている。	•電源をきちんと接続する。	8、9
	•バッテリーが消耗している。	•充電されたバッテリーを取り付ける。	6、8
[結露表示]や⏏が点滅し、カセット取出しスイッチ以外働かない。	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	138
カセットメモリー付きのカセットを使用しているのにカセットメモリー表示が出ない。	カセットの金メッキ端子が汚れている。または、ゴミが付着している。	金メッキ端子をクリーニングする。	125
テープ残量表示が出ない。	メニューの「テープ残量表示」が「オート」になっている。	常にテープ残量を出したいときは「テープ残量表示」を「入」にする。	87

“ メモリースティック ”操作中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
撮影ができない。	•すでにメモリー容量いっぱいに撮影している。	•不要な画像を消去してから撮影する。	118
	•“ メモリースティック ”が入っていない。	•“ メモリースティック ”を入れる。	96
	•フォーマット形式の異なる“ メモリースティック ”を入れた。	•フォーマットするか、別の“ メモリースティック ”を入れる。	90
	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	95
画像を消去できない。	•プロテクトされている。	•プロテクトを解除する。	117
	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	95
フォーマットが実行できない。	“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	95
全消去が実行できない。	“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	95
プロテクトが実行できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	95
	•プロテクト操作をしたい画像が表示されていない。	•「インデックス」を押して画像を表示する。	111
プリントマークが実行できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	95
	•プリントマーク操作をしたい画像が表示されていない。	•「インデックス」を押して画像を表示する。	111
オートフォトコピーが実行できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	95
	•バッテリーが消耗している。	•充電されたバッテリーを取り付ける。またはACアダプター／チャージャーを使う。	6 、8 、9

その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
タイトルを入れられない。	•カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 •カセットのメモリーがいっぱいになっている。 •カセットが誤消去防止状態になっている。 •無記録部分にタイトルを入れようとしている。	•カセットメモリー付きカセットを使う。 •ほかのタイトルを消去する。 •誤消去防止ツマミを元に戻す。 •録画された部分にタイトルを入れる。	78、124 80 10 78
カセットになまえを付けられない。	•カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 •カセットのメモリーがいっぱいになっている。 •カセットが誤消去防止状態になっている。	•カセットメモリー付きカセットを使う。 •不要なタイトルを消去する。 •誤消去防止ツマミを元に戻す。	84、124 80 10
i.LINKケーブル（DVケーブル）を正しく接続しているのにモニター画像が出ない。	—	i.LINKケーブル（DVケーブル）を一度ぬいてからもう1度接続し直す。	55
デジタルプログラムエディットが働かない。	•録画機側の入力切換ができていない。 •ソニー以外のDV機器と接続している。 •無記録部分にプログラム設定しようとしている。 •本機と録画機のタイミングが合わない。	•接続を確認して、録画機側の入力切換スイッチを設定しなおす。 •57ページの準備2からやり直す。 •録画された部分に設定し直す。 •タイミング補正をする。	54、55 57 63 61
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	•メニューの「リモコン」を「切」にしている。 •リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。 •リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。 •乾電池そのものの寿命。	•「入」にする。 •障害物を取り除く。 •⊕極と⊖極を正しく入れる。 •新しい乾電池に交換する。	87 — 144 144
外部入力しているのに液晶画面やTVに入力した画像が映らない。	メニューの「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」になっている。	「パネル」にする。	87

その他

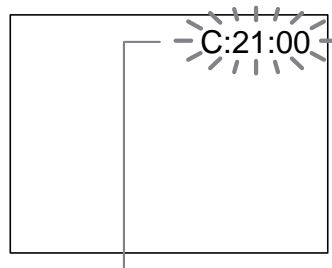
こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
おしらせブザーが5秒間鳴りつづける。	•結露している。	•カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。	138
	•本機に異常が発生している。	•カセットを入れ直し、再度操作し直す。	ー
バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	ー	再度満充電する。残量表示が正しく表示されます。	6
電源が入っているのに操作できない。	—	バッテリーまたはACアダプター／チャージャーの接続プレートを取りはずし、約1分後再びバッテリーまたはACアダプター／チャージャーの接続プレートを取り付け電源を入れる。それでも操作できないときは、リセットボタンを先のとがったもので押す。（この操作をすると日時を含めすべての設定が解除されます。）	8、9、143
タッチパネルのボタンが表示されていない。	画面表示／タッチパネルボタンを押した。	•液晶画面を軽く押す。 •本機またはリモコンの画面表示ボタンを押す。	ー 23
タッチパネルのボタンが働かない。	—	画面を調節（キャリブレーション）する。	140
ファインダー内の文字が反転する。	対面撮影時におこる現象で、故障ではありません。（出力したモニターでも反転しますが故障ではありません。）	ー	ー

自己診断表示 – アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。

これは本機が正しく動作していないときに、ファインダー（または液晶画面）にアルファベットと数字の5桁の表示でお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

ファインダーまたは液晶画面

自己診断表示
「C:□□:□□」：
お客様自身で正常に戻せる状態
「E:□□:□□」：
テクニカルインフォメーションセンターに相談していただく状態

表示	原因	対応の仕方	参照ページ
C:04:□□	“インフォリチウム”以外のバッテリーを使用している。	“インフォリチウム”バッテリーをご使用ください。	8
C:21:□□	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	138
C:22:□□	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	138
C:31:□□ C:32:□□	お客様自身で対応できる上記以外の状態になっている。	• カセットを入れ直し、再度操作し直す。 • 電源を一度取りはずし、取りつけ直してから再度操作し直す。	ー ー
E:61:□□ E:62:□□	お客様自身で対応できない状態になっている。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際は、表示の5桁すべてをお知らせください。 例：E:61:10	ー

お客様自身で対応できる場合でも、2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

警告表示とお知らせメッセージ

液晶画面とファインダーには、次のような表示が出ます。詳しい説明は、（　）内のページにあります。

• 表示は実際には黄色です。

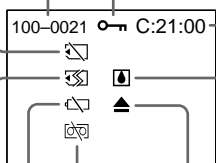
警告表示

ファイル関連の警告
遅い点滅
• ファイルが壊れている
• 扱えないファイル

“ メモリースティック ”関連の警告
遅い点滅
• “ メモリースティック ”が入っていない*（96）
速い点滅
• 認識できない“ メモリースティック ”が入っている*（90）

“ メモリースティック ”関連の警告
速い点滅
• “ メモリースティック ”が壊れている*（95）
• “ メモリースティック ”が正しくフォーマットされていない*（90）
• 対応していないサイズの“ メモリースティック ”が入っている

バッテリー消費時の警告
遅い点滅
• バッテリー残量が少ない
• バッテリー残量がない（6）
状況によってはバッテリー残量が5分から10分ほどでも警告表示が点滅することがあります。

画像プロテクトの警告
遅い点滅
• 画像が消去できないようになっている*（117）

自己診断表示（134）

結露の警告
速い点滅
• テープが結露している
テープを取り出し、電源をはずしてカセット入れを開けたまま約1時間放置する（138）

テープを取り出す必要がある警告
遅い点滅
• テープが誤消去防止状態になっている*（10）
速い点滅
• 結露している（138）
• テープが終わっている*（10、24）
• 自己診断表示が出ている*（134）

テープ関連の警告
遅い点滅
• テープ残量が5分を切った
• テープが入っていない*（10）
• テープが誤消去防止状態になっている*（10）
速い点滅
• テープが終わっている*（10、24）

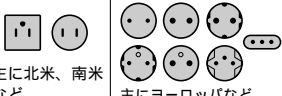
お知らせメッセージ

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが出ます。
メッセージにしたがって操作してください。

- バッテリーを取りかえてください（8）
- このバッテリーは古くなりました　取りかえてください（8）
- “インフォリチウム”バッテリーをつかってください（8）
- テープが終わっています*（10、24）
- カセットを入れてください*（10）
- カセットの誤消去防止ツマミを確認してください*（10）
- メニューで日付　時刻をあわせてください（93）
- ヘッドが汚れています／クリーニングカセットをつかってください（138）
- 結露しています　カセットを取り出してください*（138）
  （テープが入っていないとき、メッセージは「結露しています」になります。）
- ダビングプロテクトされています　録画できません*（124）
- 音声モードがちがいます　確認してください*（91）
- 録画モードがちがいます　確認してください*（91）
- テープを確認してください*（75）
- “i. LINK”ケーブルをぬいてください*（75）
- カセットメモリー付きカセットを入れなおしてください（124）
- カセットメモリーがいっぱいです*（79）
- メモリースティックを確認してください*（90、106）
- メモリースティックのメモリーがいっぱいです*（101）
- メモリースティックの誤消去防止ツマミを確認してください*（95）
- ファイルがありません*（100）
- メモリースティックを入れてください*（96）
- メモリースティック エラー*（96）
- メモリースティック フォーマットエラー*（90）
- メモリースティック ディレクトリーエラー*（110）

* 警告表示／お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

海外で使う

本機は外国でもお使いになれます

別売りのACアダプター／チャージャーAC-VQ11は、AC100V～240V・50/60Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。

また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。トラベルコンバーターはご使用にならないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米、南米など	主にヨーロッパなど
使用する変換アダプター	**不要です。** ACパワーアダプターのプラグを直接差し込みます。	

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国または地域（五十音順）

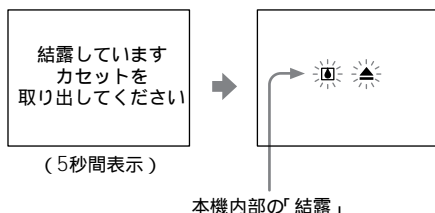
- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

時差補正機能について

海外でお使いになるときはメニューで「ETC時差補正」を選べば、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせることができます。詳しくは87ページをご覧ください。

お手入れ

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、ファインダーや液晶画面に下のように警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、カセット取り出しスイッチ以外は働きません。（テープが入っていないときは、⏏表示は出ません。）
電源を切ってカセット入れを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても⏏が点滅しなければ使用できます。

ヘッドをきれいにする

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。
次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM12CLDを10秒間使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

- 再生画面に四角いノイズが出る。
- 再生画面の一部が動かない。
- 再生画像が出ない。
- ファインダー内または液晶画面に「⊗ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。

正常画

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドは

長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、付属の液晶クリーニングクロスを使ってきれいにすることをおすすめします。

別売りの液晶クリーニングキット（KK-LC1）を使用するときは、クリーニングリキッドを直接LCDパネルにかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませてご使用ください。

バッテリーについて

- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。
- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度満充電にして、本機で使い切ってから保管してください。
- バッテリーは湿度の低い、涼しい場所で保管してください。

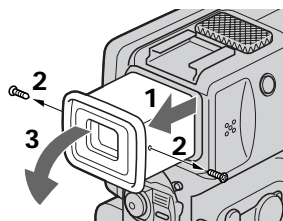
内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し3ヶ月近く全く使わないと完全に放電してしまいます。充電してからご使用ください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことはできます。

充電方法

本機を別売りのACアダプター／チャージャーを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切」にして24時間以上放置する。

ファインダーをきれいにする

1. **ファインダーをのばす。**
2. **両側のねじを2本はずす。**
3. **アイカップをはずす。**

アイカップの軸を落としたり、曲げたり、ケガをしないようにご注意ください。

❷ **アイカップの内側、ファインダー内部のゴミを、カメラ用のブロワーブラシなどで取り除く。**

❸ **❶と逆の動作でアイカップを取り付け、2のねじを締める。**

その他

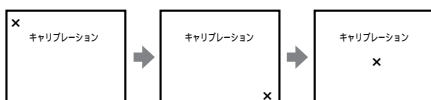
画面調節（キャリブレーション）について

タッチパネルのボタンを押したとき、反応するボタンにずれが生じることがあります。このような症状になったときは、次の操作を行ってください。

❶ **電源スイッチを「切」にする。**

❷ **テープを取り出して、接続ケーブル類をはずす。**

❸ **本体の画面表示／タッチパネルボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。その後約5秒間画面表示／タッチパネルボタンを押し続ける。**

❹ **“ メモリースティック ”の角などを使って**
1. **画面左上の×マークを押す。**
2. **画面右下の×マークを押す。**
3. **画面中央の×マークを押す。**

×マークは、左上から順に現れ、押すと消えます。正しい位置を押さなかった場合、左上からやり直しになります。

主な仕様

システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録音方式	回転2ヘッド 12ビット32kHz（ステレオ1、ステレオ2） 16ビット48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テープ速度	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画／再生時間	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	約3分30秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	1/4型CCD固体撮像素子 約68万画素（有効画素数：約34万画素）
ズームレンズ	カール ツァイス 10倍（光学）、120倍（デジタル） f=3.3〜33mm （35mmカメラ換算では42〜420mm） F1.7〜2.2 フィルター径30mm
色温度切り換え	自動追尾／HOLDホールド、屋内（3200K）、屋外（5800K）
最低被写体照度	11ルクス（F1.7） 0ルクス（NIGHTSHOT時）

入・出力端子

S1映像端子	入力／出力自動切り換え Y出力　1Vp-p 75Ω不平衡、同期負 C出力　0.286Vp-p 75Ω不平衡
映像音声端子	AVミニジャック 入力／出力自動切り換え 映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負 音声：327mV（47 kΩ負荷時）、出力インピーダンス2.2 kΩ 入力インピーダンス47 kΩ以上
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
デジタルI/O／ (リモート) 端子	特殊ミニミニジャック（Ø2.5）
マイク入力端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
i DV入力／出力端子	i.LINK（IEEE1394．4ピン特殊コネクター）

液晶画面

画面サイズ	2.5型
総ドット数	200,640ドット 横880×縦228

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力3.6V
消費電力（バッテリー使用時）	2.8W （ファインダー使用時） 3.6W （液晶画面使用時、明るさ標準）
動作温度	0℃〜+40℃
保存温度	–20℃〜+60℃
外形寸法（最大突起部を除く）	54×101×97mm （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約 450g（本体のみ）
撮影時総質量*	約 520g * バッテリーNP-FS11、テープ（DVM60）、レンズキャップ含む。
付属品	レンズキャップ（1） ワイヤレスリモコン（1） 単3型乾電池（リモコン用）（2） AV接続ケーブル（1） バッテリー端子カバー（1） 撮り方ビデオ（1） クリーニングクロス（1） 取扱説明書（1） 安全のために（1） 保証書（1） カスタマーご登録のお勧め（1） カスタマーご登録はがき（1） カスタマーご登録CD-ROM（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
このデジタルビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
”故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは
テクニカルインフォメーションセンター（本書の裏面参照）にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社はデジタルビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

各部のなまえ

使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

本体

レンズキャップ（13ページ）

液晶画面／タッチパネル（11、97ページ）

開く（液晶ロック解除）ボタン（15、21ページ）

電源ランプ（13ページ）

スタート／ストップボタン（13ページ）

バッテリーまたはバッテリー端子カバー（8ページ）

内蔵ステレオマイク（75ページ）

アクセサリーシュー

アイカップ

ファインダー（13ページ）

ロックつまみ（13ページ）

ヘッドホン🎧端子
ヘッドホンを使うときはステレオミニジャックのものをお使いください。

電源スイッチ（13ページ）

バッテリー取りはずしつまみ（8ページ）

フォーカスボタン（42ページ）

逆光補正ボタン（18ページ）

“メモリースティック”スロット（96ページ）

視度調節つまみ（15ページ）

カセットぶた（10ページ）

メモリー取りはずしつまみ（96ページ）

三脚用ネジ穴
三脚を使うときは、ネジの長さが6.5mm未満のものをお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

開く／⏏カセット取り出しつまみ（10ページ）

この純正マークは、ソニー（株）のビデオ機器関連商品が純正製品であることを表すマークです。

ソニー（株）のビデオ機器をお求めの際は, 純正マークもしくはソニーロゴタイプが表示されているビデオ機器関連商品をご購入されることをおすすめします。

スピーカー

画面表示／タッチパネルボタン（23ページ）

SUPER NIGHTSHOT**ボタン**（19ページ）

S1**映像端子**（25、28、68ページ）

リセット（RESET）**ボタン**（133ページ）

グリップベルト

アクセスランプ（96ページ）

NIGHTSHOT**スイッチ**（18ページ）

フォトボタン（26、100ページ）

ズームレバー（17ページ）

リモコン受光部

録画ランプ（13ページ）

ジャックカバー

赤外線（NIGHTSHOT**ライト**）**発光部**（18ページ）

ホールドグリップ（13ページ）

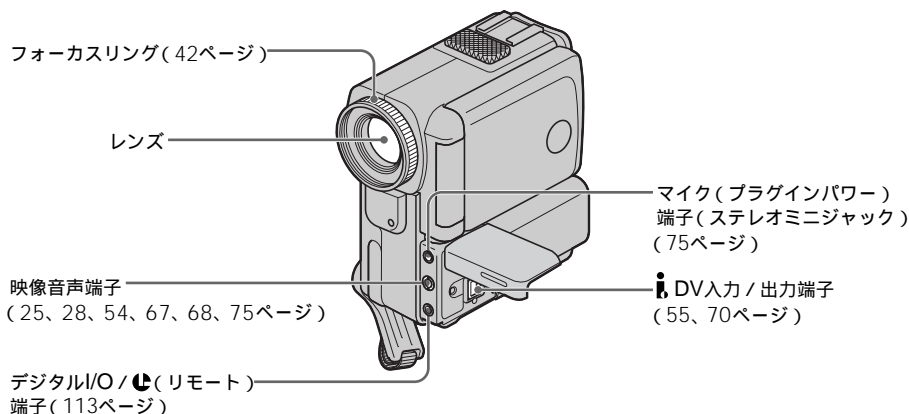
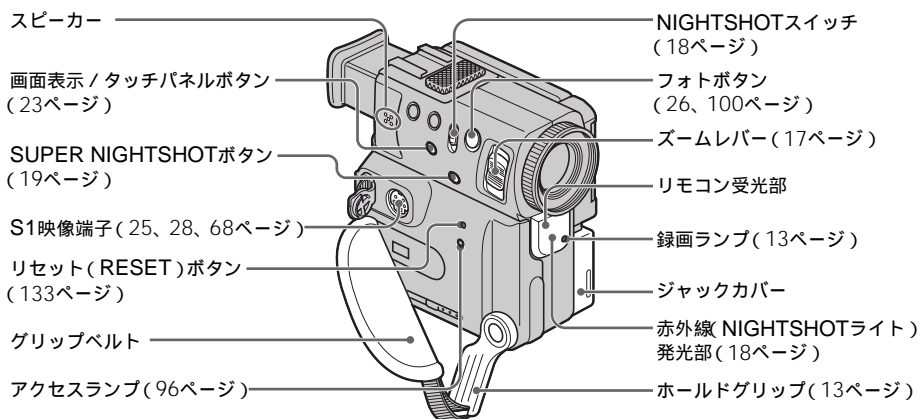
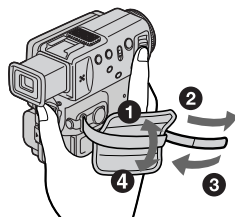
フォーカスリング（42ページ）

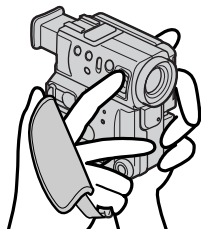
レンズ

映像音声端子（25、28、54、67、68、75ページ）

デジタルI/O／**Ⓛ**（**リモート**）**端子**（113ページ）

マイク（**プラグインパワー**）**端子**（**ステレオミニジャック**）（75ページ）

i DV**入力／出力端子**（55、70ページ）

グリップベルトのしめ方

グリップベルトはしっかりとしめてください。

ホールドグリップのにぎり方

ホールドグリップをしっかりとにぎってください。

LANC**Ⓛ**（**リモート**）**マークについて**

Ⓛ は、LANC端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

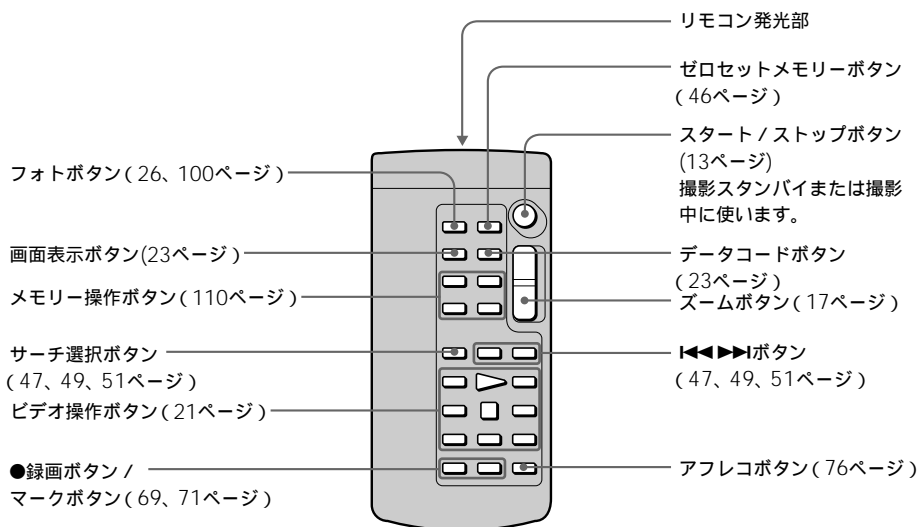
ヘッドホンを使うと

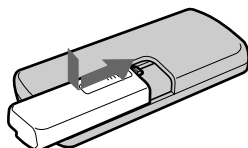
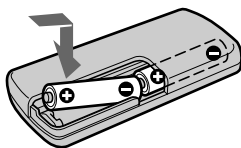
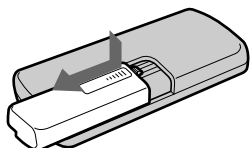
スピーカーから音は出ません。

別売りの外部マイクを使う場合

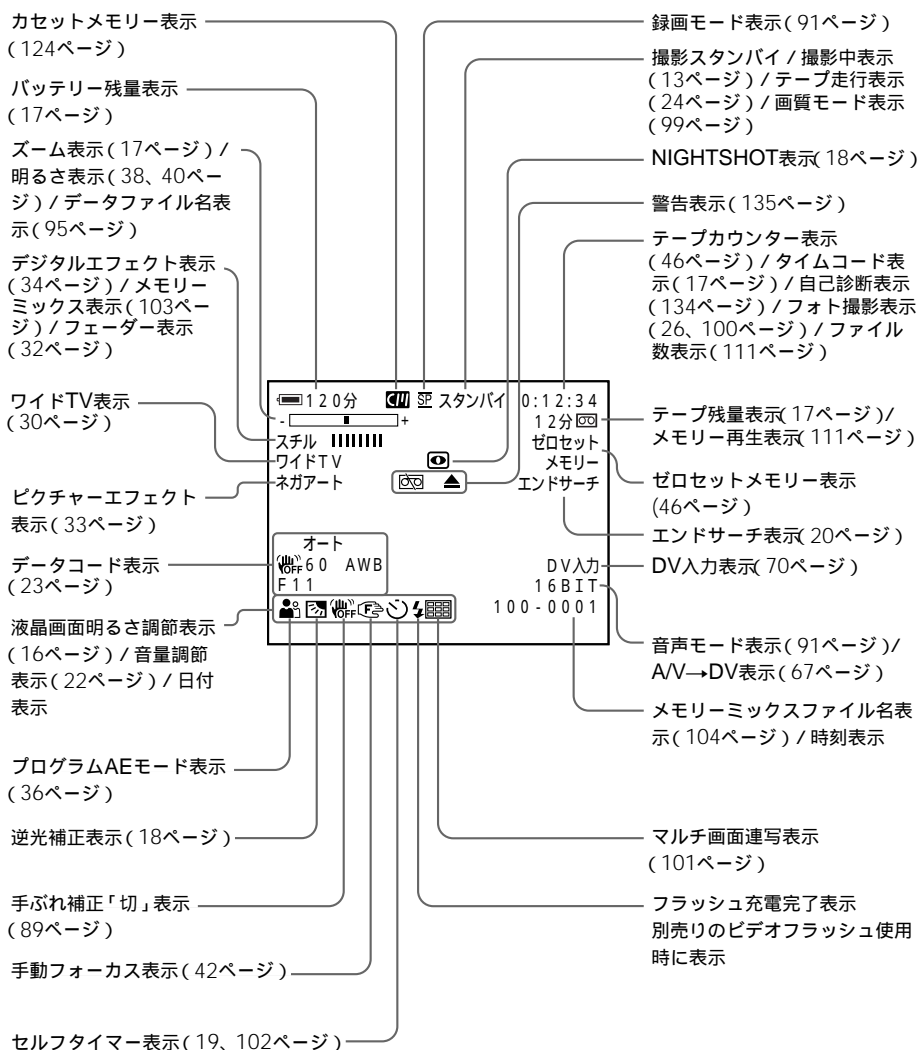
マイク(プラグインパワー)端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。

次のページへつづく

ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

❶ 押しながらずらす。 ❷ 入れる。 ❸ 元に戻す。

リモコンについて

- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

ファインダーと液晶画面の表示

こんな時にはこの機能

明るさが気になるときの機能［撮影中］

あたりが真っ暗なとき	NIGHTSHOT	18ページ
ろうそく程度の明かりしかないとき	キャンドル	36ページ
花火大会や夕暮れ、夜景を撮るとき	サンセット＆ムーン	36ページ
逆光（被写体の背後に光源がある）のとき	逆光補正	18ページ
結婚式・舞台など、一部分が明るいとき	スポットライト	36ページ
スキー場、海岸などとても明るいとき	ビーチ＆スキー	36ページ

インパクトある画像を作るための機能［撮影中］

場面転換する	フェードイン・フェードアウト	31ページ
静止画を撮りたい	テープフォト／メモリーフォト	26、100ページ
画像をデジタル処理したい	ピクチャーエフェクト／デジタルエフェクト	33、34ページ
被写体を引き立てたい	ソフトポートレート	36ページ
タイトルを入れたい	タイトル機能	78ページ

さりげなく自然な画像にするための機能［撮影中］

ズーム時の画質低下を押さえたい	メニュー：デジタルズーム	87ページ
意図的にピントを合わせたい	手動ピント合わせ	42ページ
撮りたいポイントを基準にして明るさを調節したい	フレキシブルスポット測光	40ページ
遠くの被写体にピントを合わせたい	風景	36ページ
ゴルフスイングなどの速さをとらえたい	スポーツレッスン	36ページ

撮影後の編集・お手持ちの機器との接続のための機能［撮影中］

ワイドテレビで見る予定のとき	ワイドTVモード	30ページ
パソコンに静止画を取り込みたい	“ メモリースティック ”	95ページ

撮影し終わったテープで行う機能［再生中］

撮影した画像にデジタル処理したい	ピクチャーエフェクト／デジタルエフェクト	43、44ページ
撮影した日時を確認する	データコード	23ページ
見たい場面にすばやく戻す	ゼロセットメモリー	46ページ
タイトルの入った場面を探す	タイトルサーチ	47ページ
静止画の場面を探す	フォトサーチ	51ページ
静止画だけ次々見る	フォトスキャン	53ページ
モノラル音声、副音声で聞く	メニュー：バイリンガル	87ページ
拡大して見る	再生ズーム／メモリー再生ズーム	45、114ページ

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

検索する

カスタマー登録のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではハンディカムをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマー登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「ハンディカム カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

カスタマー登録に関する問い合わせ
ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話： 03-3584-6651
受付時間：月～金曜日　午前10時～午後6時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルハンディカムとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ テクニカルインフォメーションセンター
本機をお使いになって不明な点、技術的なご質問、故障と思われるときのご相談窓口です。
電話： 0564-62-4979
受付時間： **月～金曜日　午前9時～午後5時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

D-Imaging World（デジタルイメージングワールド）
ハンディカムやデジタルスチルカメラを楽しく使っていただくためのホームページです。
http://www.sony.co.jp/di-world/

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。

ソニー株式会社
〒141-0001
東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ　●ナビダイヤル：0570-00-3311（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）　●携帯電話・PHSでのご利用は：03-5448-3311
●Fax：0466-31-2595　受付時間：　月～金 9:00～20:00、　土・日・祝日 9:00～17:00

Printed in Japan